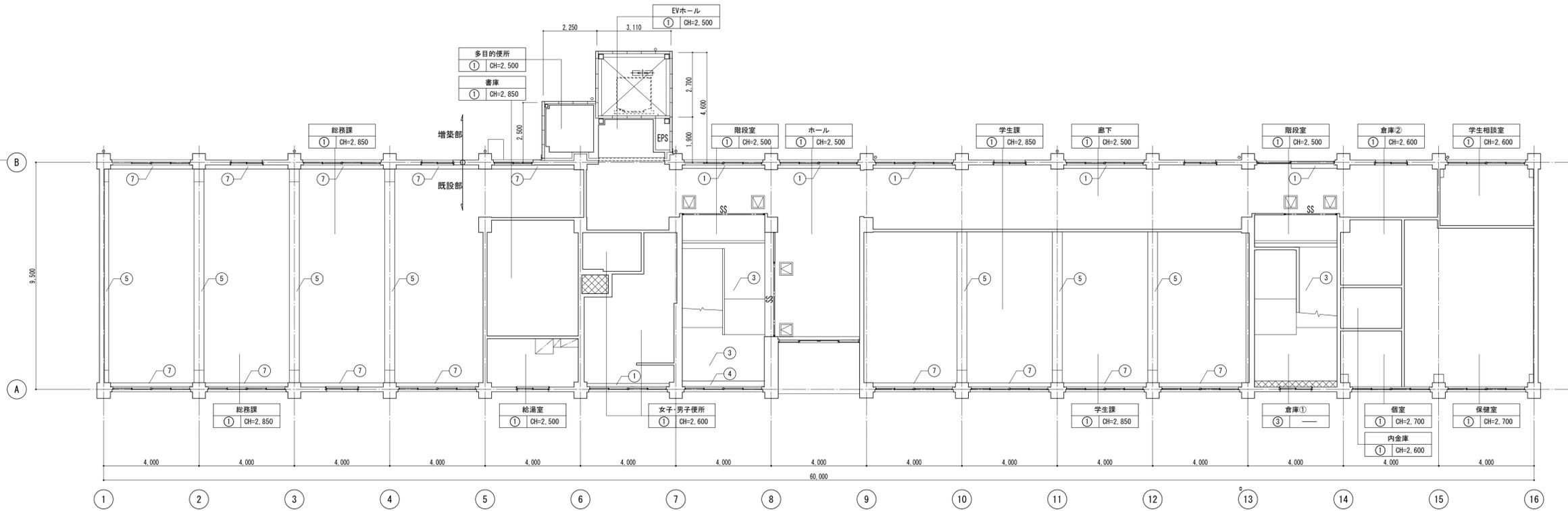
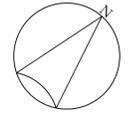


改修前 1階天井伏図 1/100

凡例

符号	
①	GB-Dt=9.5
②	300×300有孔*1ド張り VP
③	DR張り (GB-Rt9.5捨張り)
④	GB-Rt=9.5の上ビニール貼り
⑤	*1ドの上ビニール貼り
⑥	モルタル
⑦	梁型 フラスコ塗
⑧	フラスコ塗
B	ブライド*1ド: 木製 ※全て撤去
〓	天井材(下地共)撤去範囲を示す



改修後 1階天井伏図 1/100

1階天井開口補強

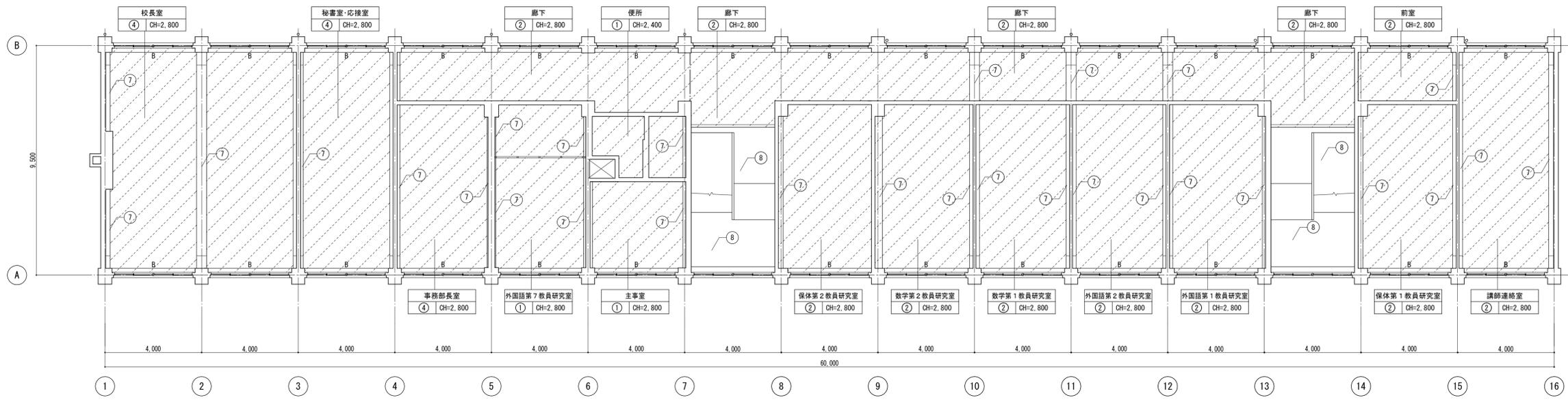
開口補強寸法	数量
350×350	5
560×610	4
650×1,050	1
1,000×1,000	9
点検口 450×450	11
150×1,250	17
220×1,250	-
220×2,500	-
点検口 450×450	8

凡例

符号	
①	GB-D張り
②	DR張り (GB-Rt9.5捨張り)
③	既設下地処理の上 EP
④	梁型 既設フラスコ塗 下地処理の上 EP-G
⑤	梁型 既設フラスコ塗 下地処理の上 EP
⑥	GB-Rt12.5の上EP
⑦	梁型 GB-Rt12.5+t9.5 GL張りの上EP-G
SB	スカー*1ド: 木製 (W=150×L=3,000)
〓	スカー開口塞ぎ
〓	天井点検口 450×450
〓	天井点検口 600×600

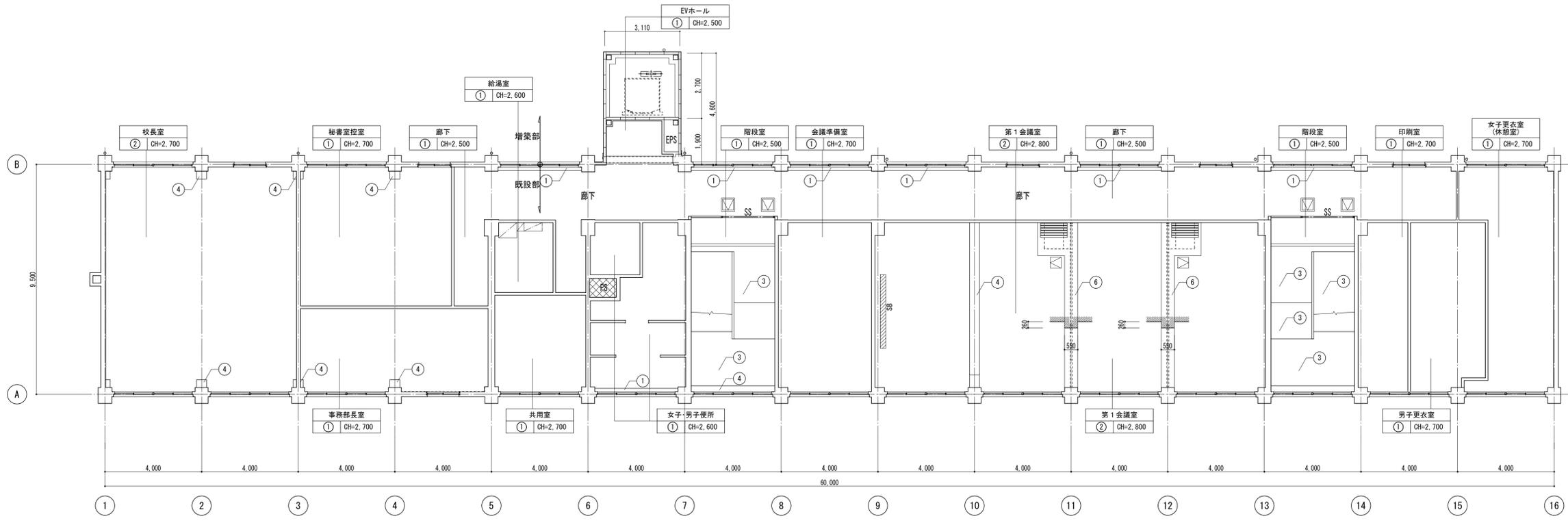
記事	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務	検 図	担 当	工事名称	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	日付	総数
											株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 犬飼 和行			鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	58 / 109	
														改修前後 1階天井伏図	縮尺	番号	
															1 / 100	A-48	

※A3版の場合は50%縮尺とする



改修前 2階天井伏図 1/100

凡例	
①	GB-Dt=9.5
②	300×300有孔スチール張り VP
③	DR張り (GB-Rt9.5捨張り)
④	GB-Rt=9.5の上ビニール貼り
⑤	スチールの上ビニール貼り
⑥	モルタル
⑦	梁型 フラッシュ
⑧	フラッシュ
B	ブライドスツル: 木製 ※全て撤去
	天井材(下地共)撤去範囲を示す



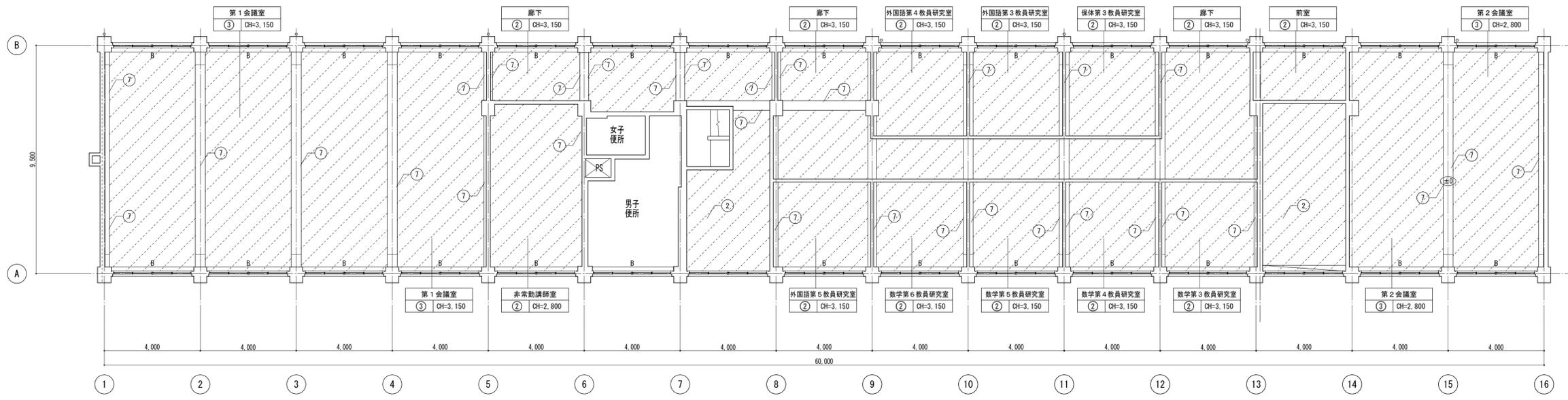
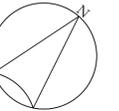
改修後 2階天井伏図 1/100

1階天井開口補強		
開口補強寸法	数量	
350×350	2	機械設備工事
560×610	5	
650×1,050	—	
1,000×1,000	10	
点検口 450×450	11	
150×1,250	10	機械設備工事
220×1,250	6	
220×2,500	8	
点検口 450×450	6	

凡例	
①	GB-D張り
②	DR張り (GB-Rt9.5捨張り)
③	既設下地処理の上 EP
④	梁型 既設フラッシュ 下地処理の上 EP-G
⑤	梁型 既設フラッシュ 下地処理の上 EP
⑥	GB-Rt12.5の上EP
SS	スチールスツル: 木製 (W=150×L=3,000)
	スチール開口塞ぎ
	天井点検口 450×450
	天井点検口 600×600

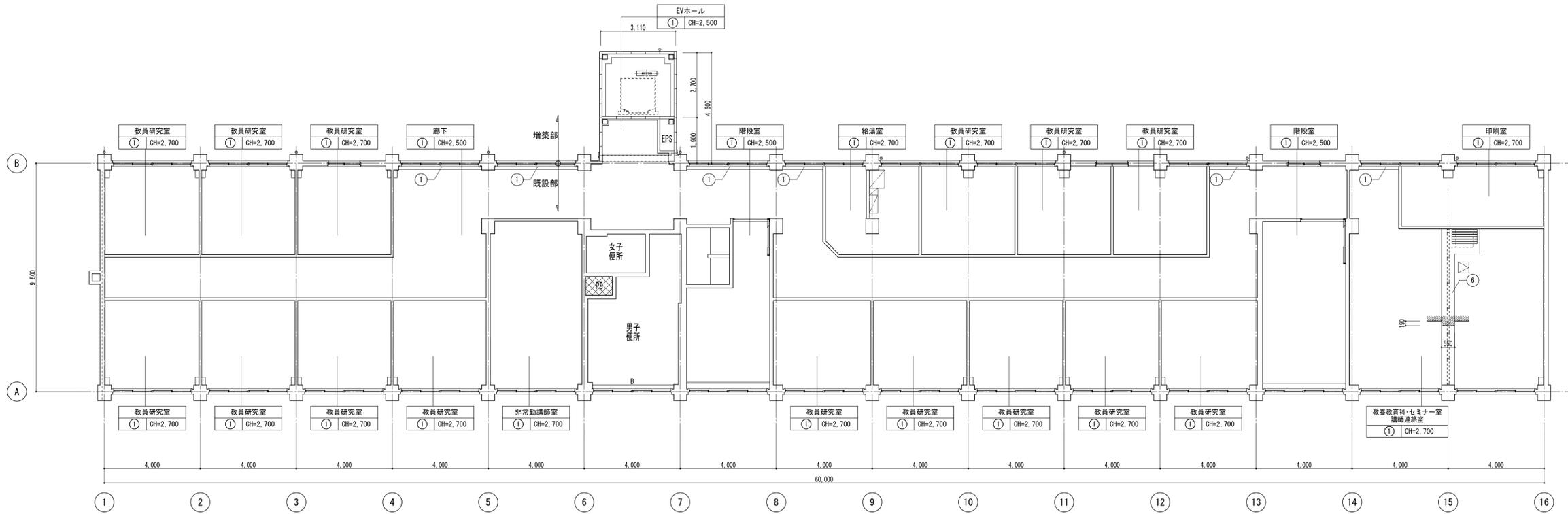
記事	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務	検 図	担 当	工事名称	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	日付	総数
											株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	改修前後 2階天井伏図	縮尺	番号
																1/100	A-49

※A3版の場合は50%縮尺とする



改修前 3階天井伏図 1/100

凡例	
①	GB-Dt=9.5
②	300×300有孔スチール張り VP
③	DR張り (GB-Rt9.5捨張り)
④	GB-Rt=9.5の上ビニール貼付
⑤	スチールの上ビニール貼付
⑥	モルタル
⑦	梁型フラッシュ
⑧	フラッシュ
B	ブラインドボックス: 木製 ※男子便所を除き、全て撤去
〇	天井材(下地共)撤去範囲を示す



改修後 3階天井伏図 1/100

1階天井開口補強		
開口補強寸法	数量	
350×350	2	
560×610	3	
650×1,050	-	
1,000×1,000	3	
点検口 450×450	3	
150×1,250	10	
220×1,250	-	
220×2,500	-	
点検口 450×450	12	

凡例	
①	GB-D張り
②	DR張り (GB-Rt9.5捨張り)
③	既設下地処理の上 EP
④	梁型 既設フラッシュ 下地処理の上 EP-G
⑤	梁型 既設フラッシュ 下地処理の上 EP
⑥	GB-Rt12.5の上EP
SP	スチールボックス: 木製 (W=150×L=3,000)
B	ブラインドボックス: 既設木製下地処理の上 SOP
〇	スチール開口塞ぎ
△	天井点検口 450×450

記事	仙臺高等専門学校	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務	検 閲	担 当	工事名称	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	日付	平成26年7月	総数	60 / 109
											株式会社 総企画設計	管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	改修前後 3階天井伏図	縮尺	1 / 100	番号	A-50

※A3版の場合は50%縮尺とする



記号 数量	AD 1	AD 1	AD 2 1	AD 3 1	AD 4 2	AD 5 13	AD 6 3	AD 7 1
姿図 寸法								
材質 形状	アルミ 引手・片袖FIX+2段引違い 片開き戸	アルミ 引手・片袖FIX+2段引違い 片開き戸	アルミ 引手・片袖FIX 片引き戸	アルミ 引手・片袖FIX+2段引違い 片開き戸	アルミ 片開き戸	複層ガラス(FL73+空気層76+FL74) 2層 女子更衣室…1	アルミ 引手FIX 引違い連窓	アルミ 引手FIX 引違い連窓
ガラス種類 厚	複層ガラス(FL73+空気層76+FL73)	複層ガラス(FL73+空気層76+FL73)	複層ガラス(FL73+空気層76+FL73)	複層ガラス(FL73+空気層76+FL73)	FL75	複層ガラス(FL73+空気層76+FL73) (FL73+空気層76+FL74)	複層ガラス(FL73+空気層76+FL73)	複層ガラス(FL73+空気層76+FL73)
建具金物	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式
使用場所	1階 廊下	1階 廊下	1階 廊下	1階 廊下	1階 廊下	1階…4箇所、2階…5箇所、3階…4箇所	1階 校長室、秘書室控室、3階 教員研究室	1階 校長室、秘書室控室、3階 教員研究室
改修内容	かぶせ工法 可動サッシ製網戸付	かぶせ工法 可動サッシ製網戸付	新設	かぶせ工法 可動サッシ製網戸付	かぶせ工法 可動サッシ製網戸付	かぶせ工法 可動サッシ製網戸付	かぶせ工法 可動サッシ製網戸付	かぶせ工法 可動サッシ製網戸付
記号 数量	AD 27	AD 5	AD 15	AD 1	AD 3-12 3a-1	AD 1	AD 2	
姿図 寸法								
材質 形状	アルミ 引手FIX 引違い連窓	アルミ 引手FIX 引違い連窓	複層ガラス(FL73+空気層76+FL74) 2層 女子更衣室…1, 男子更衣室…1	アルミ 2段引違い窓	アルミ 引違い窓	アルミ 引手FIX 引違い窓	アルミ 引手FIX 引違い窓	
ガラス種類 厚	複層ガラス(FL73+空気層76+FL73) (FL73+空気層76+FL74)	複層ガラス(FL73+空気層76+FL73)	複層ガラス(FL73+空気層76+FL73) (FL73+空気層76+FL74)	複層ガラス(FL73+空気層76+FL73)	3-複層ガラス(FL73+空気層76+FL73) 3a…(FL73+空気層76+FL74)	複層ガラス(FL73+空気層76+FL73)	複層ガラス(FL73+空気層76+FL73)	
建具金物	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	
使用場所	1階…6箇所、2階…7箇所、3階…14箇所	1階 学生課、2階 事務部長室、廊下、3階 廊下・給湯室	1階…4箇所、2階…6箇所、3階…5箇所	1階 総務課	1階…6箇所、2階…6箇所、3階…1箇所	倉庫①	1階 給湯室、3階 教員研究室	
改修内容	かぶせ工法 可動サッシ製網戸付	かぶせ工法 可動サッシ製網戸付	かぶせ工法 可動サッシ製網戸付	新設 可動サッシ製網戸付	新設 可動サッシ製網戸付	新設 可動サッシ製網戸付	新設 可動サッシ製網戸付	
記号 数量	AD 1	AD 1						
姿図 寸法								
材質 形状	アルミ 縦格子連窓	アルミ 縦格子出し窓						
ガラス種類 厚	複層ガラス(FL73+空気層76+FL73)	複層ガラス(FL73+空気層76+FL74)						
建具金物	7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式						
使用場所	教員研究室	多目的使用(増築部分)						
改修内容	新設	新設 可動サッシ製網戸付						
記号 数量	SD 1	SD 1	SD 1	SD 3	SD 1	SD 1	SD 3	
姿図 寸法								
材質 形状	スチール 引手付 片開きフラッシュ戸	スチール 引手付 片開きフラッシュ戸	スチール 片開き戸	スチール 片面フラッシュ戸	スチール 煙感連動防火防煙電動シャッター	スチール 煙感連動防火防煙電動シャッター	スチール 煙感連動防火防煙電動シャッター	
ガラス種類 厚	SOP 厚:60、引手:40	SOP 厚:60、引手:40	FW76.8	SOP 30(厚)	SOP シャッター:1.6	SOP シャッター:1.6	SOP シャッター:1.6	
建具金物	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	引手、下車、丸サッシ、7&#228;2重水切、付属金物一式	
使用場所	3階 階段(廊下)	3階 階段(廊下)	倉庫①	1-2-3階EV室(EPS)	1階 階段(廊下)	1階 階段(廊下)	1-2階 階段(廊下)	
改修内容	新設 遮煙性能付	新設 遮煙性能付	新設	新設	新設 遮煙性能付、手動閉鎖装置危険防止機構付	新設 遮煙性能付、手動閉鎖装置危険防止機構付	新設 遮煙性能付、手動閉鎖装置危険防止機構付	

- 【建具改修内容凡例】
- 新設建具符号を示す
  - 改修建具符号を示す

- 【建具符号】
- 【ガラス符号】
- AD : アルミ製戸 F : フロート板ガラス  
 AW : アルミ製窓 FL : 型板ガラス  
 AG : アルミガラリ PW : 網入り遮光板ガラス  
 SD : スチール製戸 FW : 網入り型板ガラス  
 LSD : スチール製軽量戸 TL : 強化ガラス

- 【一般事項】
1. 建具寸法は、現場にて再調整の上、決定とする
  2. 特記なき限り、建具金物はSUS製とする
  3. 既設クリーニング建具は全て、開閉調整・シーリング打替えを行うこと
  4. 両開き・親子開き建具は特記なき限り、フランス落し・順位調整器付とする
  5. アルミ製建具の仕上は特記なき限り、陽極酸化塗装複合膜とする
  6. アルミパネル仕様はアルミ樹脂複合板(発泡スチロールサンドイッチ)t=18とする
  7. アルミパネル穴加工は本工事とする  
アルミパネル穴加工寸法・数量
- | 加工寸法    | 数量 |    |    |    |
|---------|----|----|----|----|
|         | 1階 | 2階 | 3階 | 合計 |
| 75φ     | 4  | 8  | 30 | 42 |
| 100φ    | 31 | 14 | 38 | 83 |
| 150φ    | 5  | 9  | 2  | 16 |
| 200φ    | 2  | 2  | 2  | 6  |
| 250×250 | 1  | 4  | 2  | 7  |
8. 木製額縁木相t=25 SOPとする
  9. スチール製建具建具は、2F-8焼付塗装とする

記事	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	検査	担当	工事名称	日付	総数
	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務										検査	担当	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	62/109
	株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行										図面名称	担当	新設・改修建具表(1)	縮尺	番号
														1/100	A-52

※A3版の場合は50%縮尺とする



記号 数量	TR 1	TR 1	TR 1	TR 1						
姿図 寸法										
材質 形状	木製 トイレブース	木製 トイレブース	木製 トイレブース	木製 トイレブース						
仕上 見込	ポリ化粧合板フラッシュ板 40	ポリ化粧合板フラッシュ板 40	ポリ化粧合板フラッシュ板 40	ポリ化粧合板フラッシュ板 40						
ガラス種類 厚										
建具金物	ステンレスつなぎ(角笠木), ステンレス巾木, 戸当り(上部) 5φ ドリレジン, 表示付ラッチ錠(非常解放付), 7&M12φ	ステンレスつなぎ(角笠木), ステンレス巾木, 7&M12φ	ステンレスつなぎ(角笠木), ステンレス巾木, 戸当り(上部) 5φ ドリレジン, 表示付ラッチ錠(非常解放付), 7&M12φ	ステンレスつなぎ(角笠木), ステンレス巾木, 戸当り(上部) 5φ ドリレジン, 表示付ラッチ錠(非常解放付), 7&M12φ	ステンレスつなぎ(角笠木), ステンレス巾木, 戸当り(上部) 5φ ドリレジン, 表示付ラッチ錠(非常解放付), 7&M12φ	ステンレスつなぎ(角笠木), ステンレス巾木, 戸当り(上部) 5φ ドリレジン, 表示付ラッチ錠(非常解放付), 7&M12φ	ステンレスつなぎ(角笠木), ステンレス巾木, 7&M12φ	ステンレスつなぎ(角笠木), ステンレス巾木, 戸当り(上部) 5φ ドリレジン, 表示付ラッチ錠(非常解放付), 7&M12φ	ステンレスつなぎ(角笠木), ステンレス巾木, 戸当り(上部) 5φ ドリレジン, 表示付ラッチ錠(非常解放付), 7&M12φ	
使用場所	1階 女子便所	1階 男子便所	2階 女子便所	2階 男子便所	2階 男子便所					
改修内容	新設	新設	新設	新設	新設	新設	新設	新設	新設	
記号 数量	TR 1	TR 1	TR 1	TR 1						
姿図 寸法										
材質 形状	木製 トイレブース									
仕上 見込	ポリ化粧合板フラッシュ板 40									
ガラス種類 厚										
建具金物	ステンレスつなぎ(角笠木), ステンレス巾木, 戸当り(上部) 5φ ドリレジン, 表示付ラッチ錠(非常解放付), 7&M12φ									
使用場所	2階 女子便所	2階 女子便所	2階 女子便所	2階 女子便所	1階 男子便所					
改修内容	新設	新設	新設	新設	新設					
記号 数量	TR 14	TR 3	TR 1	TR 1	TR 1	TR 1	TR 1	TR 1	TR 2	
姿図 寸法										
材質 形状	アルミ FIX窓	アルミ FIX窓	アルミ FIX窓	アルミ 両袖ランマFIX 引き分け自動扉	アルミ 片開き扉戸	木製 片開きフラッシュ戸	木製 片開きフラッシュ戸			
仕上 見込	70	70	70	100	70	SOP 40(扉)	ポリ化粧合板 36(扉)			
ガラス種類 厚	FL73	FL73	FL75	PW76.8 (ランマ: F73)		F74				
建具金物	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	無目付センサー、引戸用錠 補助センサー、ドアエンジン、非常用電源、非常時自動開放装置 付属金物一式、衝突防止マーク	in'-'ロッド&、シリカ'-錠、丁番、 付属金物一式	本締付/ロッド錠、丁番3箇所、 付属金物一式	in'-'ロッド&、シリカ'-錠、丁番、 付属金物一式			
使用場所	時計塔	時計塔	R階 階段	1階 ホール	2階 女子便所	3階 西側階段	1階 女子便所、3階 男子便所			
改修内容	ガラス取替え	ガラス取替え	ガラス取替え	自動ドア調整、部品・建具交換	シリカ'-錠取替え	本締付/ロッド錠、丁番3箇所・ガラス取替え 塗装塗替え、建具調整	シリカ'-錠取替え			
記号 数量										
姿図 寸法										
材質 形状										
仕上 見込										
ガラス種類 厚										
建具金物										
使用場所										
改修内容										

【建具改修内容凡例】

●●●：新設建具符号を示す  
●●●：改修建具符号を示す

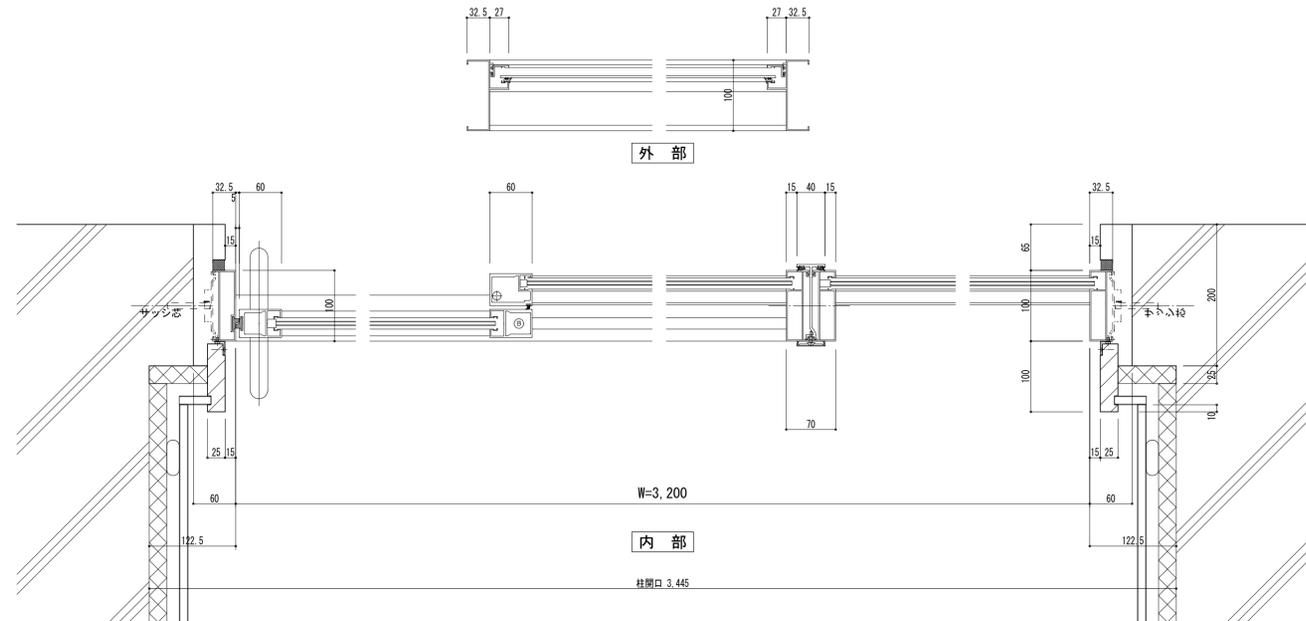
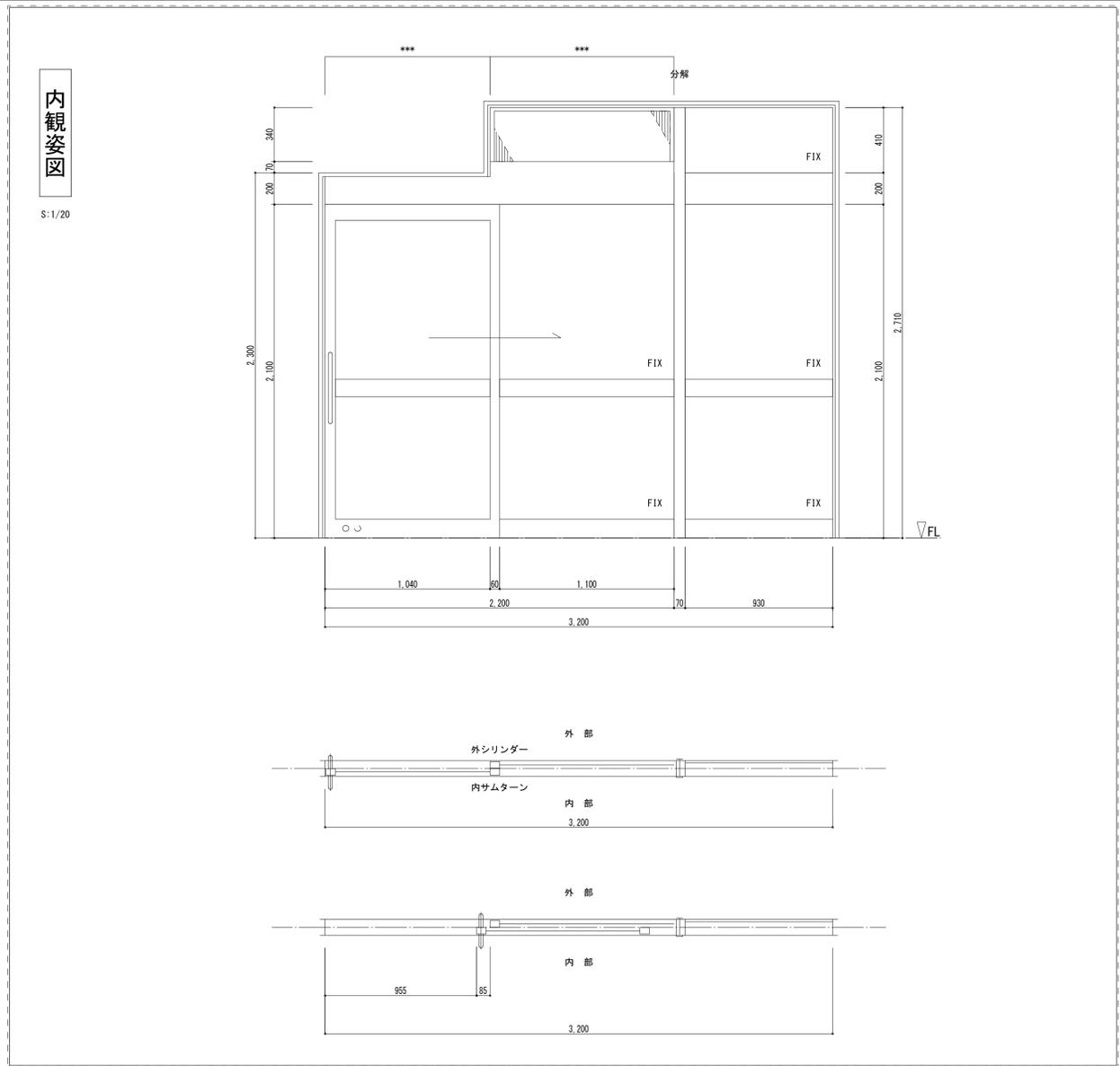
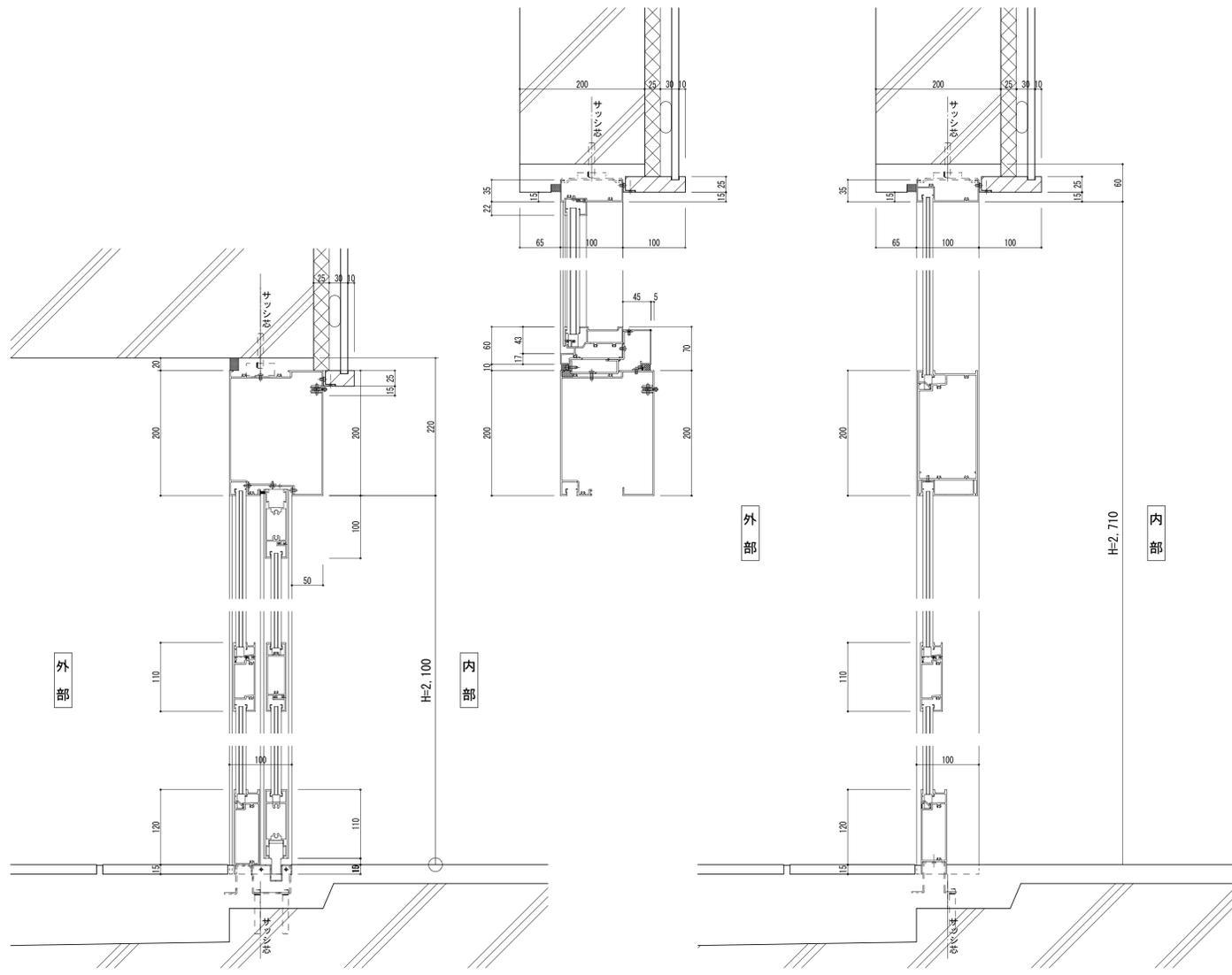
【建具符号】 【ガラス符号】  
AD：アルミ製戸 F L：フロート板ガラス  
AW：アルミ製窓 F：型板ガラス  
AG：アルミガラリ PW：網入り磨き板ガラス  
SD：スチール製戸 FW：網入り型板ガラス  
LSD：スチール製軽量戸 TL：強化ガラス

【一般事項】  
1. 建具寸法は、現場にて再調整の上、決定とする  
2. 特記なき限り、建具金物はSUS製とする  
3. 既設クリーニング建具は全て、開閉調整・シーリング打替えを行うこと  
4. 両開き・親子開き建具は特記なき限り、フランシス落し・順位調整器付とする  
5. アルミ製建具の仕上は特記なき限り、陽極酸化塗装複合皮膜とする  
6. アルミパネル仕様はアルミ樹脂複合板(発泡スチロールサンドイッチ)t=18とする  
7. アルミパネル穴加工は本工事とする  
8. 木製顔縁米相t=25 SOPとする  
9. スチール製建具は、ステンレス焼付塗装とする

記事	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務	検 図	担 当	工事名称	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	日付	総数
											株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	新設・改修建具表(3)	縮尺	番号
															1/100	A-54	

※A3版の場合は50%縮尺とする

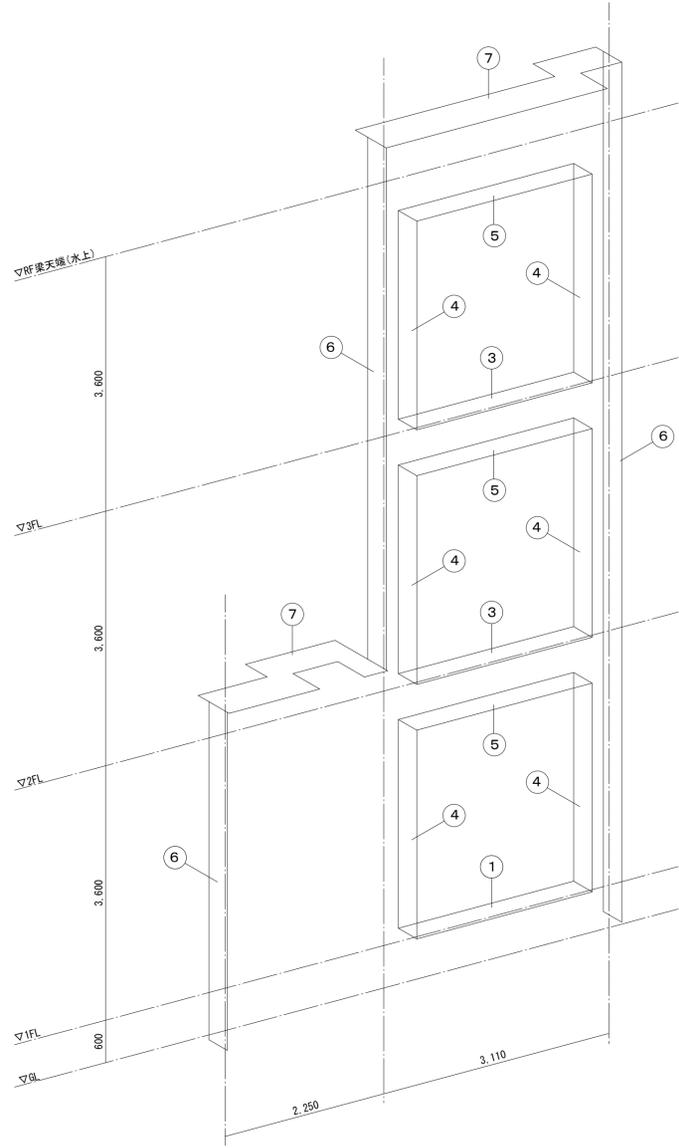




記事	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	検 図	担 当	工事名称	日付	総数
										鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務			鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	66 / 109
										株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番号
													アルミ製建具詳細図(2)	1 / 5-20	A-56

※A3版の場合は50%縮尺とする

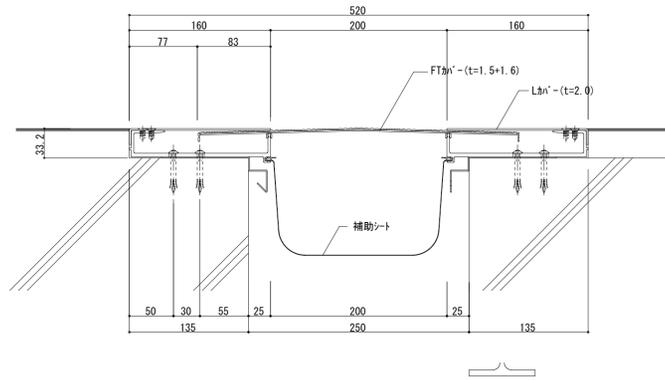




① 床+床 (ステンレス製)

H25-SFX S=1:4

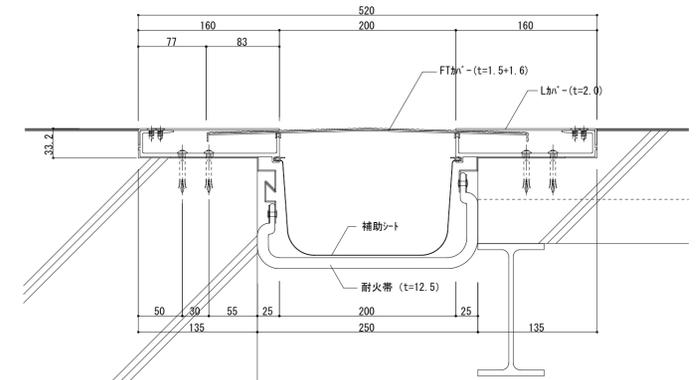
クリアランス 250  
可動量(X) +125-125



③ 床+床 (ステンレス製) 耐火仕様

H25-SFX S=1:4

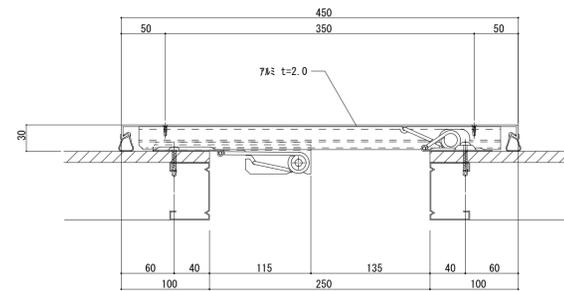
クリアランス 250  
可動量(X) +125-125



④ 内壁+内壁 (アルミ製)

H25-AUW S=1:4

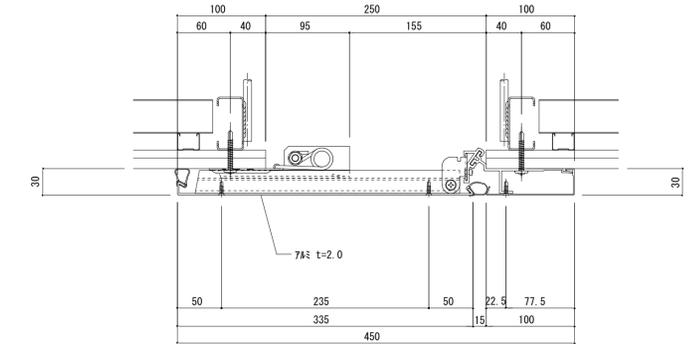
クリアランス 250  
可動量(X) +125-125



⑤ 天井+天井 (アルミ製)

H25-ACW S=1:4

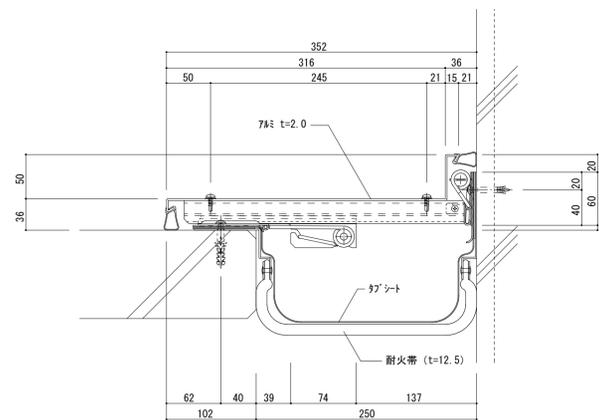
クリアランス 250  
可動量(X) +125-125



⑥ 外壁コーナー (アルミ製) 耐火仕様

H25-AEWC S=1:4

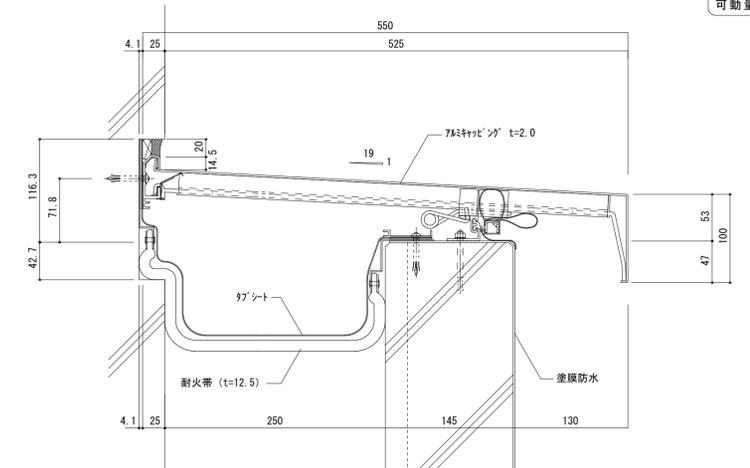
クリアランス 250  
可動量(X) +125-125



⑦ 屋根+外壁 (アルミ製) 耐火仕様

H55-APW S=1:4

クリアランス 250  
可動量(X) +125-125

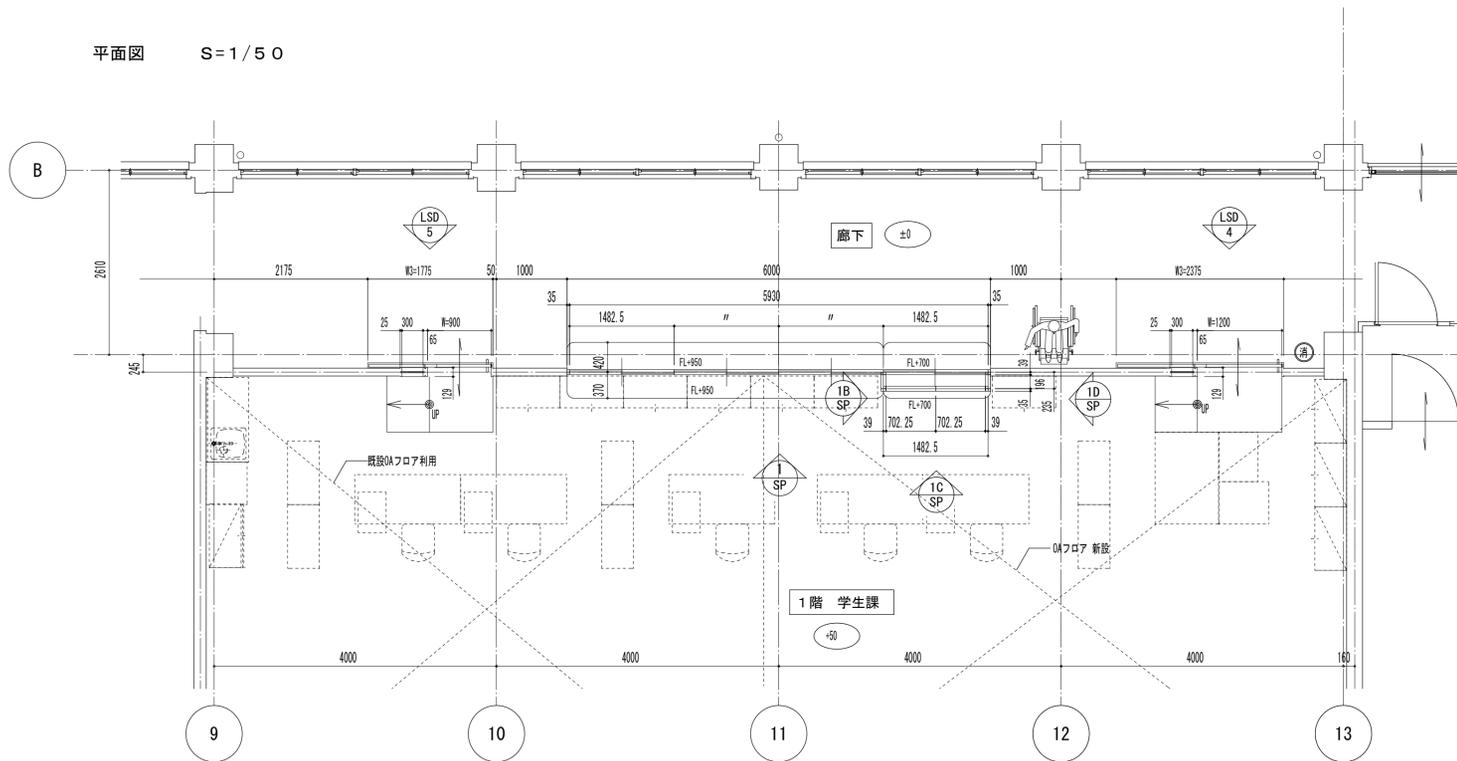


記事	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名
										鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務
										株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行

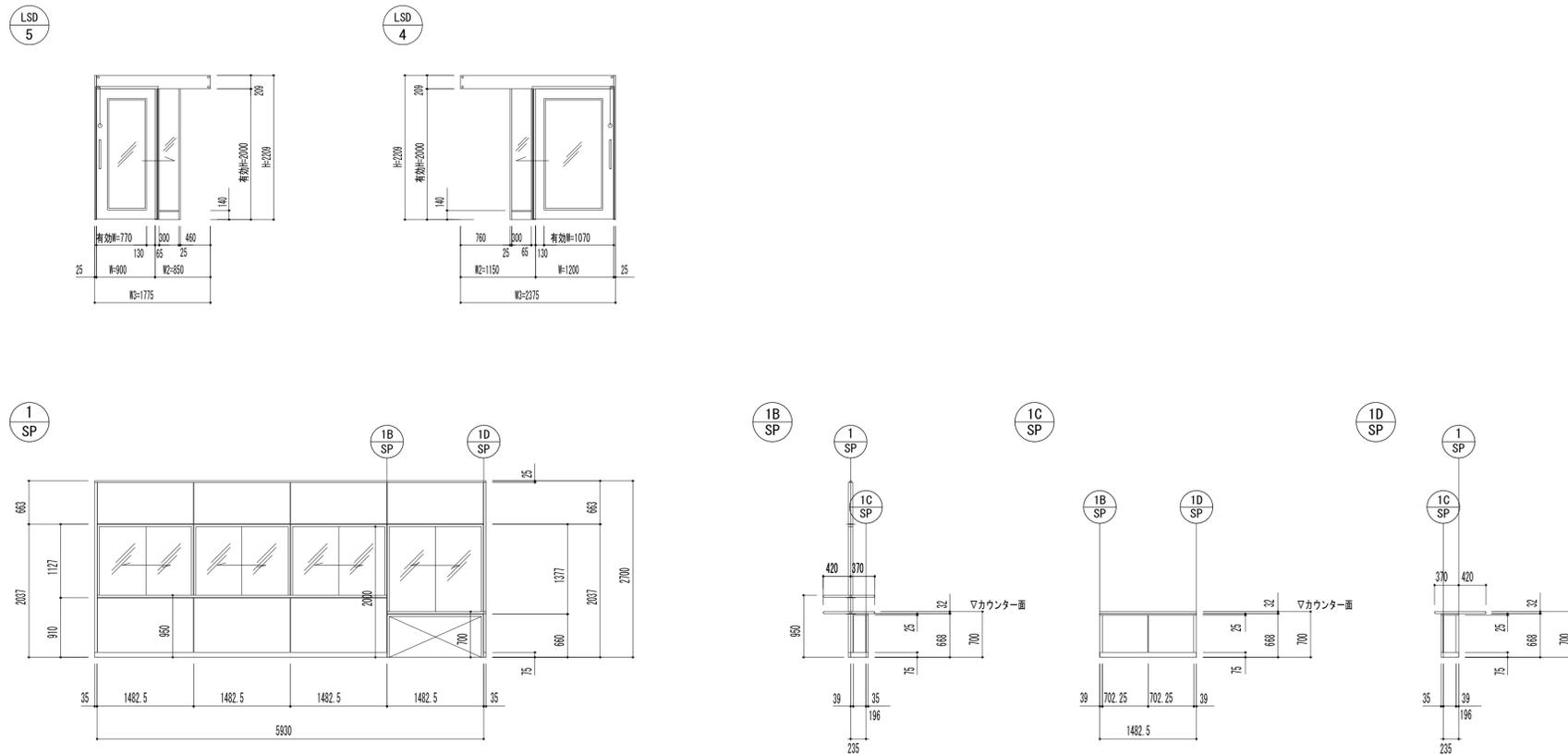
検 図	担 当	工事名称	日付	総数
		鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	68/109
		図面名称	縮尺	番号
		EV棟 Exp. j詳細図	1/4	A-58

※A3版の場合は50%縮尺とする

平面図 S=1/50



展開図 S=1/50

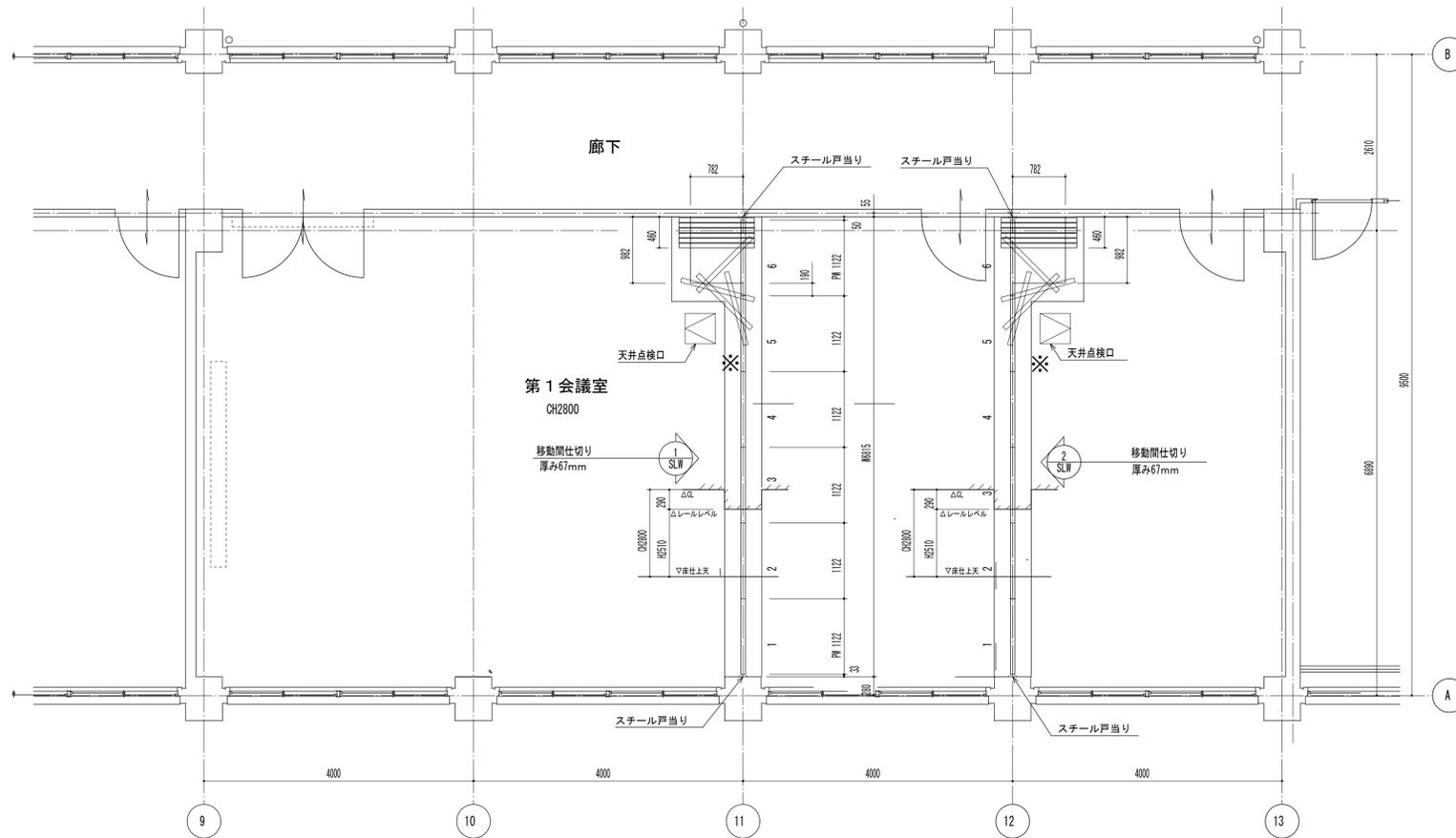


記事	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	校 図	担 当	工事名称	日付	総数
										鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務			鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	69/109
										株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行			学生課パーティション 詳細図(1)	縮尺	番号
														1/50	A-59

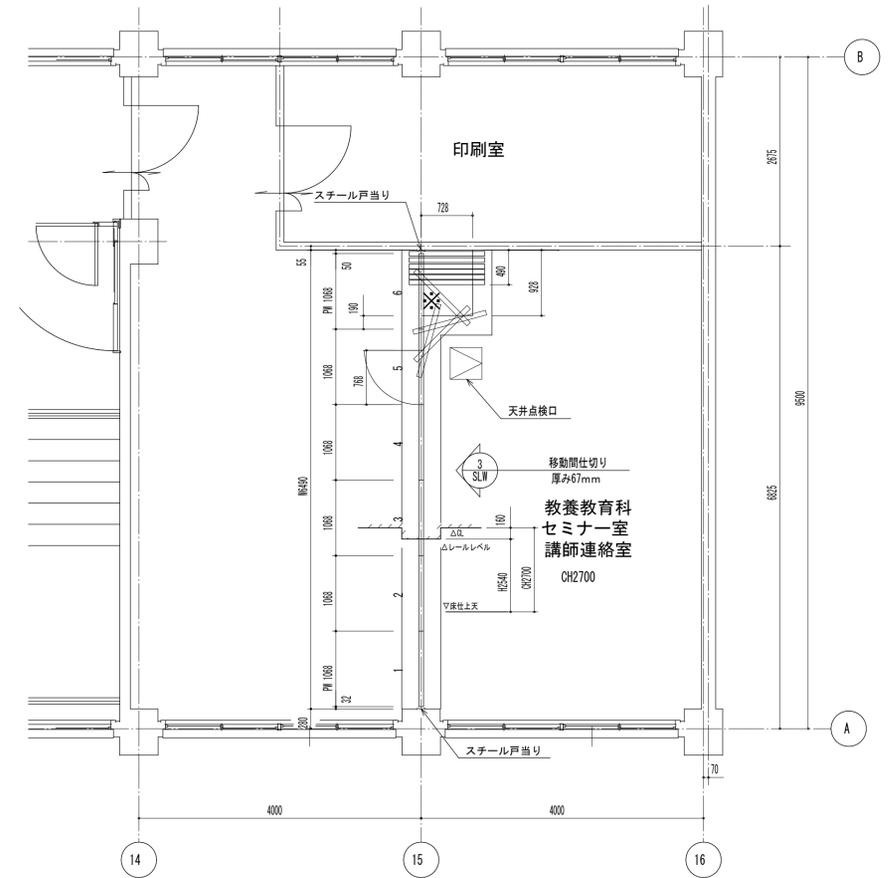
※A3版の場合は50%縮尺とする



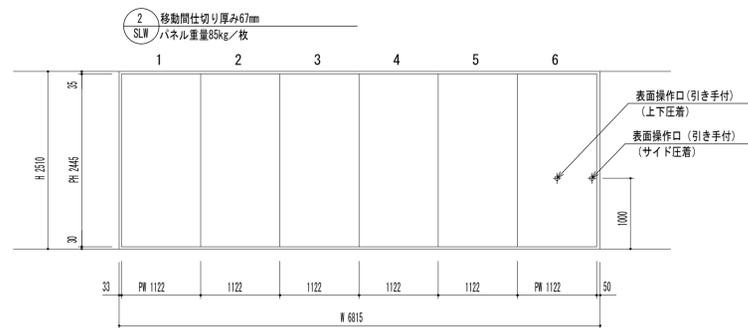
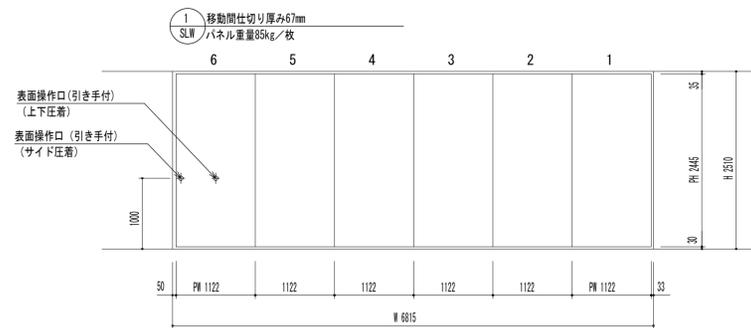
# 参考図



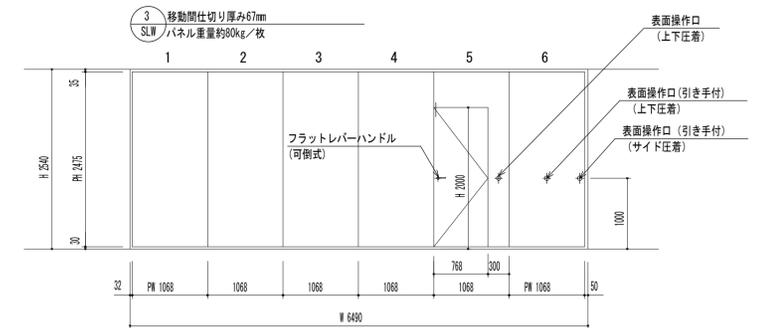
2階平面図 S=1:50  
※操作口取付側



3階平面図 S=1:50  
※操作口取付側



展開図 S=1:50

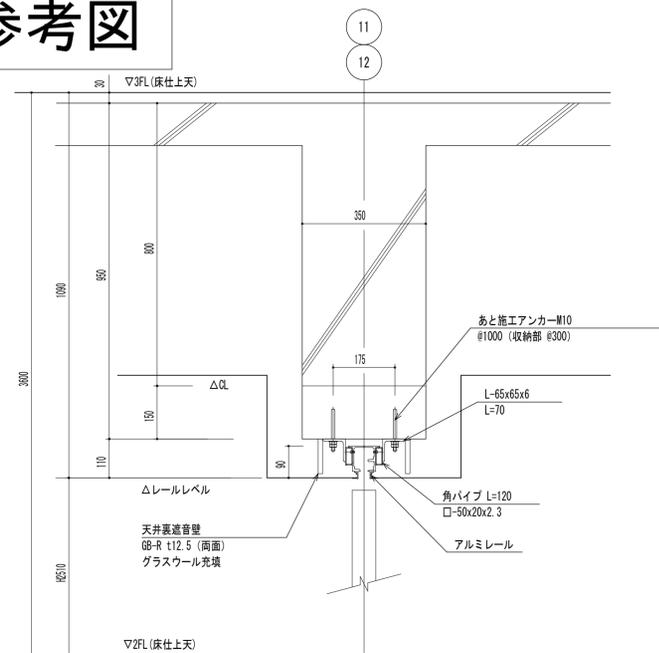


展開図 S=1:50

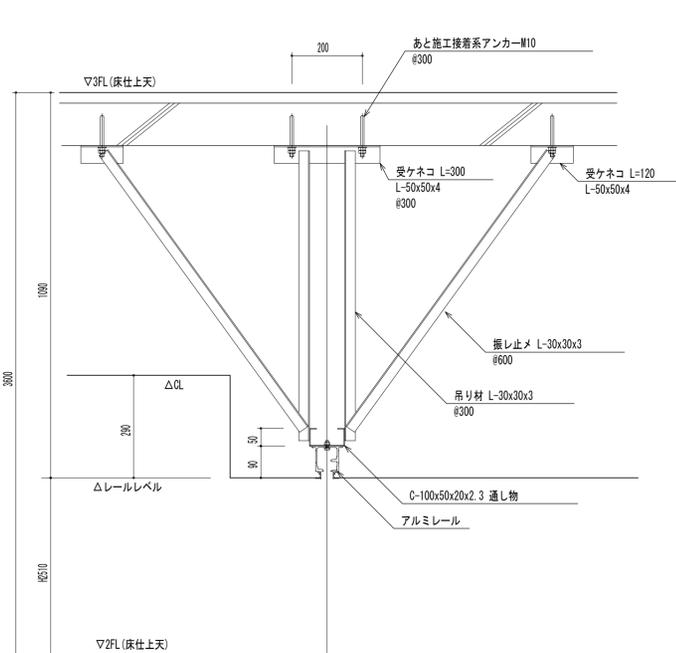
記 事	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務	検 図	担 当	工事名称	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	日付	総数
	仙臺高等専門学校									株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士 (大匠) 第270315号 犬飼 和行				図面名称	【参考図】移動間仕切り詳細図(1)	平成26年7月	71/109
																縮尺	番号
																1/50	A-61

※A3版の場合は50%縮尺とする

# 参考図



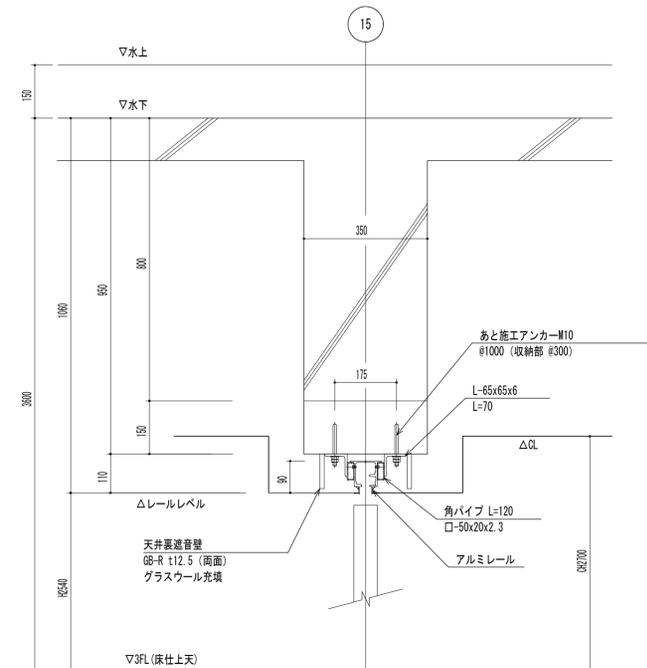
(間仕切り部)



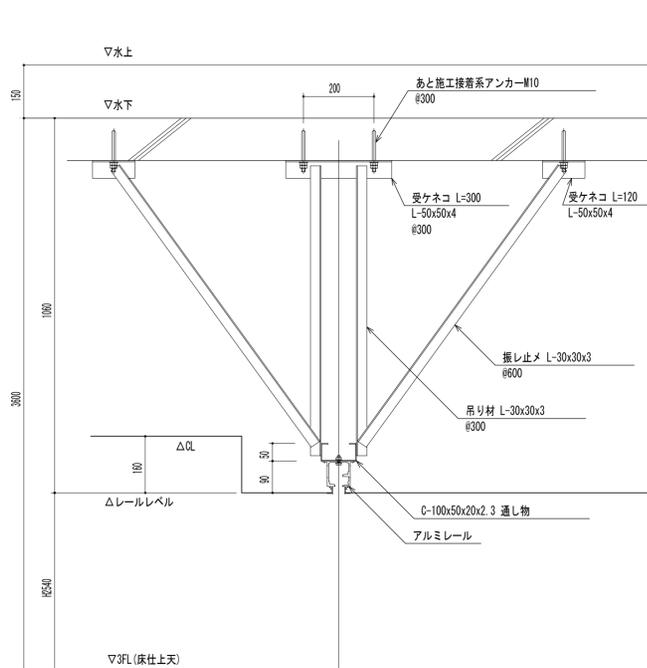
(収納部)

1 SLW 2 SLW

レール取付断面図 S=1:10



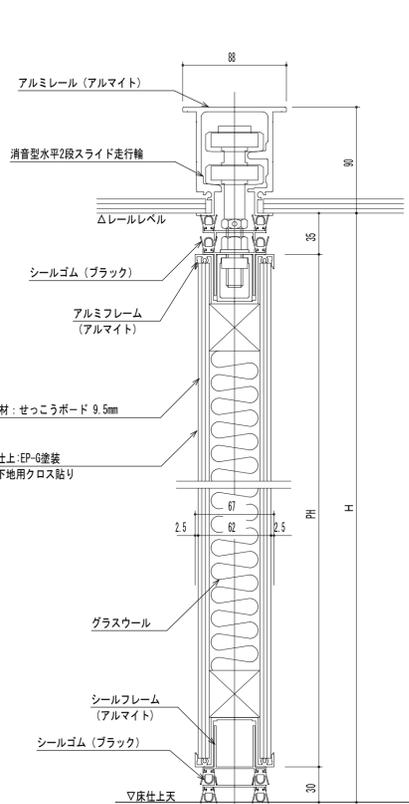
(間仕切り部)



(収納部)

3 SLW

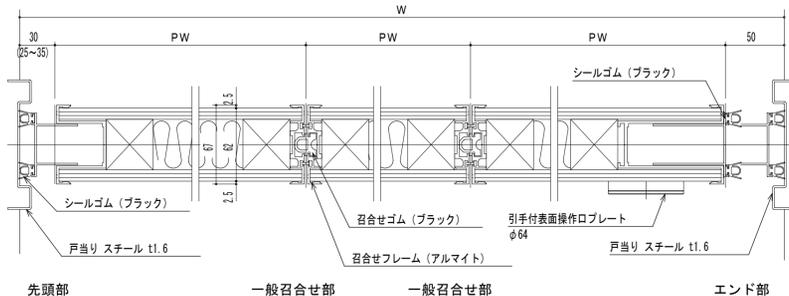
レール取付断面図 S=1:10



縦断面詳細図 S=1:3

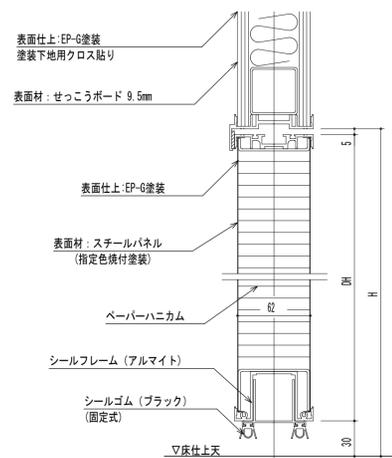
移動間仕切り 厚み67mm

レール仕様	レール	アルミ押出型材ハンガーレール(アルマイト処理) コーナー部 直角レール
ランナー仕様	走行輪	消音型水平2段スライド走行輪(ベアリング内蔵)
	吊ボルト	吊14
パネル仕様	表面仕上	EP-G塗装、塗装下地用クロス貼り
	表面材	せつこうボード 9.5mm
	充填材	グラスウール 32kg/m <sup>3</sup> ・t=40mm
	骨組	木枠(LVL)
	フレーム	アルミ押出型材(アルマイト処理)
	召合せ	固定ゴムハメ合
	壁面シールド	機械駆動式
	上部シールド	機械駆動式
	下部シールド	機械駆動式

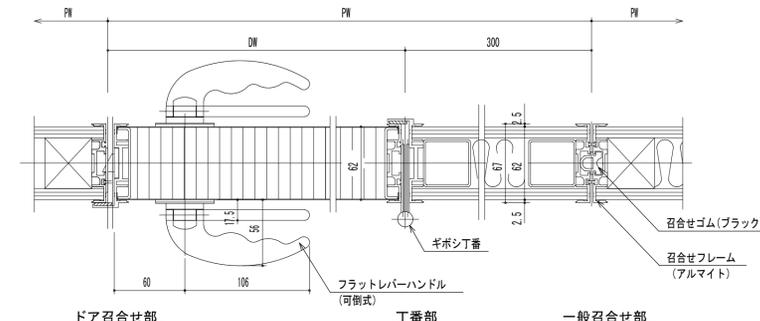


横断面詳細図 S=1:3

<移動間仕切り 厚み67mm>



ドア縦断面詳細図 S=1:3

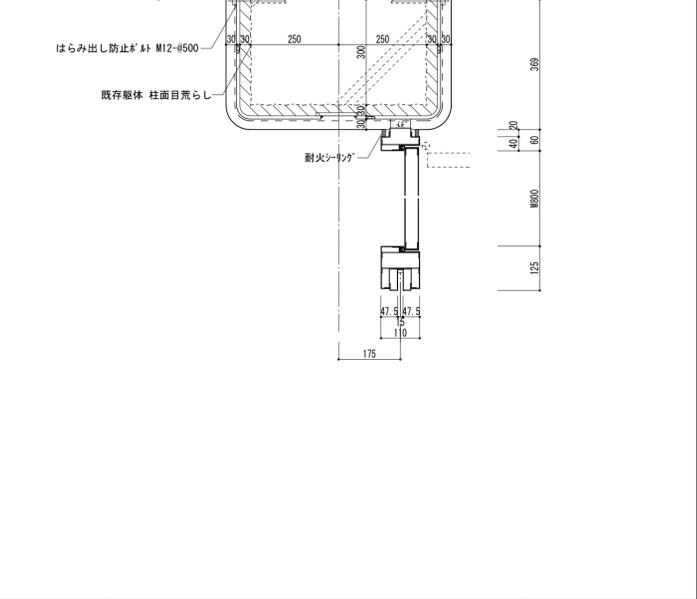
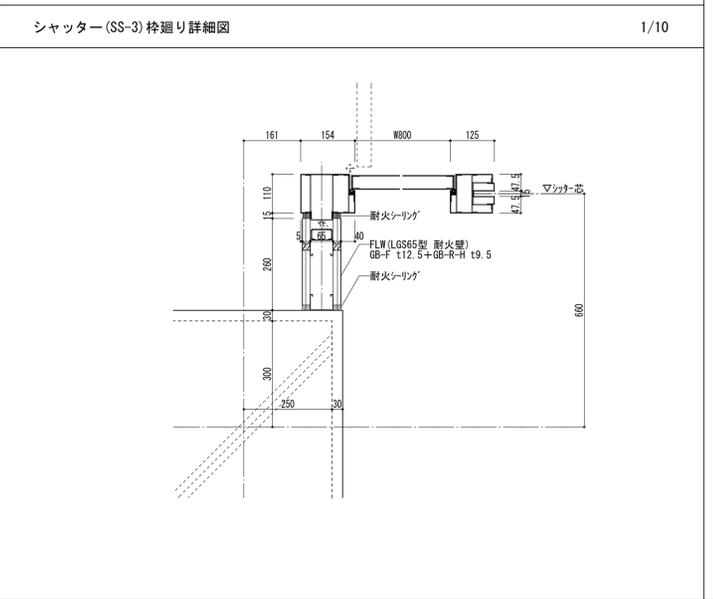
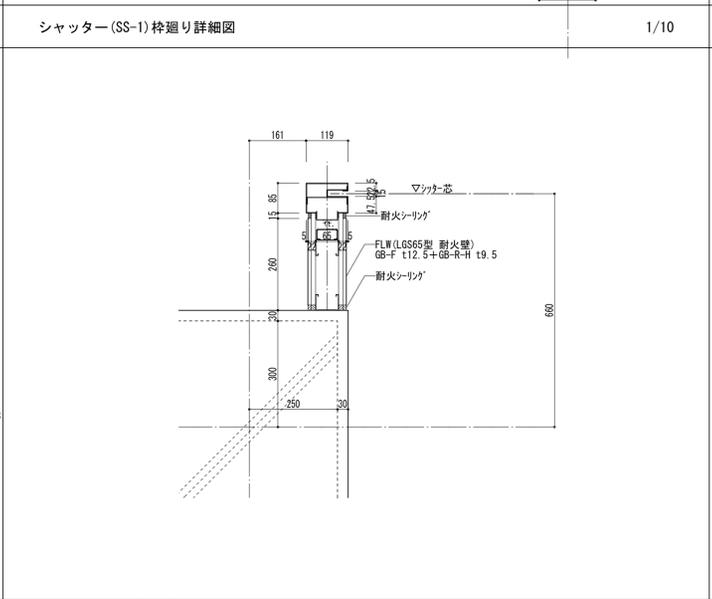
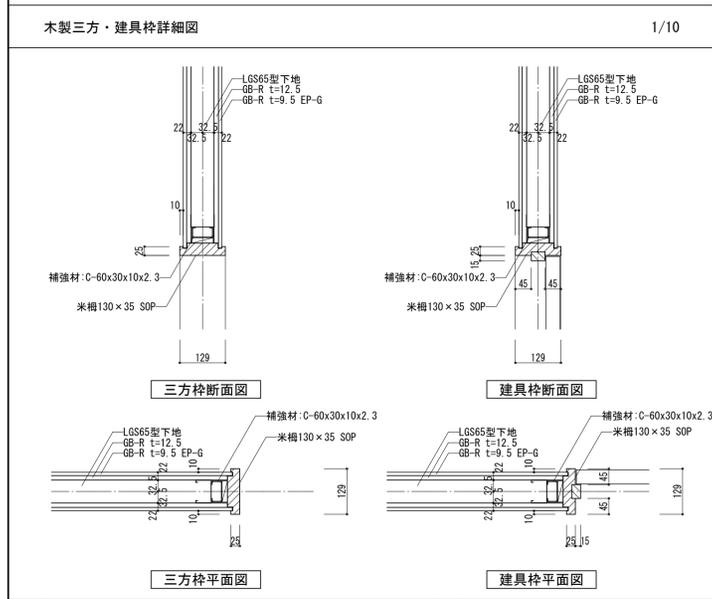
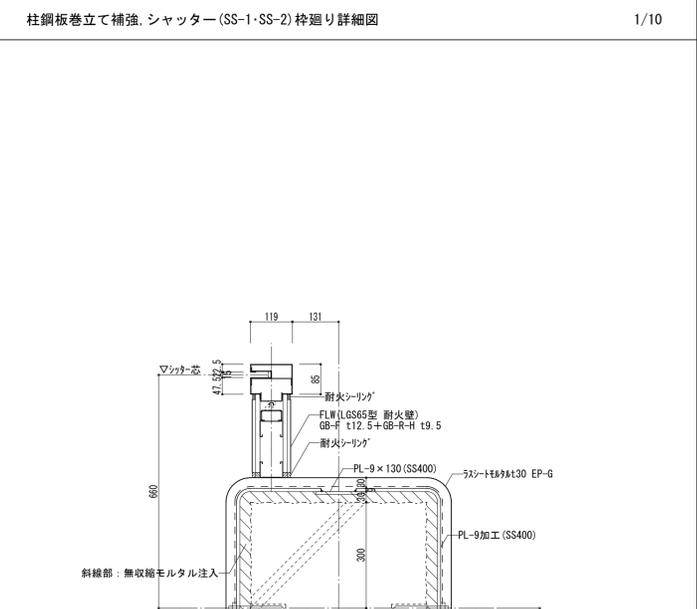
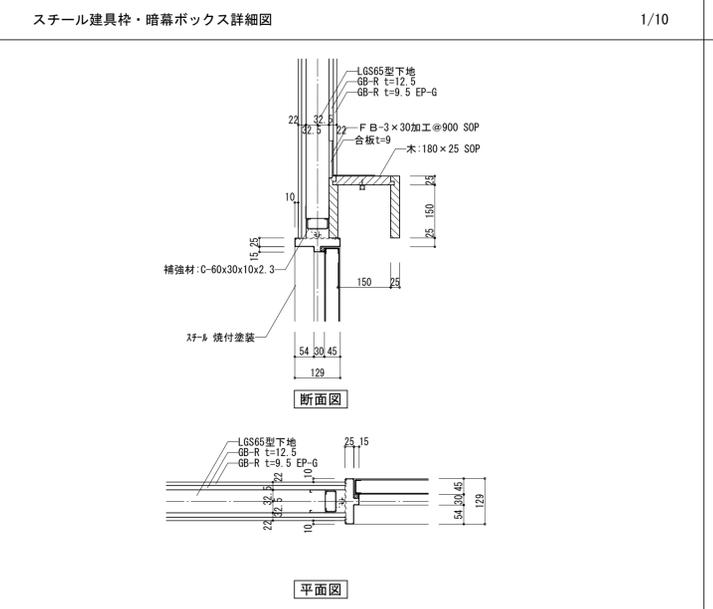
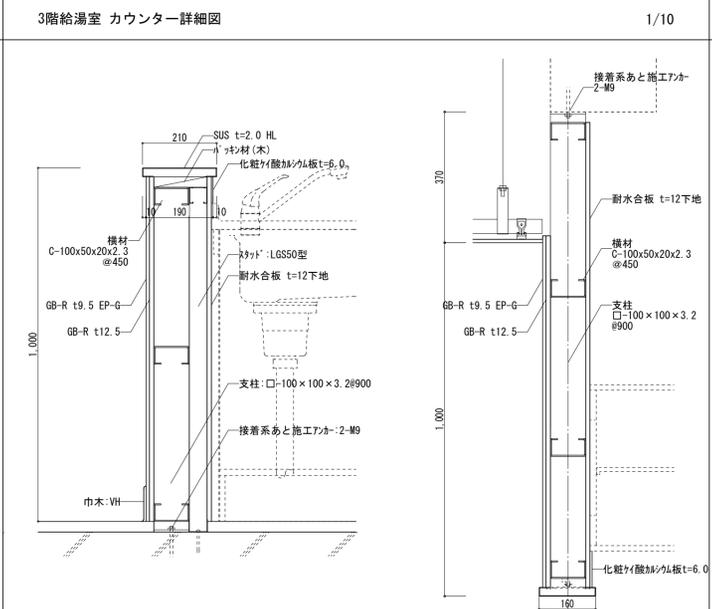
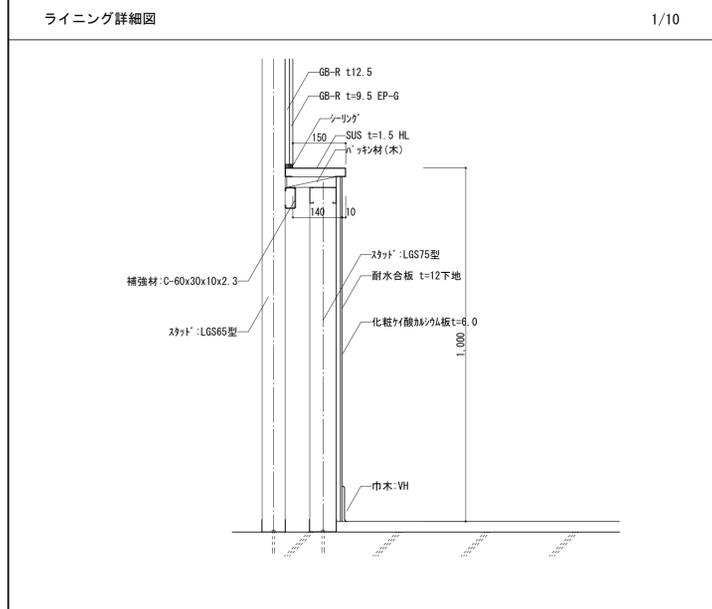
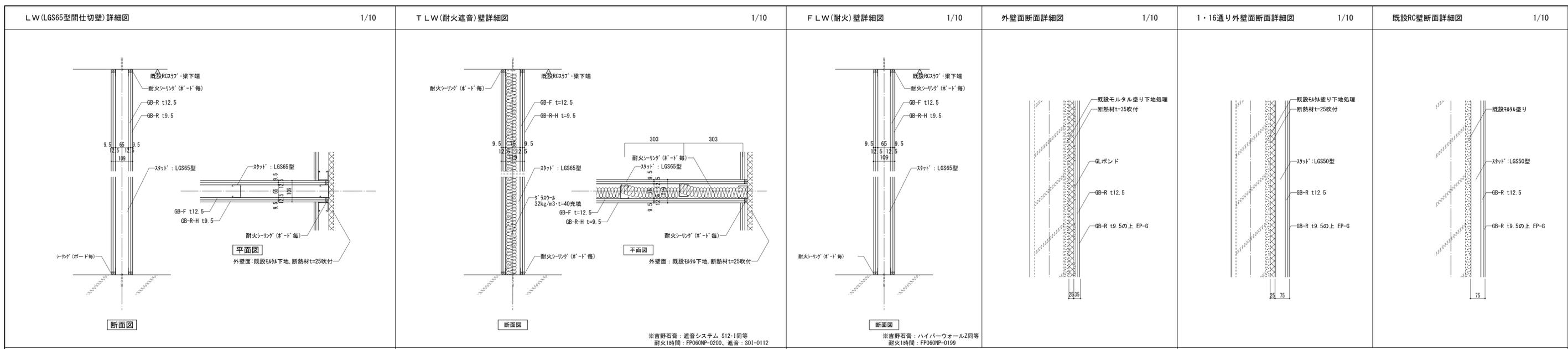


ドア横断面詳細図 S=1:3

<移動間仕切り 厚み67mm>

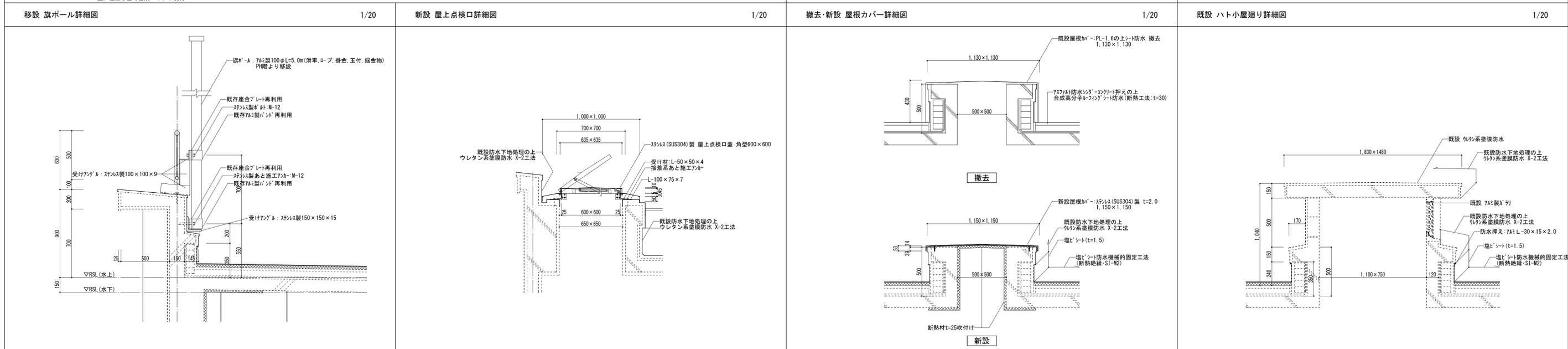
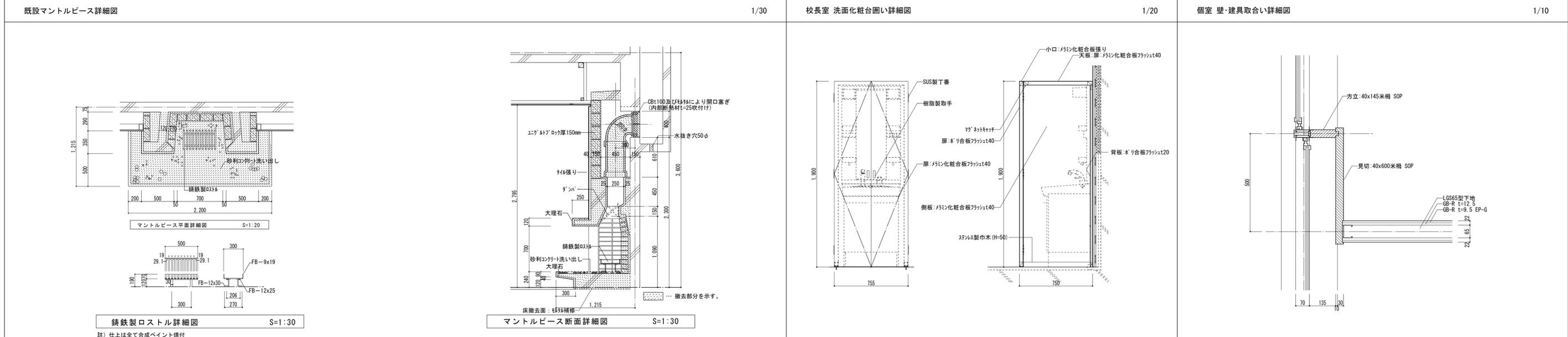
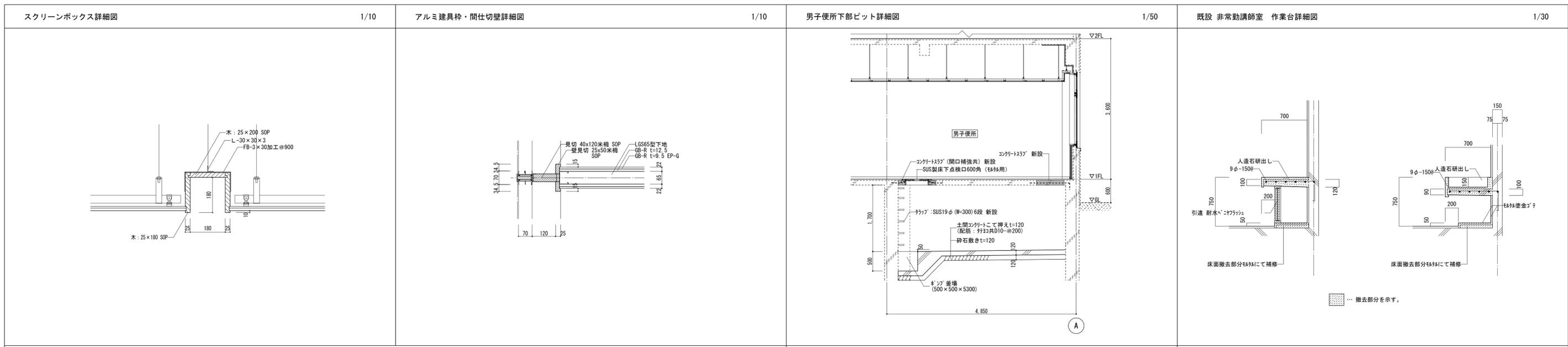
記事	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務	検 査	担 当	工事名称	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	日付	総数
											株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行			鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	72/109	
														図面名称	【参考図】移動間仕切り詳細図(2)	縮尺	番号
															1/3.10	A-62	

※A3版の場合は50%縮尺とする



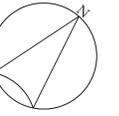
記事	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	検 図	担 当	工事名称	日付	総数
										鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務			鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	73/109
										株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番号
													部分詳細図 (1)	1/10	A-63

※A3版の場合は50%縮尺とする

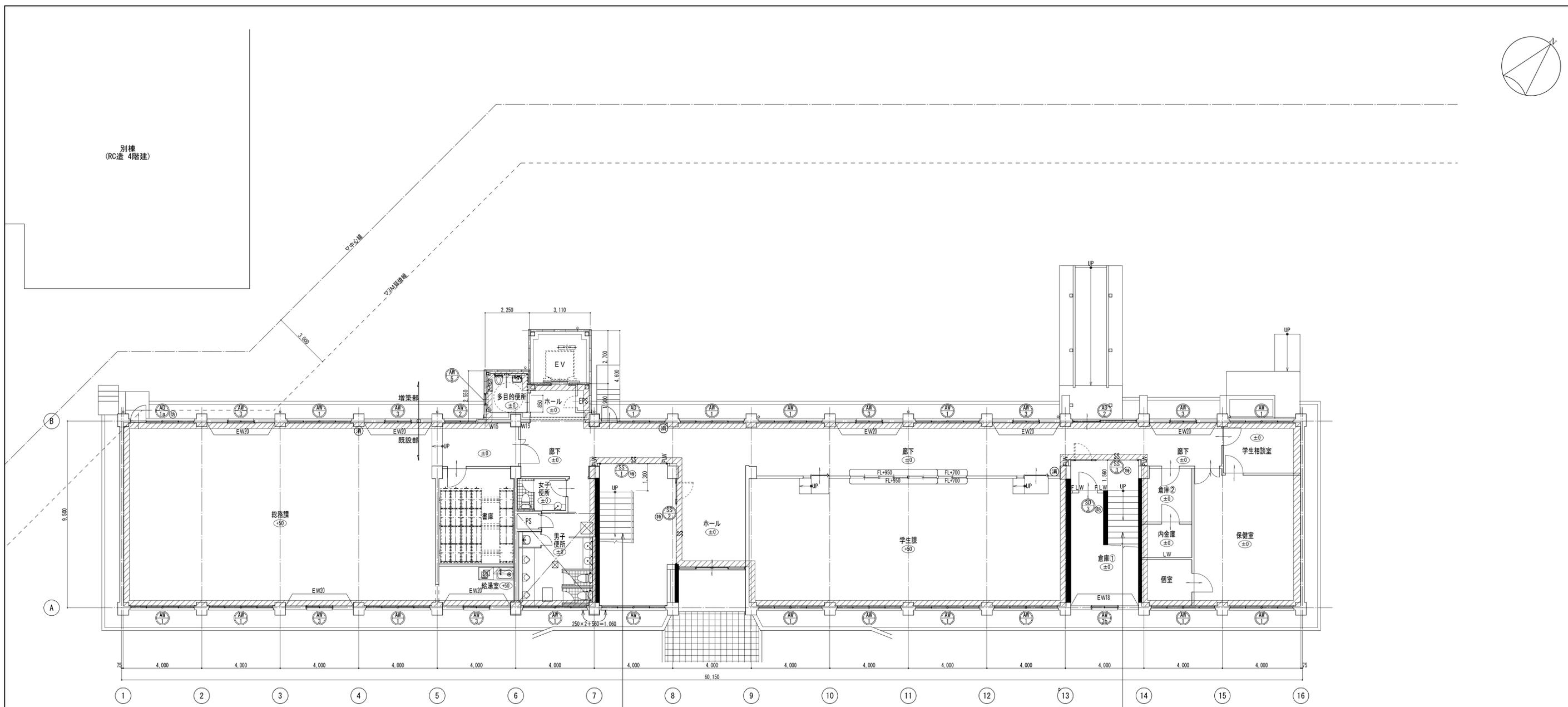


記 事	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	検 査	担 当	工事名称	日付	総数
										鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務			鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	74 / 109
										株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番号
													部分詳細図(2)	1/10-20-30-50	A-64

※A3版の場合は50%縮尺とする



別棟  
(RC造 4階建)



階段：RC造  
有効巾：1,570  
蹴上げ：180  
踏面：260  
手摺高：850

階段：RC造  
有効巾：1,570  
蹴上げ：180  
踏面：260  
手摺高：850

1階平面図 1/100

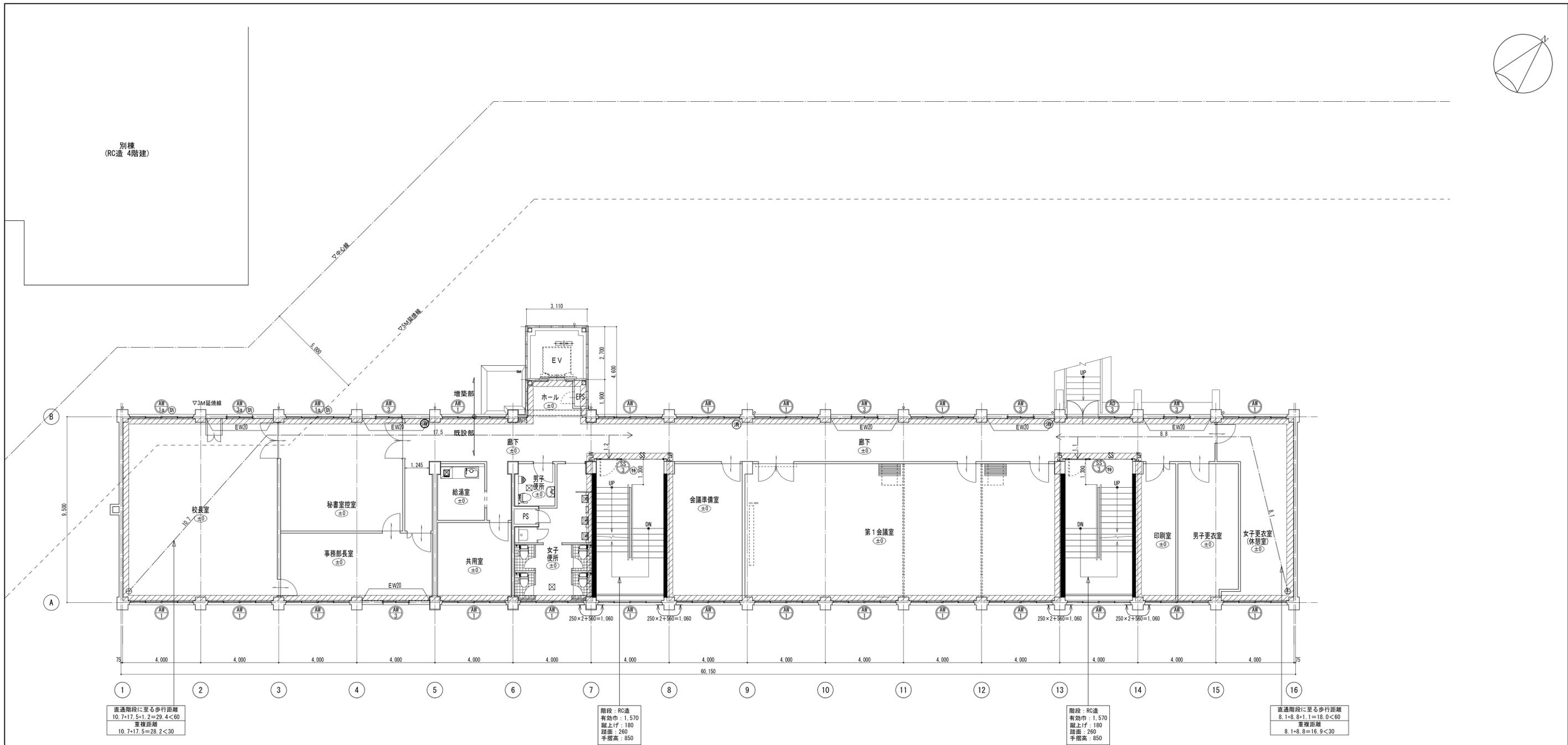
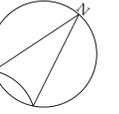
防火区画面積	
	28.50×9.50×2+3.65×7.50+2.25×2.55+3.11×4.60 -3.11×2.70(EV+7f)-4.015×6.89(西階段)-3.59×0.66(西階段) = 522.704 → 522.70㎡

無窓階の判定		
必要開口面積	有効開口面積	判定
床面積：584.17㎡×1/30 =19.47㎡	AW-1×13 W1.50×H1.22×13 =23.79㎡	19.47㎡ < 23.79㎡ … OK

凡例		凡例	
	消火器 (露出消火器80X)		代替出入口 (幅75cm以上、高さ1.2m以上) 10m以内
	特定防火設備		直通階段に至る歩行距離 60m以下 (重複距離30m以下)
	防火設備		1~3階 EV扉 特定防火設備 (認定番号: CAS0136号)
	第3種機械換気		LGS (W65) 下地壁GP-FRt12.5+GB-R-H両面張り (梁・25'下まで) (認定番号: FPO60NP-0199)
	FLからのレベルを示す		EV+7f廻り: ALCa' 3x1100 (壁1時間耐火 告示第1399号)
			RC区画壁

記事	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	検 査	担 当	工事名称	日付	総数
										鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務			鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	75/109
										株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番号
													1階平面図	1/100	A-65

※A3版の場合は50%縮尺とする



2階平面図 1/100

直通階段に至る歩行距離  
10.7+17.5+1.2=29.4<60  
重複距離  
10.7+17.5=28.2<30

階段：RC造  
有効巾：1.570  
蹴上げ：180  
踏面：260  
手摺高：850

階段：RC造  
有効巾：1.570  
蹴上げ：180  
踏面：260  
手摺高：850

直通階段に至る歩行距離  
8.1+8.8+1.1=18.0<60  
重複距離  
8.1+8.8=16.9<30

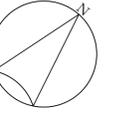
防火区画面積	60.15×9.50+3.11×4.60-3.11×2.70(EV+7F)-3.68×7.55×2(階段) = 521.766 → 521.77㎡
--------	--

無窓階の判定		
必要開口面積	有効開口面積	判定
床面積：585.74㎡×1/30 =19.52㎡	AW-1×18+AW-1a×2 W1.50×H1.22×18+W1.50×H1.22×2 =36.60㎡	19.52㎡ < 36.60㎡ … OK

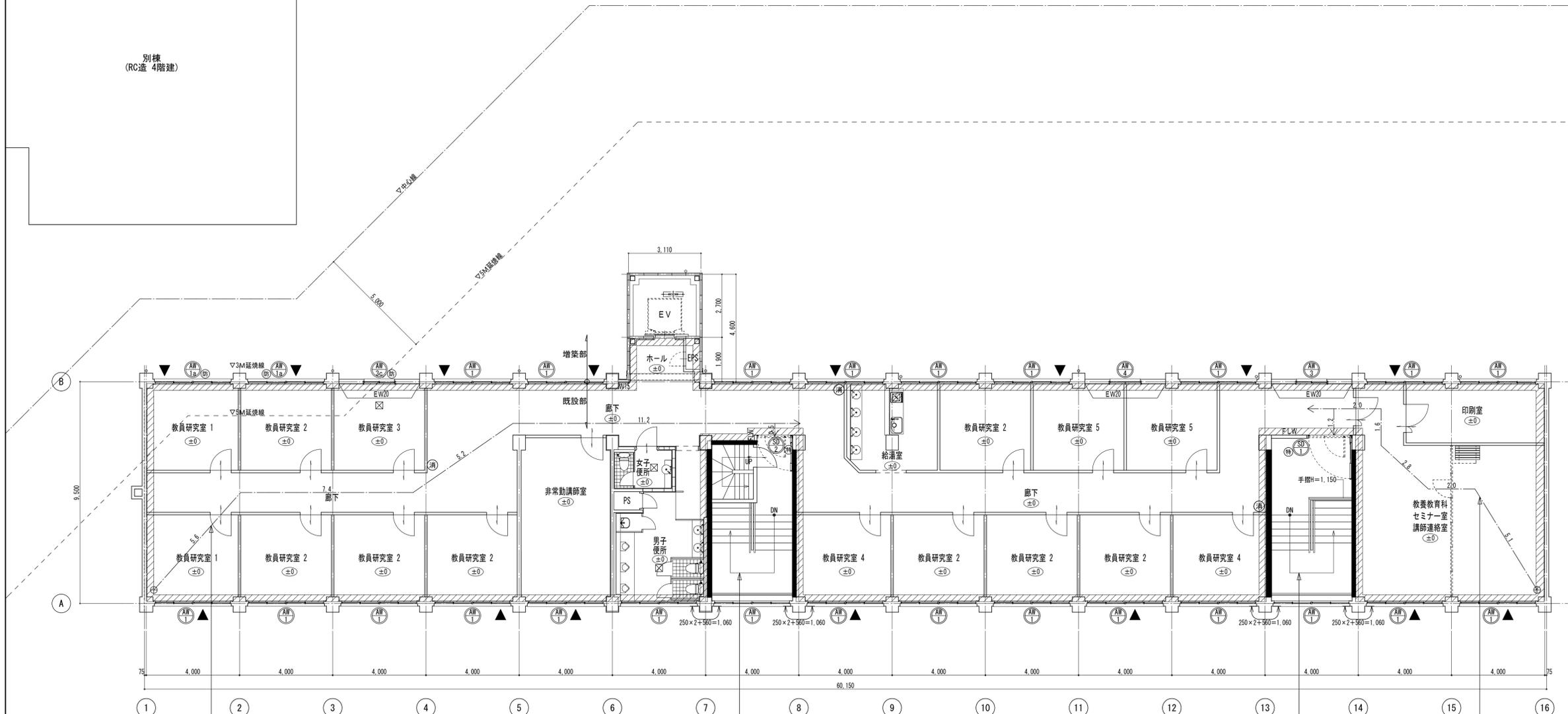
凡例	凡例
(消) 消火器 (露出消火器80X)	▲ 代替出入口 (幅75cm以上、高さ1.2m以上) 10m以内
(特) 特定防火設備	→ 直通階段に至る歩行距離 60m以下 (重複距離30m以下)
(防) 防火設備	1~3階 EV扉 特定防火設備 (認定番号: CAS0136号)
☒ 第3種機械換気	防火区画 FLW LGS (W65) 下地壁6B-FBt12.5+6B-R-H両面張り (梁・25'下まで) (認定番号: FPO60NP-0199)
(±) FLからのレベルを示す	EV+7F廻り: ALCo' 3x1100 (壁1時間耐火 告示第1399号)
	RC区画壁

記事	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	検 査	担 当	工事名称	日付	総数
										鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務			鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	76/109
										株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番号
													2階平面図	1/100	A-66

※A3版の場合は50%縮尺とする



別棟  
(RC造 4階建)



直通階段に至る歩行距離  
5.6+7.4+5.2+11.2+0.5=29.9<60  
重複距離  
5.6+7.4+5.2+11.2=29.4<30

階段: RC造  
有効巾: 1.570  
蹴上げ: 180  
踏面: 260  
手摺高: 850

階段: RC造  
有効巾: 1.570  
蹴上げ: 180  
踏面: 260  
手摺高: 850

直通階段に至る歩行距離  
5.1+2.0+2.8+1.6+2.0+1.2=14.7<60  
重複距離  
5.1+2.0+2.8+1.6+2.0=13.5<30

3階平面図 1/100

防火区画面積	
	60.15×9.50+3.11×4.60-3.11×2.70(EV+7F)-3.68×6.915(西階段) -1.715×0.306(西階段)-3.68×7.196(東階段) = 524.880 → 524.88㎡

無窓階の判定		
必要開口面積	有効開口面積	判定
床面積: 585.74㎡ × 1/30 = 19.52㎡	AW-1 × 23 + AW-1a × 2 W1.50 × H1.22 × 23 + W1.50 × H1.22 × 2 = 45.75㎡	19.52㎡ < 45.75㎡ ... OK

凡例		凡例	
	消火器 (露出消火器80X)		代替出入口 (幅75cm以上、高さ1.2m以上) 10m以内
	特定防火設備		直通階段に至る歩行距離 60m以下 (重複距離30m以下)
	防火設備		1~3階 EV扉 特定防火設備 (認定番号: CAS0136号)
	第3種機械換気		LGS (W65) 下地盤6F-FB12.5+6F-R-H両面環り (梁・55'下まで) (認定番号: FPO60NP-0199)
	FLからのレベルを示す		EV+7F廻り: ALCa' 34t100 (壁1時間耐火 告示第1399号)
			RC区画壁

記事	仙臺高等専門学校	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務	検 査	担 当	工事名称	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	日付	総数
												株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 犬飼 和行			鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	77 / 109	
															図面名称	3階平面図	縮尺	番号
																1 / 100		A-67

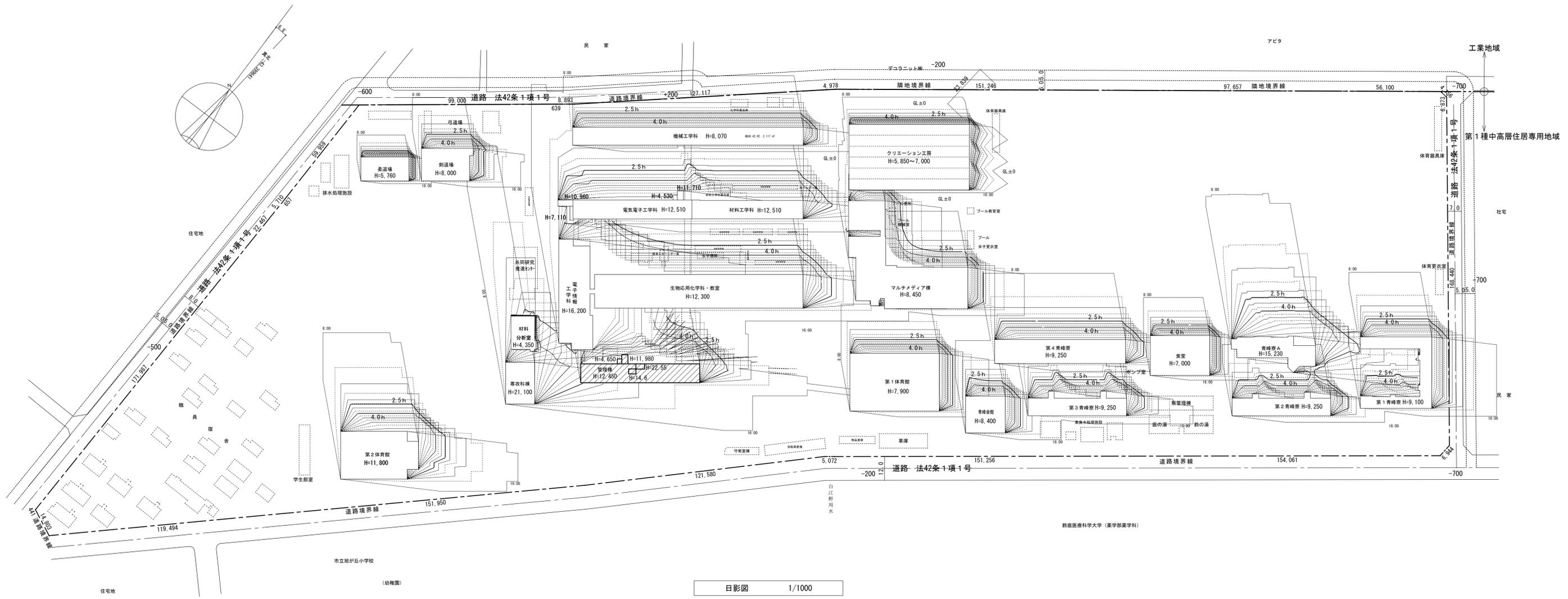
※A3版の場合は50%縮尺とする

階	室名	床面積	規定法規	必要開口面積	有効開口面積	判定	備考	室名	床面積	規定法規	必要開口面積	有効開口面積	判定	備考	
1階	総務課 162.52㎡	16.075×9.50+4.256×2.305 =162.522	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	162.52㎡×1/20=8.126㎡	AD-1a+AM-1×4+AM-2+AM-3×3 W1.52×H1.22+H3.07×H1.22×4+W1.60×H1.22+W1.30×H1.45×3=24.443 24.443㎡×(A)2.49=60.863㎡	8.126㎡ < 60.863㎡ … OK	北側採光補正係数(A) (d 6.70/h 10.34)×6-1.4=2.487 ∴ 2.49 倍	教員研究室 1 15.69㎡	4.075×3.85 =15.688	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	15.69㎡×1/20=0.784㎡	AM-1 W3.07×H1.22=3.745 3.745㎡×(A)3.00=11.235㎡	0.784㎡ < 11.235㎡ … OK	北側採光補正係数(A) (d 6.70/h 3.14)×6-1.4=11.402 ∴ 3.00 倍	
			居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6	162.52㎡×1/20=8.126㎡	AD-1a+AM-1×4+AM-2+AM-3×3 W1.52×H1.22+H3.07×H1.22×4+W1.60×H1.22+W1.30×H1.45×3=24.443 24.443㎡×1/2=12.221㎡	8.126㎡ < 12.221㎡ … OK	居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6			15.69㎡×1/20=0.784㎡	AM-1 W3.07×H1.22=3.745 3.745㎡×1/2=1.872㎡	0.784㎡ < 1.872㎡ … OK			
	学生課 108.55㎡	16.335×6.645 =108.546	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	108.55㎡×1/20=5.427㎡	AM-1×4 W3.07×H1.22×4=14.981 14.981㎡×(A)3.00=44.943㎡	5.427㎡ < 44.943㎡ … OK	南側採光補正係数(A) (d 50.00/h 10.34)×6-1.4=27.613 ∴ 3.00 倍	教員研究室 2 15.40㎡	4.00×3.85 =15.400	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	15.40㎡×1/20=0.770㎡	AM-1 W3.07×H1.22=3.745 3.745㎡×(A)3.00=11.235㎡	0.770㎡ < 11.235㎡ … OK	北側採光補正係数(A) (d 6.70/h 3.14)×6-1.4=11.402 ∴ 3.00 倍	
			居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6	108.55㎡×1/20=5.427㎡	AM-1×4 W3.07×H1.22×4=14.981 14.981㎡×1/2=7.490㎡	5.427㎡ < 7.490㎡ … OK	居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6			15.40㎡×1/20=0.770㎡	AM-1 W3.07×H1.22=3.745 3.745㎡×1/2=1.872㎡	0.770㎡ < 1.872㎡ … OK			
	学生相談室 11.00㎡	4.075×2.70 =11.002	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	11.00㎡×1/20=0.550㎡	AM-1 W3.07×H1.22=3.745 3.745㎡×(A)3.00=11.235㎡	0.550㎡ < 11.235㎡ … OK	北側採光補正係数(A) (d 25.00/h 10.34)×6-1.4=13.106 ∴ 3.00 倍	教員研究室 3 15.40㎡	4.00×3.85 =15.400	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	15.40㎡×1/20=0.770㎡	AM-3C W1.30×H1.10=1.430 1.430㎡×1/2=0.715㎡	0.770㎡ < 4.290㎡ … OK	北側採光補正係数(A) (d 6.70/h 3.14)×6-1.4=11.402 ∴ 3.00 倍	
			居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6	11.00㎡×1/20=0.550㎡	AM-1 W3.07×H1.22=3.745 3.745㎡×1/2=1.872㎡	0.550㎡ < 1.872㎡ … OK	居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6			15.40㎡×1/20=0.770㎡	AM-3C W1.30×H1.10=1.430 1.430㎡×1/2=0.715㎡	0.770㎡ < 0.715㎡ … NG 第1種機械換気設置			
保健室 38.50㎡	5.575×6.80+1.50×0.396 =38.504	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	38.50㎡×1/20=1.925㎡	AM-1+AM-1×1/4 W3.07×H1.22+H3.07×1/4×H1.22=4.681 4.681㎡×(A)3.00=14.043㎡	1.925㎡ < 14.043㎡ … OK	北側採光補正係数(A) (d 50.00/h 10.34)×6-1.4=13.106 ∴ 3.00 倍	非常勤講師室 28.78㎡	4.00×7.196 =28.784	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	28.78㎡×1/20=1.439㎡	AM-1 W3.07×H1.22=3.745 3.745㎡×1/2=1.872㎡	1.439㎡ < 11.235㎡ … OK	南側採光補正係数(A) (d 50.00/h 3.14)×6-1.4=94.141 ∴ 3.00 倍		
居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6	38.50㎡×1/20=1.925㎡	AM-1+AM-1×1/4 W3.07×H1.22+H3.07×1/4×H1.22=4.681 4.681㎡×1/2=2.340㎡	1.925㎡ < 2.340㎡ … OK	居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6	28.78㎡×1/20=1.439㎡	AM-1 W3.07×H1.22=3.745 3.745㎡×1/2=1.872㎡			1.439㎡ < 1.872㎡ … OK						
個室 6.65㎡	2.66×2.50 =6.650	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	6.65㎡×1/20=0.332㎡	AM-1×1/2 W3.07×H1.22×1/2=1.872 1.872㎡×(A)3.00=5.616㎡	0.332㎡ < 5.616㎡ … OK	南側採光補正係数(A) (d 50.00/h 10.34)×6-1.4=27.613 ∴ 3.00 倍	教員研究室 4 16.02㎡	4.16×3.85 =16.016	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	16.02㎡×1/20=0.801㎡	AM-1 W3.07×H1.22=3.745 3.745㎡×(A)3.00=11.235㎡	0.801㎡ < 11.235㎡ … OK	南側採光補正係数(A) (d 50.00/h 3.14)×6-1.4=94.141 ∴ 3.00 倍		
		居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6	6.65㎡×1/20=0.332㎡	AM-1×1/2 W3.07×H1.22×1/2=1.872 1.872㎡×1/2=0.936㎡	0.332㎡ < 0.936㎡ … OK	居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6			16.02㎡×1/20=0.801㎡	AM-1 W3.07×H1.22=3.745 3.745㎡×1/2=1.872㎡	0.801㎡ < 1.872㎡ … OK				
2階	校長室 76.71㎡	8.075×9.50 =76.712	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	76.71㎡×1/20=3.835㎡	AM-1a+AM-3a+AM-1×1/2 W3.07×H1.22+H1.30×H1.45+H3.07×H1.22×2=13.121 13.121㎡×(A)3.00=39.363㎡	3.835㎡ < 39.363㎡ … OK	北側採光補正係数(A) (d 6.70/h 10.34)×6-1.4=4.564 ∴ 3.00 倍	印刷室 16.25㎡	6.075×2.675 =16.250	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	16.25㎡×1/20=0.812㎡	AM-1+AM-1×1/2 W3.07×H1.22+H3.07×H1.22×1/2=5.618 5.618㎡×(A)3.00=16.854㎡	0.812㎡ < 16.854㎡ … OK	北側採光補正係数(A) (d 25.00/h 3.14)×6-1.4=46.370 ∴ 3.00 倍	
			居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6	76.71㎡×1/20=3.835㎡	AM-1a+AM-3a+AM-1×1/2 W3.07×H1.22+H1.30×H1.45+H3.07×H1.22×2=13.121 13.121㎡×1/2=6.560㎡	3.835㎡ < 6.560㎡ … OK	居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6			16.25㎡×1/20=0.812㎡	AM-1+AM-1×1/2 W3.07×H1.22+H3.07×H1.22×1/2=5.618 5.618㎡×1/2=2.809㎡	0.812㎡ < 2.809㎡ … OK			
	秘書室 37.76㎡	6.40×5.90 =37.760	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	37.76㎡×1/20=1.888㎡	AM-1a+AM-3 W3.07×H1.22+H1.30×H1.45=5.630 5.630㎡×(A)3.00=16.890㎡	1.888㎡ < 16.890㎡ … OK	北側採光補正係数(A) (d 50.00/h 10.34)×6-1.4=20.855 ∴ 3.00 倍	教養教育科 セミナー室 講師連絡室 61.98㎡	2.16×2.675+0.235×6.825 =61.981	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	61.98㎡×1/20=3.099㎡	AM-1×2 W3.07×H1.22×2=7.490 7.490㎡×(A)3.00=22.470㎡	3.099㎡ < 22.470㎡ … OK	南側採光補正係数(A) (d 50.00/h 3.14)×6-1.4=94.141 ∴ 3.00 倍	
			居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6	37.76㎡×1/20=1.888㎡	AM-1a+AM-3 W3.07×H1.22+H1.30×H1.45=5.630 5.630㎡×1/2=2.815㎡	1.888㎡ < 2.815㎡ … OK	居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6			61.98㎡×1/20=3.099㎡	AM-1×2 W3.07×H1.22×2=7.490 7.490㎡×1/2=3.745㎡	3.099㎡ < 3.745㎡ … OK			
	事務部長室 28.80㎡	8.00×3.60 =28.800	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	28.80㎡×1/20=1.440㎡	AM-1+AM-3 W3.07×H1.22+H1.30×H1.45=5.630 5.630㎡×(A)3.00=16.890㎡	1.440㎡ < 16.890㎡ … OK	南側採光補正係数(A) (d 50.00/h 6.74)×6-1.4=43.110 ∴ 3.00 倍	体育館棟							
			居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6	28.80㎡×1/20=1.440㎡	AM-1+AM-3 W3.07×H1.22+H1.30×H1.45=5.630 5.630㎡×1/2=2.815㎡	1.440㎡ < 2.815㎡ … OK									
	共用室 16.60㎡	4.00×4.150 =16.600	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	16.60㎡×1/20=0.830㎡	AM-1 W3.07×H1.22=3.745 3.745㎡×(A)3.00=11.235㎡	0.830㎡ < 11.235㎡ … OK	南側採光補正係数(A) (d 50.00/h 6.74)×6-1.4=43.110 ∴ 3.00 倍								
			居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6	16.60㎡×1/20=0.830㎡	AM-1 W3.07×H1.22=3.745 3.745㎡×1/2=1.872㎡	0.830㎡ < 1.872㎡ … OK									
	会議準備室 28.68㎡	3.985×7.196 =28.676	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	28.68㎡×1/20=1.434㎡	AM-1 W3.07×H1.22=3.745 3.745㎡×(A)3.00=11.235㎡	1.434㎡ < 11.235㎡ … OK	南側採光補正係数(A) (d 50.00/h 6.74)×6-1.4=43.110 ∴ 3.00 倍								
			居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6	28.68㎡×1/20=1.434㎡	AM-1 W3.07×H1.22=3.745 3.745㎡×1/2=1.872㎡	1.434㎡ < 1.872㎡ … OK									
	第1会議室 117.55㎡	16.335×7.196 =117.546	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	117.55㎡×1/20=5.877㎡	AM-1×4 W3.07×H1.22×4=14.981 14.981㎡×(A)3.00=44.943㎡	5.877㎡ < 44.943㎡ … OK	南側採光補正係数(A) (d 50.00/h 6.74)×6-1.4=43.110 ∴ 3.00 倍								
			居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6	117.55㎡×1/20=5.877㎡	AM-1×4 W3.07×H1.22×4=14.981 14.981㎡×1/2=7.490㎡	5.877㎡ < 7.490㎡ … OK									
印刷室 15.54㎡	2.16×7.196 =15.540	無窓居室(非常用照明) 法第35条、令116条の2第1号項	15.54㎡×1/20=0.777㎡	AM-1×1/2 W3.07×H1.22×1/2=1.872 1.872㎡×(A)3.00=5.616㎡	0.777㎡ < 5.616㎡ … OK	南側採光補正係数(A) (d 50.00/h 6.74)×6-1.4=43.110 ∴ 3.00 倍									
		居室の換気 法第28条2項 令第20条の2、令第129条の2の6	15.54㎡×1/20=0.777㎡	AM-1×1/2 W3.07×H1.22×1/2=1.872 1.872㎡×1/2=0.936㎡	0.777㎡ < 0.936㎡ … OK										

記事	仙臺工業高等専門学校	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務	検 図	担 当	工事名称	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	日付	平成26年7月	総数	78/109
												株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	居室法規チェックリスト	縮尺	1/100	番号	A-68

※A3版の場合は50%縮尺とする

敷地概要					
敷地面積	120,550.62㎡	道路幅員	12.00m	接道長さ	703.413m
	119,628.87㎡ + 借用地: 921.75㎡				



日影図 1/1000  
平均地盤面高=設計GL±0

日影長さ表 [緯度 = 34° 51' 10" ] [冬至]  
高さ = 5.850 (m) 測定高さ = 4 (m)  
計算高さ = 1.850 (m)

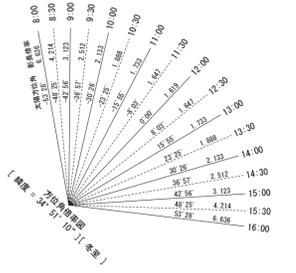
時刻	影長倍率	日影長さ (m)
8:00	6.636	12.277
8:30	4.214	7.796
9:00	3.123	5.778
9:30	2.512	4.647
10:00	2.133	3.946
10:30	1.888	3.493
11:00	1.733	3.206
11:30	1.647	3.047
12:00	1.619	2.995
12:30	1.647	3.047
13:00	1.733	3.206
13:30	1.888	3.493
14:00	2.133	3.946
14:30	2.512	4.647
15:00	3.123	5.778
15:30	4.214	7.796
16:00	6.636	12.277

日影長さ表 [緯度 = 34° 51' 10" ] [冬至]  
高さ = 7.000 (m) 測定高さ = 4 (m)  
計算高さ = 3.000 (m)

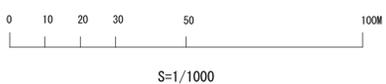
時刻	影長倍率	日影長さ (m)
8:00	6.636	19.908
8:30	4.214	12.642
9:00	3.123	9.369
9:30	2.512	7.536
10:00	2.133	6.399
10:30	1.888	5.664
11:00	1.733	5.199
11:30	1.647	4.941
12:00	1.619	4.857
12:30	1.647	4.941
13:00	1.733	5.199
13:30	1.888	5.664
14:00	2.133	6.399
14:30	2.512	7.536
15:00	3.123	9.369
15:30	4.214	12.642
16:00	6.636	19.908

影長率表 [緯度 = 34° 51' 10" ] [冬至]

時刻	太陽高度	太陽方位角	影長倍率	X倍率	Y倍率
8:00	8°34'	-53°28'	6.636	-5.332	3.951
8:30	13°21'	-48°25'	4.214	-3.152	2.797
9:00	17°45'	-42°56'	3.123	-2.127	2.287
9:30	21°42'	-36°57'	2.512	-1.510	2.008
10:00	25°07'	-30°26'	2.133	-1.080	1.839
10:30	27°55'	-23°25'	1.888	-0.750	1.732
11:00	29°59'	-15°55'	1.733	-0.475	1.667
11:30	31°16'	-8°03'	1.647	-0.231	1.631
12:00	31°42'	0°00'	1.619	0.000	1.619
12:30	31°16'	8°03'	1.647	0.231	1.631
13:00	29°59'	15°55'	1.733	0.475	1.667
13:30	27°55'	23°25'	1.888	0.750	1.732
14:00	25°07'	30°26'	2.133	1.080	1.839
14:30	21°42'	36°57'	2.512	1.510	2.008
15:00	17°45'	42°56'	3.123	2.127	2.287
15:30	13°21'	48°25'	4.214	3.152	2.797
16:00	8°34'	53°28'	6.636	5.332	3.951

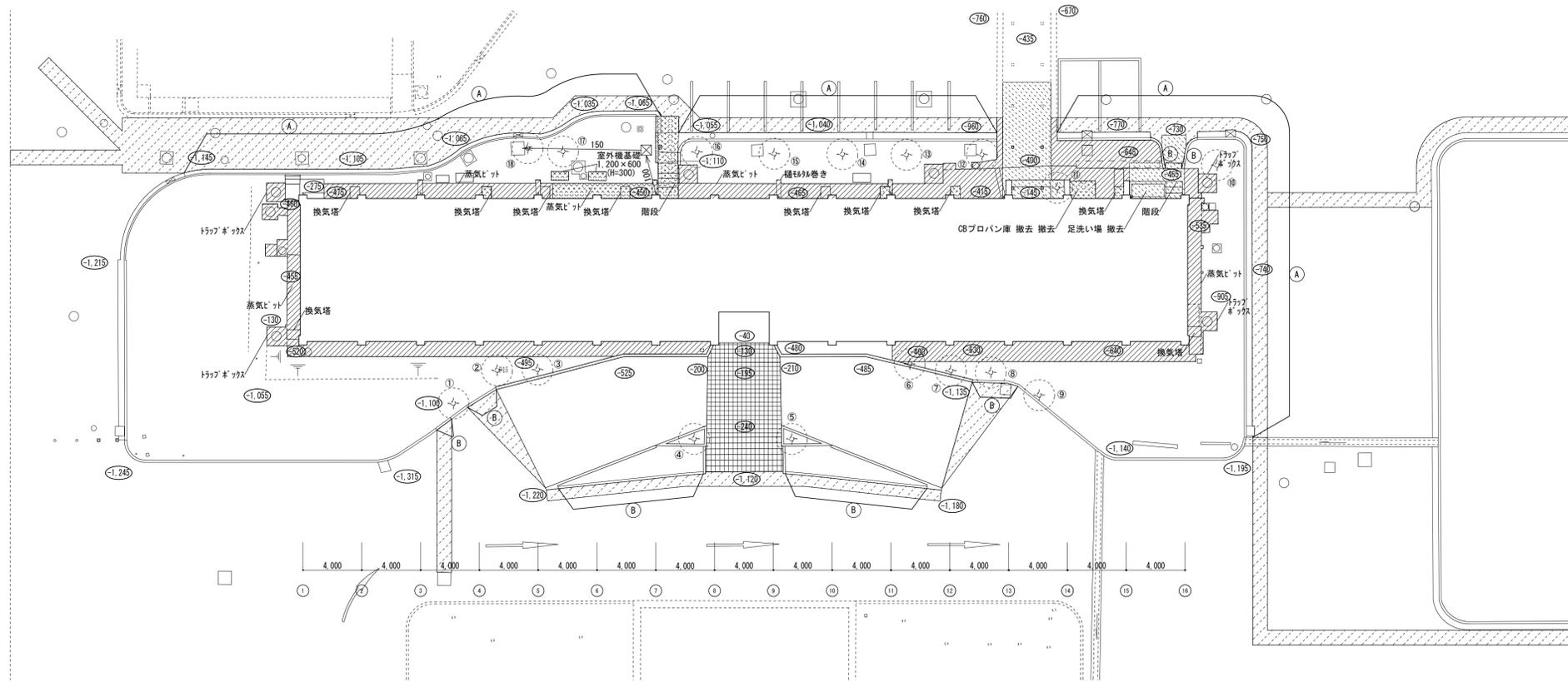


地番	三重県鈴鹿市白子町地内 (鈴鹿工業高等専門学校)
用途地域	第一種中高層住居専用地域
緯度	北緯 34度51分10秒
節気	冬至
測定開始時間	8時00分
測定終了時間	16時00分
測定面高さ	4.00m
規制時間	5.0m 4時間
	10.0m 2.5時間
	本工事計画建物
	既設日影対象建物
	既設 4.0m以下の建物



記事	仙台商専専門学校	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務	検 図	担 当	工事名称	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	日付	平成26年7月	総数	79 / 109
												株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270015号 犬飼 和行			図面名称	改修後 管理棟 日影図	縮尺	1 / 1000	番号	A-69

※A3版の場合は50%縮尺とする

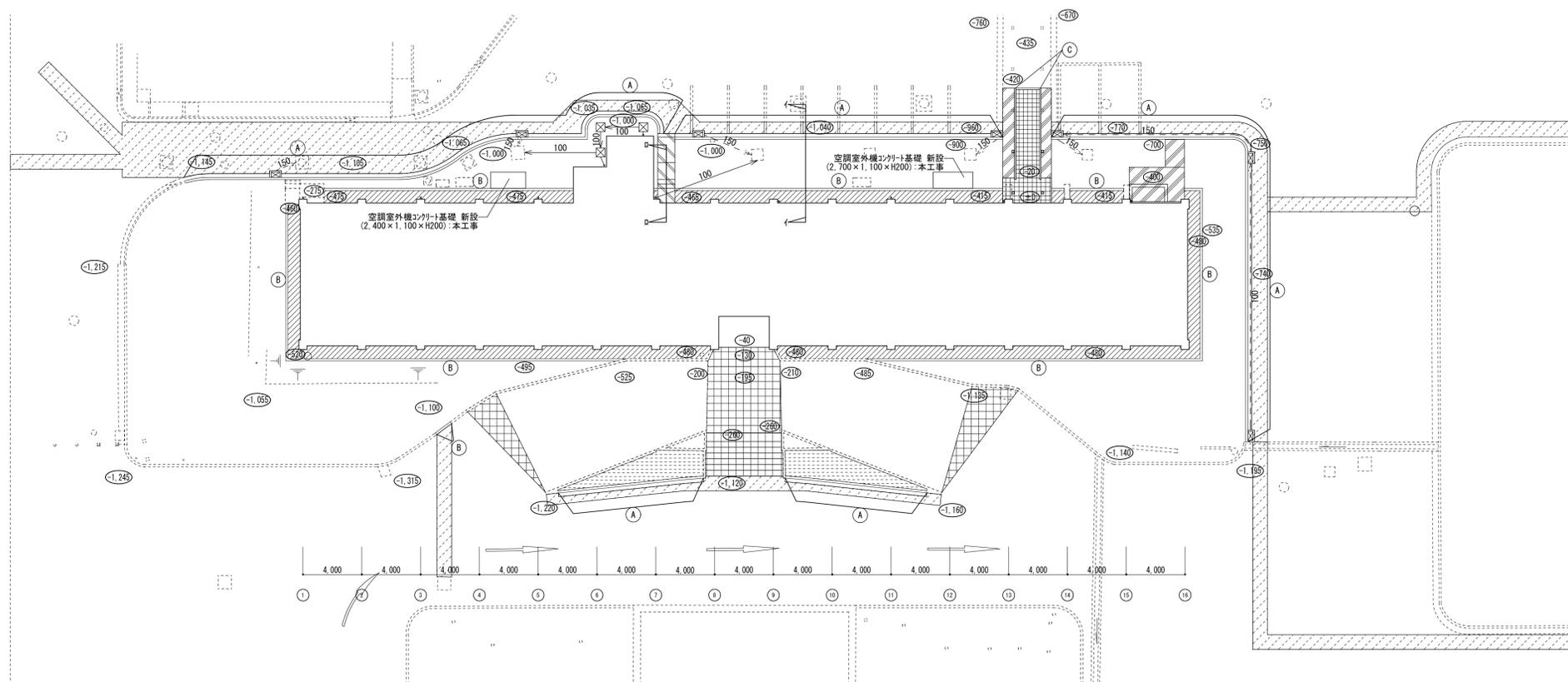


改修前 外構配置図 1/200

凡例	内容
[Hatched pattern]	7374舗装 撤去 (390㎡) : 別途工事
[Hatched pattern]	換気塔 (5箇所) 蒸気ヒート(64㎡) トリッパボックス (6箇所) コクリト舗装 (16㎡) : 別途工事
[Hatched pattern]	耐震壁新設 EV機増設工事に伴う撤去部分 : 本工事 換気塔 (5箇所) 蒸気ヒート(9㎡) 室外機基礎 (2箇所) コクリト舗装 (5㎡) 階段 700mm幅 現場打ち400L型側溝 (1m) 7374舗装 (1㎡)
[Hatched pattern]	スロープ 足洗い場新設に伴う撤去部分 : 本工事 蒸気ヒート(17㎡) 7374舗装 (3㎡) コクリト舗装 (25㎡) 足洗い場 階段
[Hatched pattern]	300角床材 撤去 (44㎡) : 別途工事
(A)	現場打ちL型(300)側溝 車歩道境界ボックス 撤去 (138m) : 別途工事
(B)	車歩道境界ボックス 撤去 (32m) : 別途工事
[Square symbol]	コクリト雨水樹 (450×450, H=1,000)コクリト蓋 撤去 : 本工事
100	排水管(数値は管径) 撤去 : 本工事
(±)	1FLからのレベルを示す

※植栽撤去は別途工事とする。

撤去植栽	種別・樹高(m)・枝張(m)
①	サトウキビ : 樹高=2.4, 枝張=3.2
②	サトウキビ : 樹高=2.2, 枝張=2.6
③	サトウキビ : 樹高=2.2, 枝張=3.2
④	ヤマ : 樹高=2.6, 枝張=3.5
⑤	ヤマ : 樹高=3.2, 枝張=4.0
⑥	サトウキビ : 樹高=2.4, 枝張=3.0
⑦	サトウキビ : 樹高=1.9, 枝張=2.7
⑧	サトウキビ : 樹高=2.1, 枝張=3.0
⑨	サトウキビ : 樹高=3.8, 枝張=4.2
⑩	サトウキビ : 樹高=2.5, 枝張=5.0
⑪	7材 : 樹高=2.3, 枝張=2.3
⑫	サトウキビ : 樹高=2.4, 枝張=2.2
⑬	サトウキビ : 樹高=2.7, 枝張=2.3
⑭	サトウキビ : 樹高=2.8, 枝張=2.4
⑮	サトウキビ : 樹高=2.9, 枝張=2.5
⑯	サトウキビ : 樹高=2.7, 枝張=1.9
⑰	サトウキビ : 樹高=2.8, 枝張=2.6
⑱	ヤマ : 樹高=0.9, 枝張=0.8

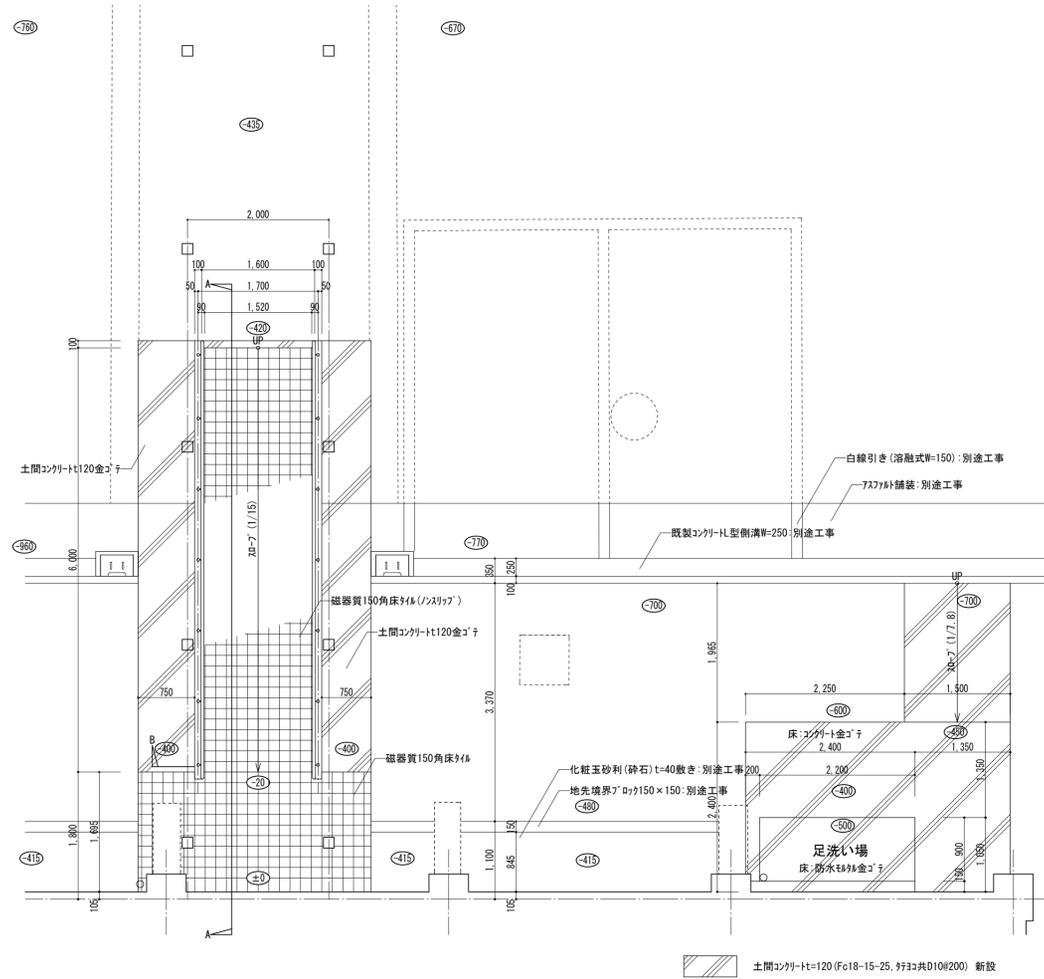


改修後 外構配置図 1/200

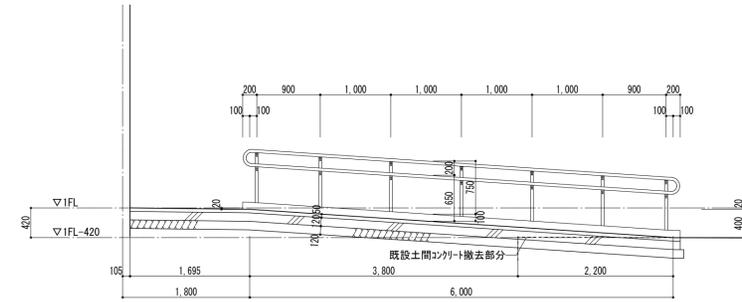
凡例	内容
[Hatched pattern]	土間コクリトt=120 (Fc18-15-25, 9f33共D10#200) 新設 (21㎡) : 本工事
[Hatched pattern]	土間コクリトt=120 (Fc18-15-25, 9f33共D10#200) 新設 (6㎡) : 別途工事
[Hatched pattern]	土間コクリトt=180剛毛引き (Fc18-15-25, 9f33共D10#200) 新設 (20㎡) : 別途工事
[Hatched pattern]	土間コクリトt=120 (Fc18-15-25, 9f33共D10#200) 粗器質150角材張り 新設 (15㎡) : 本工事
[Hatched pattern]	磁器質150角材張り 新設 (43㎡) : 別途工事
[Hatched pattern]	7374舗装 新設 (343㎡) 白線引き (油融式W=150) 新設 (10m) : 別途工事
[Hatched pattern]	化粧玉砂利(砕石)t=40敷き 新設 (86㎡) : 別途工事
[Hatched pattern]	客土 新設 (25㎡) : 別途工事
(A)	既製コクリトL型側溝W=250 新設 (175m) : 別途工事
(B)	地先境界ボックス150×150 新設 (121m) : 別途工事
(C)	コクリト立上りt=100 (H=100~480) 新設 (12m) : 本工事
[Square symbol]	雨水樹 (450×450, H475~775) 新設 : 本工事
100	排水管(数値は管径) 新設 : 本工事
[Square symbol]	雨水樹540×440(L型用) 新設 : 別途工事
150	排水管(数値は管径) 新設 : 別途工事
(±)	1FLからのレベルを示す

記事	仙石高等学校	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務	検 閲	担 当	工事名称	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	日付	総数
											株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行			鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	80 / 109		
															改修前後 外構配置図	縮尺	番号	
															1 / 200	A-70		

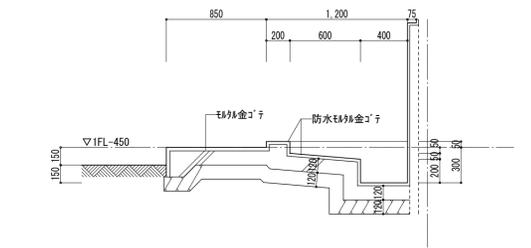
※A3版の場合は50%縮尺とする



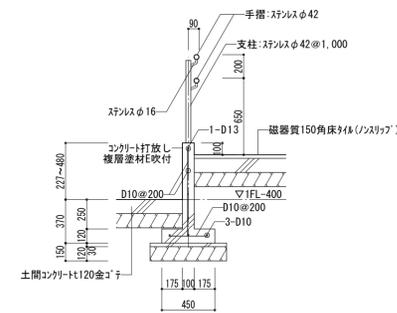
平面詳細図 1/50



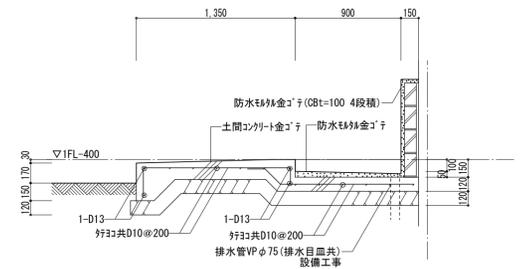
A-A断面詳細図 1/50



撤去 足洗い場 断面詳細図 1/30



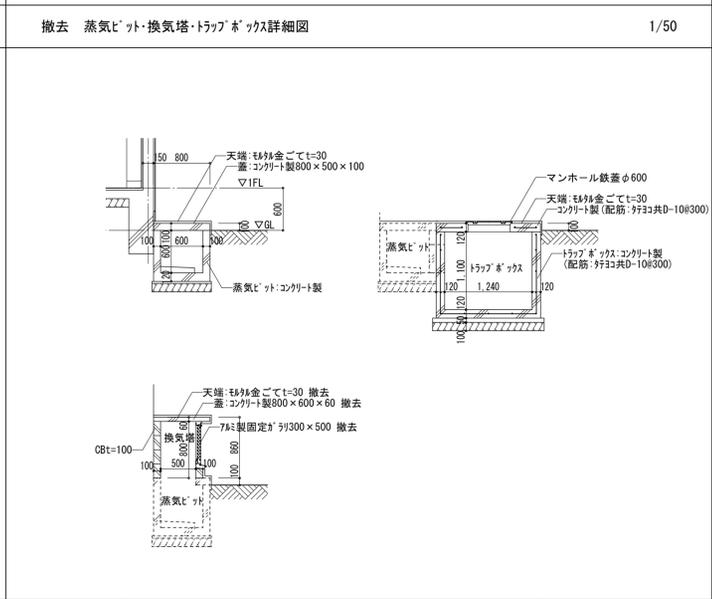
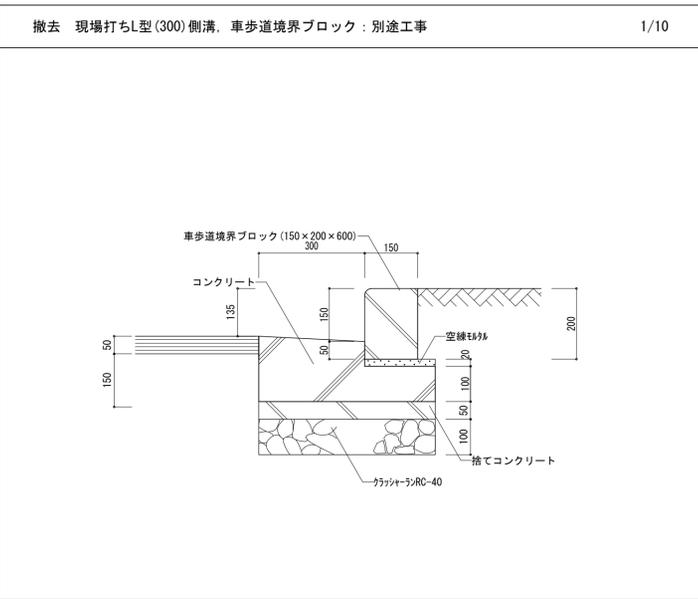
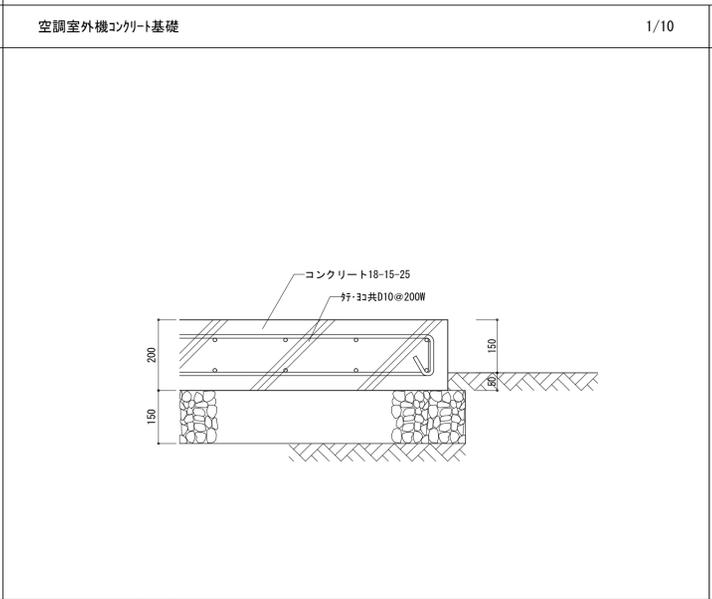
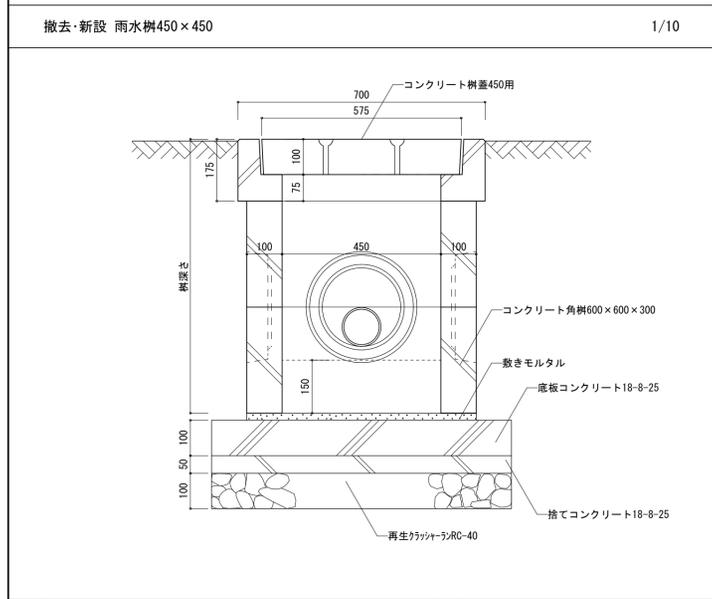
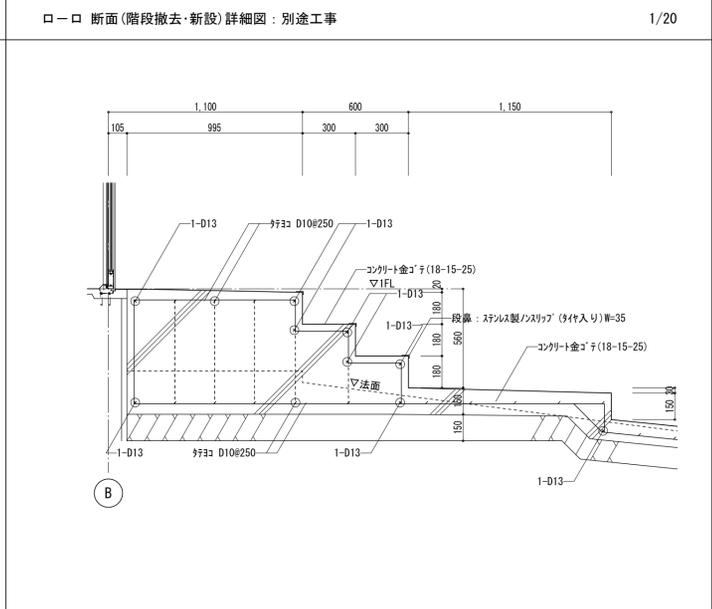
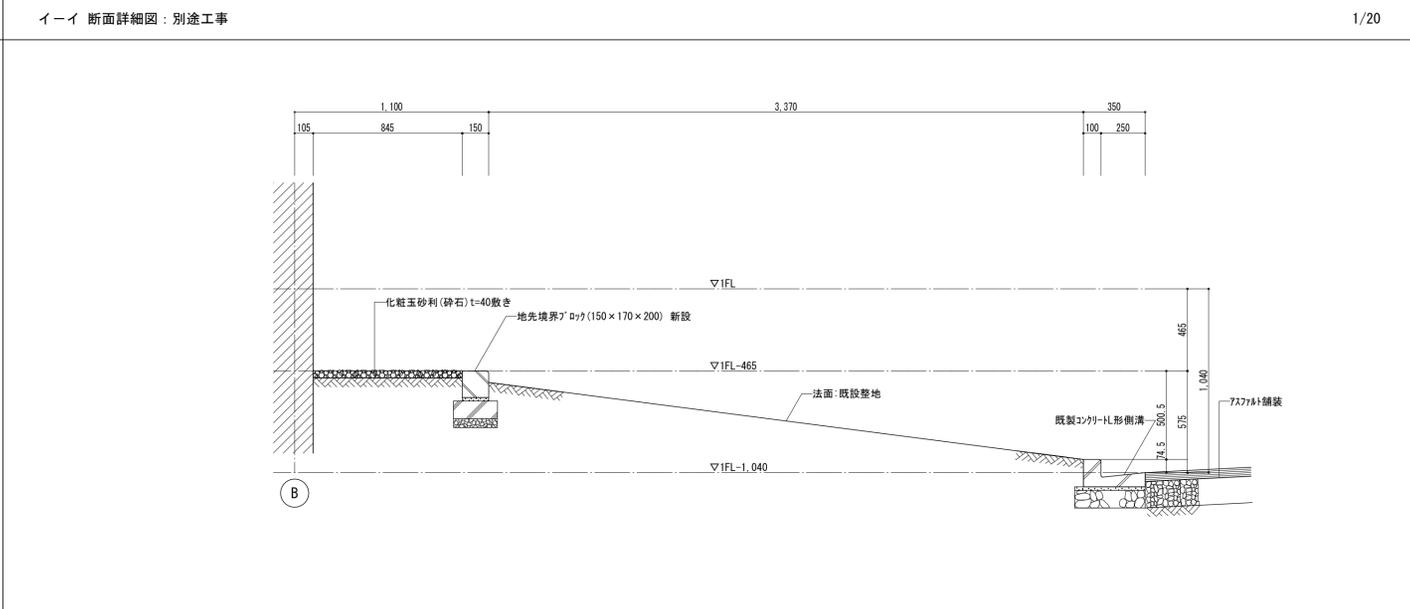
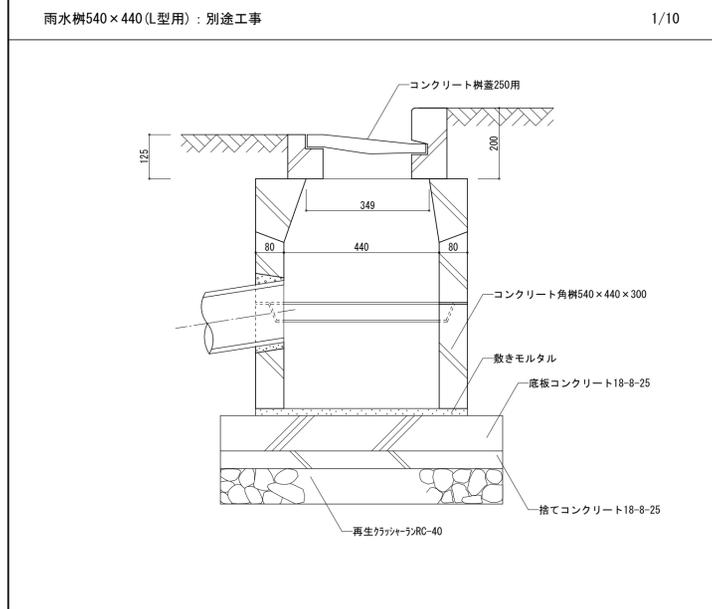
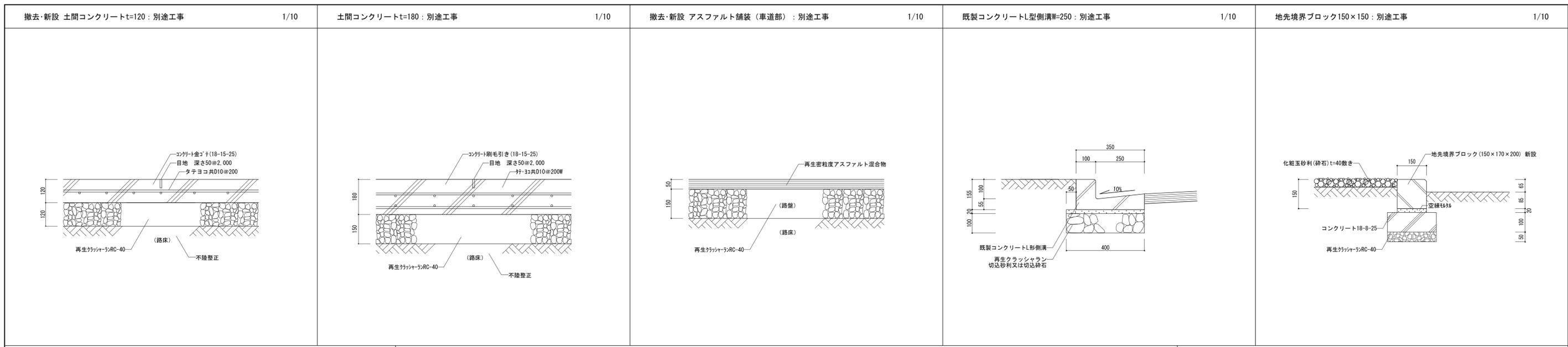
B部 断面詳細図 1/30



足洗い場 断面詳細図 1/30

記事	仙臺工業高等専門学校	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務	検 査	担 当	工事名称	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	日付	総数	
												株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	外構詳細図(1)	縮尺	1/30-50	番号

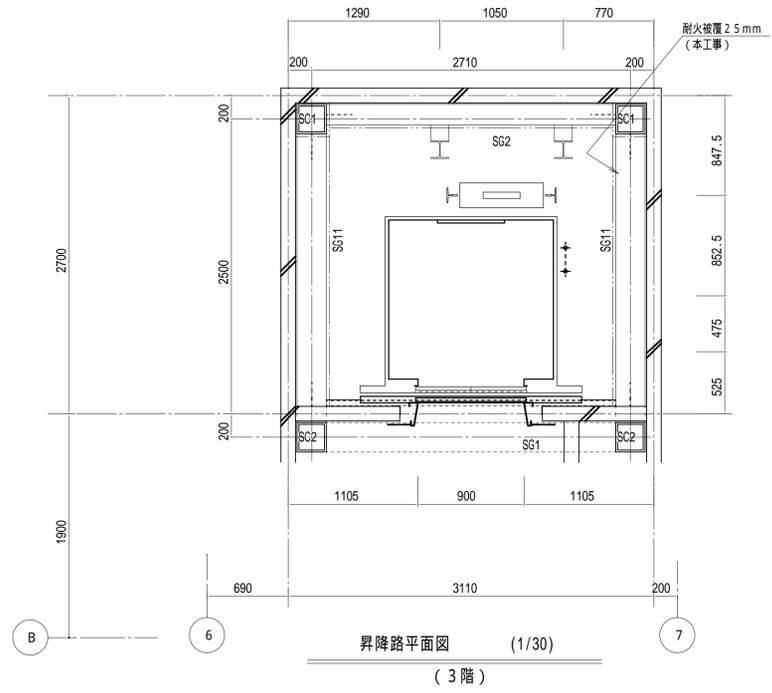
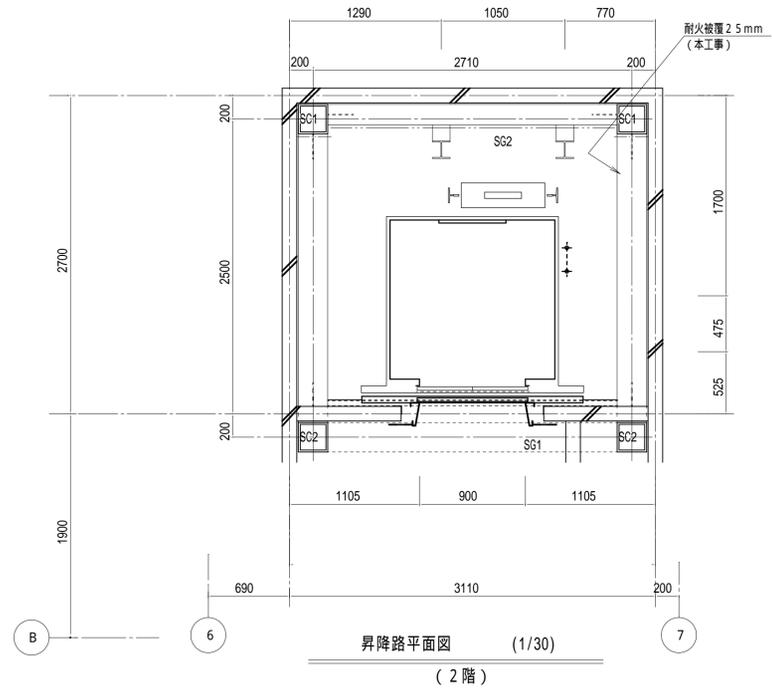
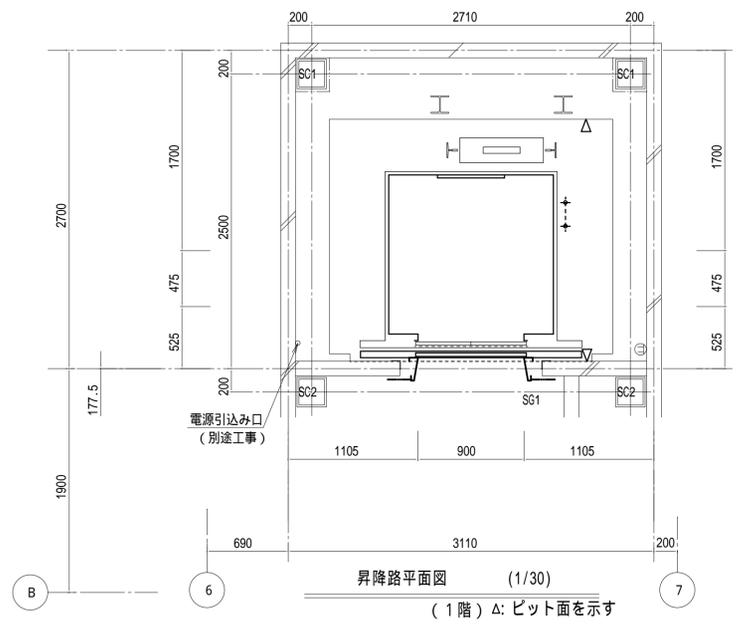
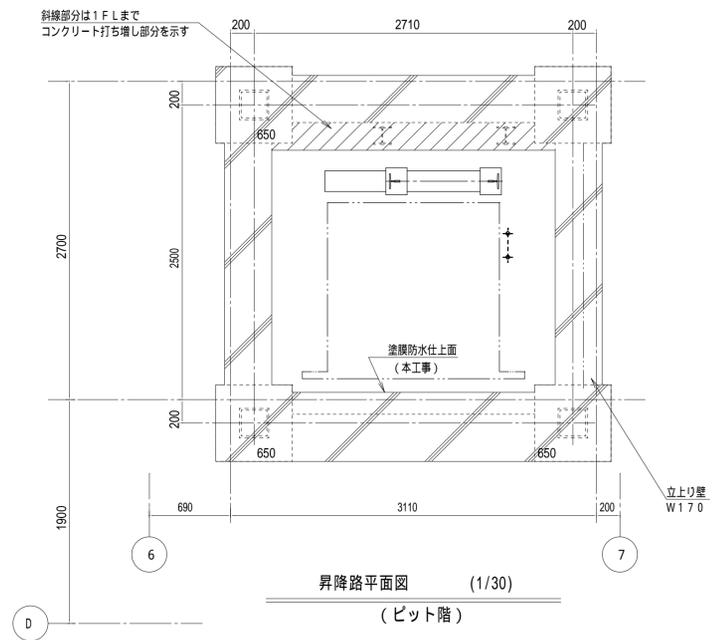
※A3版の場合は50%縮尺とする



記事	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	検図	担当	工事名称	日付	総数
										鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務			鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	82/109
										株式会社 総企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番号
													外構詳細図(2)	1/10-20-50	A-72

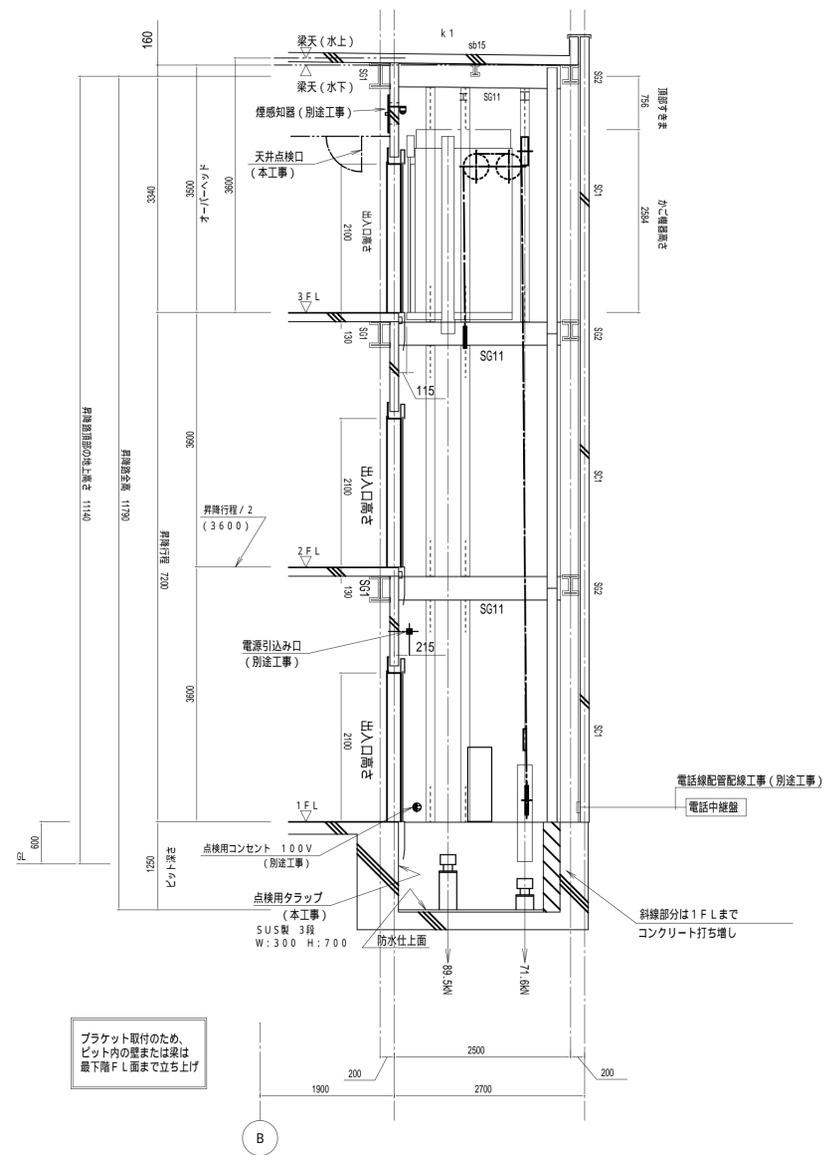
※A3版の場合は50%縮尺とする





名称	部材	G.P.L	HTB	工事区分
三方枠取付材	製造者の仕様による	製造者の仕様による	製造者の仕様による	本工事
敷居取付材				本工事
レールブラケット取付用立柱				本工事
レールブラケット取付用立柱				本工事
レールブラケット取付用兼 掃塵ビーム取付用立柱				本工事
掃塵ビーム				本工事
掃塵ビーム				本工事
A.L.C受け材				本工事

記 事	設計業務名	鈴鹿工業高専管理棟改修設備設計等業務				仙台高等専門学校				鈴鹿工業高等専門学校				工事名称	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事		日付	平成26年6月		総数	84 / 109	
	株式会社	ムーパートナーズ				株主	株主			事務部長	事務部長			図面名称	エレベーター詳細図(1)		縮尺	1/NS		番号	EV-02	
	管理建築士	一級建築士登録 第242551号 植田 亮				棟図	棟図			施設係長	施設係長											



ブラケット取付のため、ピット内の壁または梁は、最下階F.L面まで立ち上げ

名称	部材	G.P.L	HTB	工事区分
三方枠取付材	製造者の仕様による	製造者の仕様による	製造者の仕様による	本工事
敷居取付材				本工事
レールブラケット取付用立柱				本工事
レールブラケット取付用立柱				本工事
レールブラケット取付用兼 掃重ビーム取付用立柱				本工事
掃重ビーム				本工事
掃重ビーム				本工事
A.L.C受け材				本工事

記 事	設計業務名	鈴鹿工業高等専門学校改修設備設計等業務				仙台高等専門学校				鈴鹿工業高等専門学校				工事名称	日付	総数	
		株式会社 ミューパートナーズ 管理建築士 一級建築士登録 第242551号 植田 亮				施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	鈴鹿工業高等専門学校改修その他工事	平成26年6月	85 / 109
															図面名称	縮尺	番号
														エレベーター詳細図(2)	1/NS	EV-03	

A3版の場合は50%縮尺とする



構造特記仕様書		2013年度版																																																																																	
§ 1 一般事項	<p>選択項目は ○印を適用し、●印が無い場合は ※印を適用する。 ○印が複数ある場合は、共に適用する。</p> <p>1-1 使用材料は原則として JIS規格品、又は大臣認定品とする。</p> <p>1-2 設計図書の優先順位は下記による。</p> <p>1) 本特記仕様書</p> <p>2) 設計図</p> <p>3) 標準図</p> <p>4) 仕様書</p> <p>5) 日本建築学会標準仕様書、JASS5、JASS6</p> <p>1-3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承認を得る。</p> <p>1-4 構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。 第三者機関による検査・試験費用は工事費に ( ※含む ●含まない )</p> <p>1-5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承認を得る。</p> <p>1-6 梁貫通位置、径、及び箇所数は ( ●変径 ●構造 ●改築 ) による。</p> <p>1-7 その他</p>	<p>○鉄骨コンクリート構造配筋標準図</p> <p>○鉄骨工作標準図</p> <p>●鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図</p> <p>●高強度せん断補強筋施工仕様書</p> <p>●鉄骨コンクリート型式標準配筋図</p> <p>○公共建築協会 ※日本建築家協会</p>																																																																																	
§ 2 構造計算ルート	<p>2-1</p> <table border="1"> <tr> <th>方向</th> <th colspan="4">構造計算ルート</th> </tr> <tr> <td>X</td> <td>●ルート1</td> <td>●ルート2</td> <td>○ルート3</td> <td>●告示2009号(免震告示)</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>●ルート1</td> <td>●ルート2</td> <td>○ルート3</td> <td>●告示2009号(免震告示)</td> </tr> </table> <p>2-2 鉄筋の継手</p> <p>構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手間長さ ※ 建築基準法施行令第73条(政令第73条第2項)による仕様規定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日本建築学会 JASS5(2009)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説</li> <li>●日本建築学会 RC標準2010</li> </ul> <p>X Y両方向共にルート3及び境界耐力計算の場合は、政令第73条の仕様規定によらず JASS5(2009)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC標準2010とすることができる。</p>	方向	構造計算ルート				X	●ルート1	●ルート2	○ルート3	●告示2009号(免震告示)	Y	●ルート1	●ルート2	○ルート3	●告示2009号(免震告示)	<p>3) 杭径、設計耐力、本数表</p> <table border="1"> <tr> <th>杭径(底部) mm</th> <th>長期 kN</th> <th>短期 kN</th> <th>終局 kN</th> <th>本数</th> <th>備考</th> </tr> <tr><td>( )</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>( )</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>( )</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>4) 杭間補強</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●かご筋</li> <li>●スタッド溶接</li> <li>●杭外周溶接</li> </ul> <p>4-5 場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭</p> <p>1) 工法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●アースドリル工法</li> <li>●拡張アースドリル工法</li> <li>●リバース工法</li> <li>●オールケーシング工法 ( ●ペント工法 ● )</li> <li>●BH工法</li> </ul> <p>2) 杭径、設計耐力、本数表 (杭底部は施工を示す)</p> <table border="1"> <tr> <th>杭径(底部) mm</th> <th>管厚 mm</th> <th>長期 kN</th> <th>短期 kN</th> <th>終局 kN</th> <th>本数</th> <th>備考</th> </tr> <tr><td>( )</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>( )</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>( )</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>( )</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>( )</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>3) 杭先端深さ G L - m</p> <p>4) 孔深測定 (2方向)</p> <p>※ 行う ( ●全数 ● % ) ●行わない</p> <p>5) 使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合 JASS5水中コンクリートによる。</p> <p>コンクリート Fc ( ●普通ポルトランドセメント ●高炉セメント B種 )</p> <p>鉄筋 ● D16以下 SD295A ● D19以上 SD345</p> <p>● D29以上 SD390</p> <p>鋼管 (リブ付) ● SKK400 ● SKK490</p> <p>4-6 杭打地業共通事項</p> <p>1) [ ● 杭長決定用先行杭 ● 試験掘 ● 行う ( 本 ) ● 行わない</p> <p>2) 載荷試験 ● 行う ( 箇所、長期設計耐力の3倍を確認する ) ※ 行わない</p> <p>3) S L 塗布 ● 行う ※ 行わない</p>	杭径(底部) mm	長期 kN	短期 kN	終局 kN	本数	備考	( )						( )						( )						杭径(底部) mm	管厚 mm	長期 kN	短期 kN	終局 kN	本数	備考	( )							( )							( )							( )							( )						
方向	構造計算ルート																																																																																		
X	●ルート1	●ルート2	○ルート3	●告示2009号(免震告示)																																																																															
Y	●ルート1	●ルート2	○ルート3	●告示2009号(免震告示)																																																																															
杭径(底部) mm	長期 kN	短期 kN	終局 kN	本数	備考																																																																														
( )																																																																																			
( )																																																																																			
( )																																																																																			
杭径(底部) mm	管厚 mm	長期 kN	短期 kN	終局 kN	本数	備考																																																																													
( )																																																																																			
( )																																																																																			
( )																																																																																			
( )																																																																																			
( )																																																																																			
§ 3 仮設工事、土工	<p>3-1 山留め、横切り</p> <p>3-2 埋戻し土、盛土、残土処分</p> <p>埋戻し土 ※ 根切り土中の良土 ● 搬入良土</p> <p>盛土 ※ 根切り土中の良土 ● 搬入良土</p> <p>残土処分 ● 場内均し ※ 場外搬出処分 ( ※ 自由 ● 指定場所 )</p>	<p>3) 杭先端深さ G L - m</p> <p>4) 孔深測定 (2方向)</p> <p>※ 行う ( ●全数 ● % ) ●行わない</p> <p>5) 使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合 JASS5水中コンクリートによる。</p> <p>コンクリート Fc ( ●普通ポルトランドセメント ●高炉セメント B種 )</p> <p>鉄筋 ● D16以下 SD295A ● D19以上 SD345</p> <p>● D29以上 SD390</p> <p>鋼管 (リブ付) ● SKK400 ● SKK490</p> <p>4-6 杭打地業共通事項</p> <p>1) [ ● 杭長決定用先行杭 ● 試験掘 ● 行う ( 本 ) ● 行わない</p> <p>2) 載荷試験 ● 行う ( 箇所、長期設計耐力の3倍を確認する ) ※ 行わない</p> <p>3) S L 塗布 ● 行う ※ 行わない</p>																																																																																	
§ 4 地業工事	<p>4-1 基礎及びスラブ下地業 (単位mm)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">場所</th> <th rowspan="2">捨てコンクリート厚さ</th> <th colspan="2">※(1)</th> </tr> <tr> <th>A: 砕石</th> <th>厚さ</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">基礎</td> <td>独立、布</td> <td>※A → B</td> <td>※60 → 100 → 150 →</td> </tr> <tr> <td>べた</td> <td>※A → B</td> <td>※60 → 100 → 150 →</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地中梁</td> <td>※50 ● 60 ● 100</td> <td>※A ● B</td> <td>※60 ● 100 ● 150 ●</td> </tr> <tr> <td>構造スラブ</td> <td>※A ● B</td> <td>※60 ● 100 ● 150 ●</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">土間スラブ</td> <td>屋内</td> <td>※A ● B</td> <td>※60 ● 100 ● 150 ●</td> </tr> <tr> <td>屋外</td> <td>※A ● B</td> <td>※60 ※100 ● 150 ●</td> </tr> </table> <p>注 (1) アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。 (2) 端部aは100以上とする。</p> <p>4-2 設計地耐力 長期 250 kN/m<sup>2</sup> 短期 500 kN/m<sup>2</sup> 終局 kN/m<sup>2</sup></p> <p>地耐力載荷試験 ● 行う ( 箇所、長期設計耐力の3倍を確認する ) ※ 行わない</p> <p>4-3 地盤改良</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 無筋コンクリート地業</li> <li>● 締固め工法</li> <li>● ソイルセメント杭</li> <li>● セメント系固化材投ハシ</li> <li>● 圧密排水工法</li> <li>● 深層混合処理工法</li> <li>[ ● 載荷試験 ● 一軸圧縮試験 ] ● 行う ( 箇所 ) ※ 行わない</li> <li>[ ● 六価クロム溶出試験 ] ● 行う ※ 行わない</li> </ul> <p>4-4 既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭</p> <p>1) 杭種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● PNC杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●</li> <li>● ST杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●</li> <li>● SC杭 tmm ● ● ● ● ●</li> <li>● PRRC杭 ● I種 ● II種 ● III種 ● V種 ●</li> <li>● 鋼杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●</li> </ul> <p>2) 工法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 打撃工法 ● 油圧ハンマー ● ディーゼルハンマー</li> <li>● 埋込み工法 ● プレポーリングセメントミルク注入工法</li> <li>● プレポーリング拡大掘削工法 (認定工法)</li> <li>● 杭間固定液 ※ あり ● なし</li> <li>● 中層拡大掘削工法 (認定工法)</li> <li>● 回転掘削工法 (認定工法)</li> </ul>	場所	捨てコンクリート厚さ	※(1)		A: 砕石	厚さ	基礎	独立、布	※A → B	※60 → 100 → 150 →	べた	※A → B	※60 → 100 → 150 →	地中梁	※50 ● 60 ● 100	※A ● B	※60 ● 100 ● 150 ●	構造スラブ	※A ● B	※60 ● 100 ● 150 ●	土間スラブ	屋内	※A ● B	※60 ● 100 ● 150 ●	屋外	※A ● B	※60 ※100 ● 150 ●	<p>5) 使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合 JASS5水中コンクリートによる。</p> <p>コンクリート Fc ( ●普通ポルトランドセメント ●高炉セメント B種 )</p> <p>鉄筋 ● D16以下 SD295A ● D19以上 SD345</p> <p>● D29以上 SD390</p> <p>鋼管 (リブ付) ● SKK400 ● SKK490</p> <p>4-6 杭打地業共通事項</p> <p>1) [ ● 杭長決定用先行杭 ● 試験掘 ● 行う ( 本 ) ● 行わない</p> <p>2) 載荷試験 ● 行う ( 箇所、長期設計耐力の3倍を確認する ) ※ 行わない</p> <p>3) S L 塗布 ● 行う ※ 行わない</p>																																																						
場所	捨てコンクリート厚さ			※(1)																																																																															
		A: 砕石	厚さ																																																																																
基礎	独立、布	※A → B	※60 → 100 → 150 →																																																																																
	べた	※A → B	※60 → 100 → 150 →																																																																																
地中梁	※50 ● 60 ● 100	※A ● B	※60 ● 100 ● 150 ●																																																																																
	構造スラブ	※A ● B	※60 ● 100 ● 150 ●																																																																																
土間スラブ	屋内	※A ● B	※60 ● 100 ● 150 ●																																																																																
	屋外	※A ● B	※60 ※100 ● 150 ●																																																																																
§ 5 鉄筋工事	<p>5-1 材種</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>径</th> <th>継手</th> </tr> <tr> <td>○SD295A</td> <td>D16以下</td> <td>※重ね継手 ●スパイラル ●工場溶接</td> </tr> <tr> <td>○SD345</td> <td>D19以上 D25以下</td> <td>●重ね継手 ※溶接継手 ●機械継手 ( 級 )</td> </tr> <tr> <td>●SD390</td> <td>D29以上</td> <td>※溶接継手 ●機械継手 ( 級 )</td> </tr> <tr> <td>●SD490</td> <td>D以上</td> <td>※溶接継手 ●機械継手 ( 級 )</td> </tr> <tr> <td>●溶接金剛</td> <td></td> <td>●重ね継手</td> </tr> <tr> <td>●高強度せん断補強筋</td> <td>●127.5級 P ●78.5級 K ●68.5級 UD UR</td> <td>●重ね継手 ●スパイラル ●工場溶接</td> </tr> </table> <p>溶接継手 ※ ガス溶接 ● 突き合せ溶接 (D16以下は重ねアーク溶接でも可)</p> <p>溶接部の検査 (第三者機関による) 外観検査全数 (下記の内いずれでも可とする)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 抜取り検査</li> <li>○ 引張り試験 ( JIS Z 3120 ) <ul style="list-style-type: none"> <li>1検査ロットにつき ※ 3本 ● 原則 柱・梁の径毎に3本</li> </ul> </li> <li>○ 超音波探傷試験 ( JIS Z 3062 ) <ul style="list-style-type: none"> <li>1検査ロットにつき ● 30箇所 ● 熱間押抜き試験</li> <li>○ 不合格となった溶接部は切り取って再溶接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。</li> <li>1検査ロットは1組の作業量が1日に施工した溶接箇所の数で200箇所以内</li> </ul> </li> </ul> <p>5-3 梁貫通補強</p> <p>補強筋は原則として工場製品 (評定品) を使用する。</p> <p>5-4 その他</p> <p>基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として ● 1 一般 ● 2 地反力を受ける とする、 ● 3 上載荷重が大きい場合</p> <p>鉄筋の結立は適切な位置にスプーサーを使用し、結立後は形状保持のための養生を行う。 コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。 コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。</p>	種類	径	継手	○SD295A	D16以下	※重ね継手 ●スパイラル ●工場溶接	○SD345	D19以上 D25以下	●重ね継手 ※溶接継手 ●機械継手 ( 級 )	●SD390	D29以上	※溶接継手 ●機械継手 ( 級 )	●SD490	D以上	※溶接継手 ●機械継手 ( 級 )	●溶接金剛		●重ね継手	●高強度せん断補強筋	●127.5級 P ●78.5級 K ●68.5級 UD UR	●重ね継手 ●スパイラル ●工場溶接	<p>5) 使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合 JASS5水中コンクリートによる。</p> <p>コンクリート Fc ( ●普通ポルトランドセメント ●高炉セメント B種 )</p> <p>鉄筋 ● D16以下 SD295A ● D19以上 SD345</p> <p>● D29以上 SD390</p> <p>鋼管 (リブ付) ● SKK400 ● SKK490</p> <p>4-6 杭打地業共通事項</p> <p>1) [ ● 杭長決定用先行杭 ● 試験掘 ● 行う ( 本 ) ● 行わない</p> <p>2) 載荷試験 ● 行う ( 箇所、長期設計耐力の3倍を確認する ) ※ 行わない</p> <p>3) S L 塗布 ● 行う ※ 行わない</p>																																																												
種類	径	継手																																																																																	
○SD295A	D16以下	※重ね継手 ●スパイラル ●工場溶接																																																																																	
○SD345	D19以上 D25以下	●重ね継手 ※溶接継手 ●機械継手 ( 級 )																																																																																	
●SD390	D29以上	※溶接継手 ●機械継手 ( 級 )																																																																																	
●SD490	D以上	※溶接継手 ●機械継手 ( 級 )																																																																																	
●溶接金剛		●重ね継手																																																																																	
●高強度せん断補強筋	●127.5級 P ●78.5級 K ●68.5級 UD UR	●重ね継手 ●スパイラル ●工場溶接																																																																																	
§ 6 コンクリート工事	<p>6-1 設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup>)</p> <p>1) セメント ※ 普通ポルトランドセメント JIS R 5210 ● 高炉セメント B種 ● 低熱ポルトランドセメント JIS R 5210 ●</p> <p>2) 粗骨材 ● 砂利 ※ 砕石 ● 高炉スラグ骨材 ● 人工軽量骨材 ● 再生骨材</p> <p>最大径 (mm) ※ 20 ● 25 ● 40</p> <p>3) 躯体 (使用区分は設計図の軸組図に示す)</p> <p>○ 普通コンクリート ● Fc18 ● Fc21 ● Fc24 ● Fc27 ● Fc30 ● Fc ● Fc ● Fc ● 軽量コンクリート ( ※ 1種 ● 2種 気乾単位容積質量 ※ 18.5 ● ) ● LFc18 ● LFc21 ● LFc24 ● LFc27 ● LFc30 ● LFc</p>	<p>5) 使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合 JASS5水中コンクリートによる。</p> <p>コンクリート Fc ( ●普通ポルトランドセメント ●高炉セメント B種 )</p> <p>鉄筋 ● D16以下 SD295A ● D19以上 SD345</p> <p>● D29以上 SD390</p> <p>鋼管 (リブ付) ● SKK400 ● SKK490</p> <p>4-6 杭打地業共通事項</p> <p>1) [ ● 杭長決定用先行杭 ● 試験掘 ● 行う ( 本 ) ● 行わない</p> <p>2) 載荷試験 ● 行う ( 箇所、長期設計耐力の3倍を確認する ) ※ 行わない</p> <p>3) S L 塗布 ● 行う ※ 行わない</p>																																																																																	

4) 土間コンクリート ● Fc 21 スラブ18cm (ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)

5) 捨てコンクリート ● Fc 18 スラブ15cm

6) 防水押さえコンクリート ● Fc 21 ● LFc (気乾単位容積質量 ※ 18.5 ● )

7) かき上げコンクリート ● Fc 24 ● LFc (気乾単位容積質量 ※ 18.5 ● )

6-2 混和材 ※ AE 減水剤 ● 高性能 AE 減水剤 ● 躯体防水材 ● 膨張材 ● )

※ 1. 混和剤は所定の品質を確保するためにブランドの特性に応じたものを使用する。

6-3

箇所	基礎、地中梁	一般	備考
スラブ	cm 18	18	
水セメント比 %			60以下
単位水量 kg/m <sup>3</sup>			185以下
単位セメント量 kg/m <sup>3</sup>			270以上

6-4 試験 (躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)

1) 骨材 [ ● 塩分含有量 ● アルカリシカ反応性 ] ※ 行う ● 行わない

2) フレッシュコンクリート [ ● スラブ ● 空気量 ] ※ 行う ● 行わない

3) 躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 ※ 行う ● 行わない

4) コンクリートコア抜き取り圧縮試験 ● 行う ※ 行わない

5) マスコンクリートのひび割れ調査 (温度応力解析) ● 行う ※ 行わない

6) 単位水量測定 ● 行う ※ 行わない

6-5 鋼合 (補正値は工事費に含む)

計画供用期間の級 ( ) は耐久設計基準強度 Fd

● 短期 (18) ※ 標準 (24) ● 長期 (30) ● 超長期 (36)

鋼合管理強度 Fm = Max ( Fc, Fd ) + S S = 3 ~ 6

材齢28日の鋼合強度 F は下記の式を満足するものとする。  
F ≥ Fm + 1.73σ F ≥ 0.85Fm + 3σ

6-6 せき板及び支柱の在り期間 (普通ポルトランドセメントの場合)

	基礎、梁、柱、壁	スラブ下	梁下
コンクリート	15℃以上 3日	17日	
の材齢による	5℃以上 5日	25日	28日
場合	0℃以上 8日	28日	
圧縮試験による場合	5N/mm <sup>2</sup>	0.85Fcまたは12N/mm <sup>2</sup>	設計強度

6-7 気密性能表示

劣化等級 ● 等級2 ● 等級3

劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造躯体標準図 (1) 2-7がふり厚さが変わる場合がある工事とする。

6-8 Fc60を超える高強度コンクリートは別記特記仕様書による。

7-8 溶接手法及び管理

1) 使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバス温度等の仕様については鉄協協又は全協協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。

2) 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技能者技能検定加試験を ● 行う ● 行わない

3) AW検定 (工場・現場・代替タブ) の有資格者で、係員の承認を受けた者は技能検定加試験を免除する。

7-9 デッキプレート (単位 mm)

1) 床用 高さ ● 板厚 ●

2) 合成スラブ用 高さ ● 50 板厚 ● 1.2

3) 型枠用 高さ ● 板厚 ● 形板 タイプ

4) 防錆処理 ● プライマー ● 亜鉛メッキ ● Z12 ● Z27

7-10 錆止め塗料 (工場 ※ 2回 1回 ● 現場タッチアップ程度とする)

1) 素地こしらえ ※ ケレン ● プラスト

2) 錆止め塗料

通用		塗料	種別	標準膜厚
室外	室内			
○	※	鉛、クロムフリー錆止め	JIS K 5674	30 μm
●	●	一般用錆止めペイント	JIS K 5621	● 1種 ● 2種 35 μm
●	●	ジンクリッチプライマー	JIS K 5522	● 1種 ● 2種 15 μm
※	●	シアナミド錆止めペイント	JIS K 5625	● 1種 ● 2種 35 μm

3) 溶融亜鉛メッキ ● 行う ● 行わない

7-11 溶接部の検査 (受入検査) ※ 行う ● 行わない

1) 受入検査を行う第三者検査機関は、工事施工者 (元請) との直接契約による。

2) 第三者検査機関は (社) 日本溶接協会による C I W 検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。

3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。

4) 外観検査の合格判定は国土交通省告示 1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2007 付則6 鉄骨検査検査基準」の取扱いによる。

5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造溶接部の超音波探傷検査標準・同解説」2008により、合格判定は7.2.1歳劣を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。

6) 溶接箇所数の取え方は「JASS6 鉄骨工事 2007」表6.1溶接箇所数の取え方による。

7) 受入検査の採取方法及び採取率は以下による。

a) 工場溶接の場合

1. 検査ロットは各部、各工毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。

2. 採取数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。

3. サンプリングの結果、不合格率が5%以内の場合はロットを合格とし、不合格率が5%を超えた場合は更に同一ロットの中から30箇所をサンプリングし、合計60箇所の不合格率が5%以内の場合合格とする。不合格率が5%を超えた場合は残り全数の検査を行う。

b) 現場溶接の場合

1. 全数検査とする。

8) 検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならなければならない。

9) ずれ、食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違いのずれの検査・補修マニュアル」等を参考にする。

7-12 鉄骨製作工場

国土交通省大臣認定 (グレード)				
S	H	M	R	J

§ 8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

8-1 コンクリートブロック

1) 種類 ● A種 ● B種 ● C種

2) 厚さ mm ● 100 ● 120 ● 150 ● 190

8-2 ALCパネル

1) 使用箇所 ● 床 ● 屋根 ● 外壁 ● 内壁

2) 厚さ mm ● 75(80) ● 100 ● 120 ● 150 ● 175

3) 外壁取り付仕様

方向	構法	使用箇所	備考
縦	● スライド構法		
	● ロッキング構法		
横	● カバープレート構法		
	● ボルト止め構法		

8-3 押出成形セメント板

外壁取付方法及び厚さ mm ● ●

方向	構法	使用箇所	備考
縦	● ロッキング構法		
	● スライド構法		

8-4 PCa板

1) 床及び屋根 ● 床 ● 屋根

● PCa板厚さ 厚さ mm ● ●

● 合成床

PCa板厚さ mm	現場打厚さ mm	合計厚さ mm	備考

2) 外壁 厚さ mm ● ●

株式会社 飯島建築事務所  
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-24) 第4813号  
一級建築士 第242798号  
構造設計一級建築士第5701号 森 隆寿

一般社団法人関西建築構造設計事務所協会

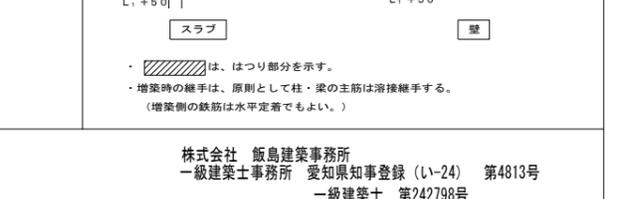
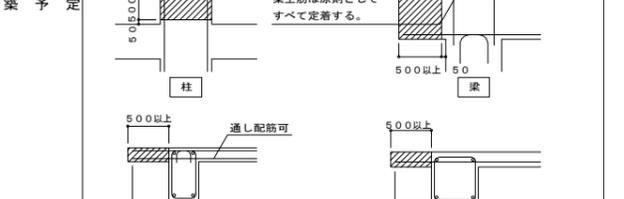
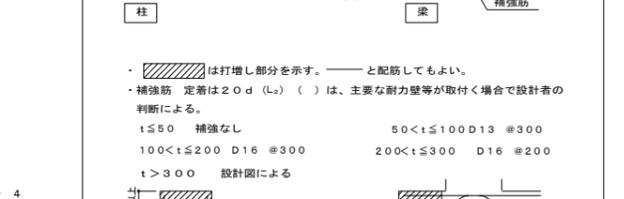
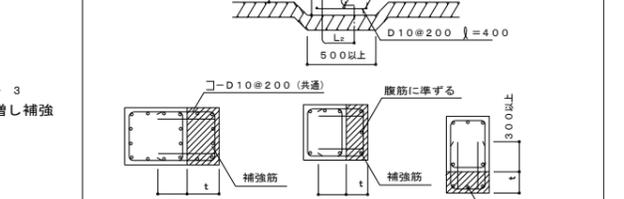
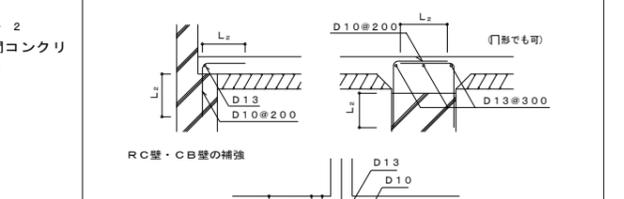
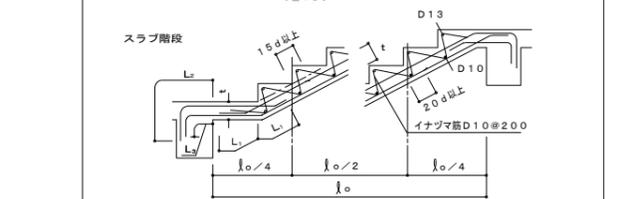
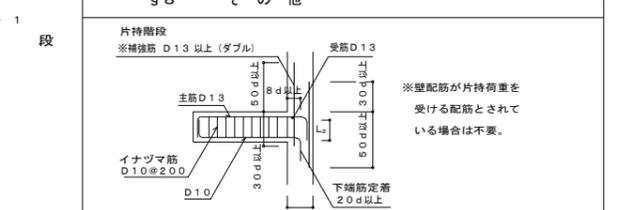
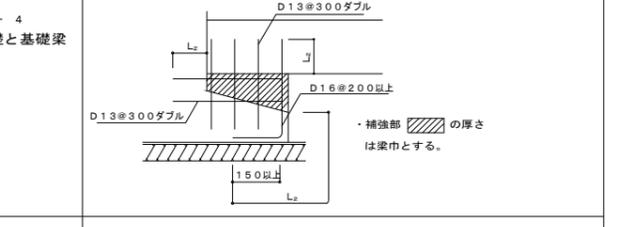
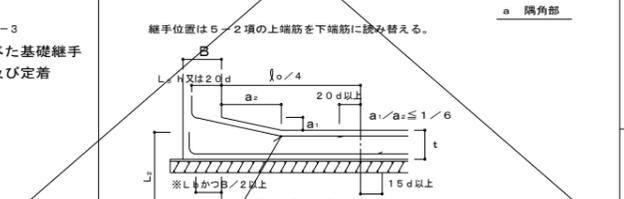
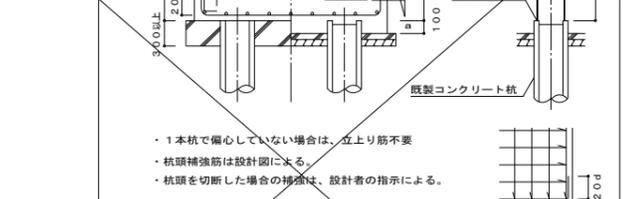
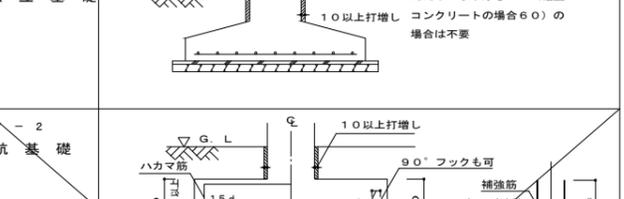
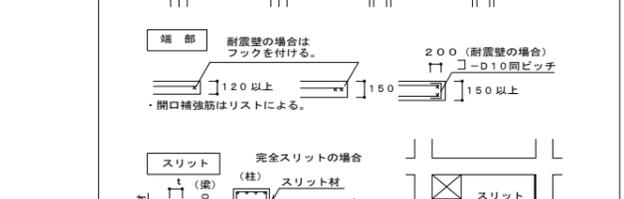
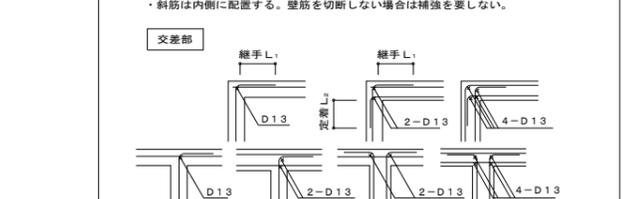
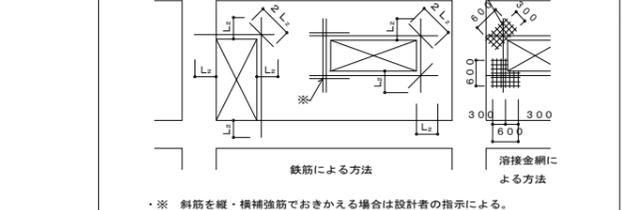
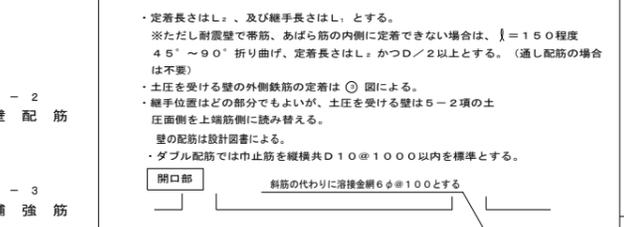
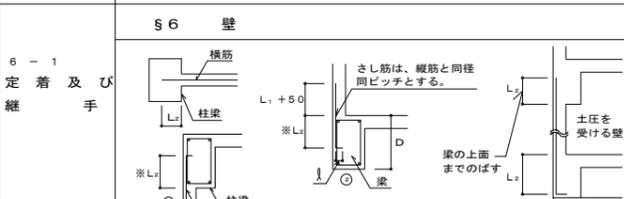
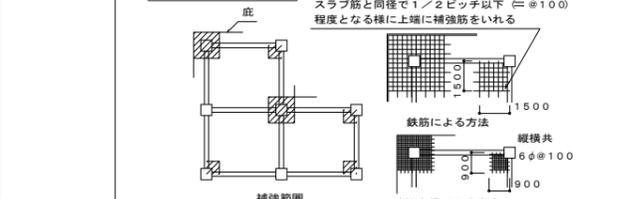
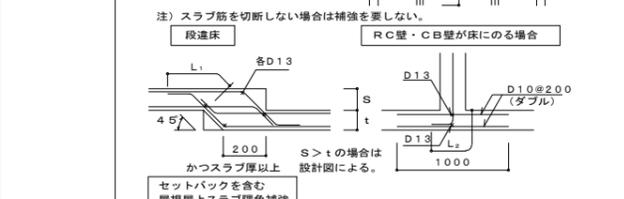
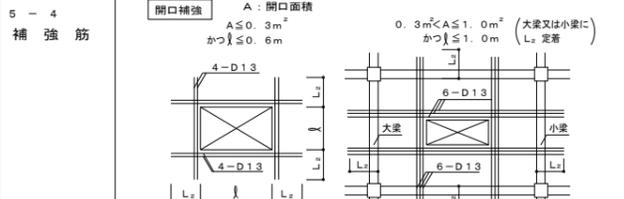
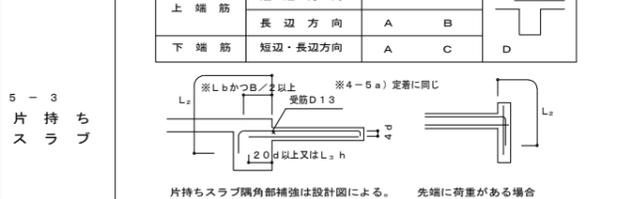
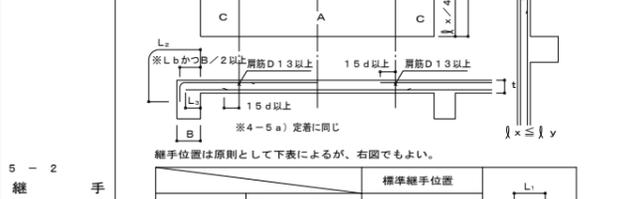
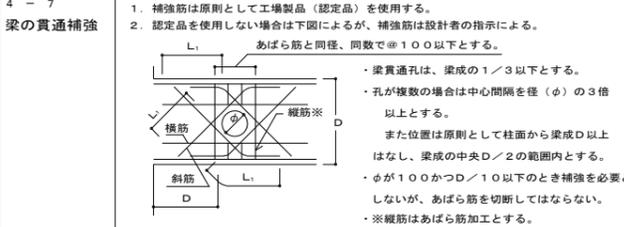
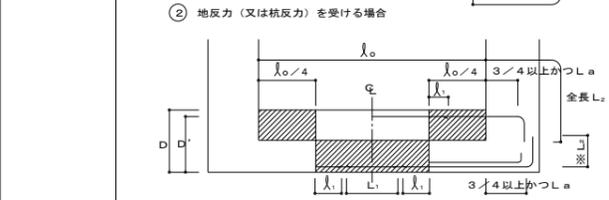
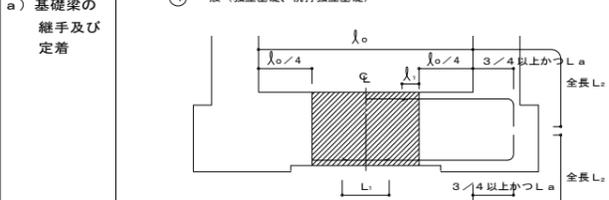
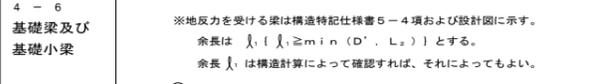
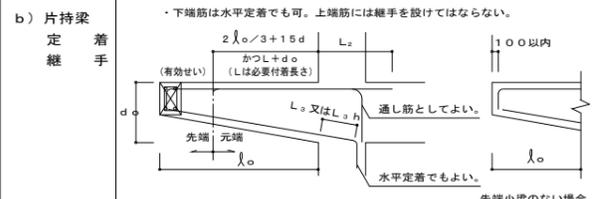
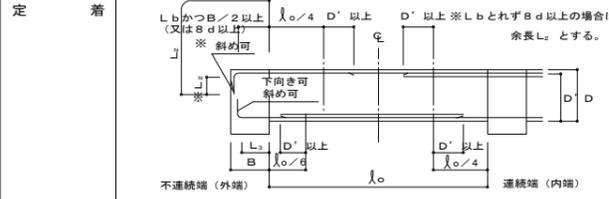
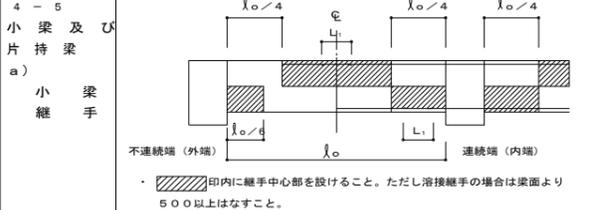
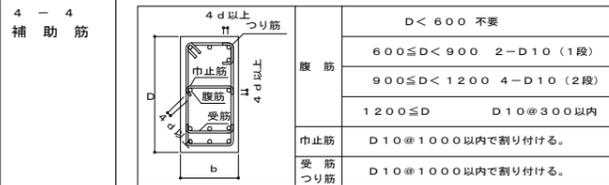
TEL (06) 6763-8205 FAX (06) 6763-8206 http://www.kse-wab.com/

2013年2月1日作成 (不詳欄)

記 事	施設課長	課長補佐	係長	担当	総務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	検 図	担 当	工事名称	日付	総 数
										鹿鹿工業高専管理棟改修設計等業務			鹿鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	87 / 109
										株式会社 緑企面設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 犬飼 和行			鹿鹿工業高専管理棟改修その他工事	縮尺	番号
													構造特記仕様書		S-02



鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2) 2013年度版



株式会社 飯島建築事務所  
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-24) 第4813号  
一級建築士 第242798号  
構造設計一級建築士第5701号 森 隆寿

記	事	仙台高等専門学校	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	検	図	担	工	事	日	付	総	数	
														鈴鹿工業高専管理棟改修等業務				鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	89/109		
													株式会社 線企画設計				鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	縮尺			番号	S-04

※A3版の場合は50%縮尺とする





令第129条の2の4の事項

※設計が該当する場合には、□にチェックを記入する。

- ・ 建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
  - 建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。
  - 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
  - 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。
  - 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
  - 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、
    - 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
    - 建築物の部分を通り配管する場合には、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
    - 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
    - 管を支持し、又は固定する場合には、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
  - 給湯設備は、支持構造部及び緊結金物を腐食又は腐朽のおそれのないものとするほか、風圧・土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。（\*）
  - 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあつては建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

株式会社 飯島建築事務所  
 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-24) 第4813号  
 一級建築士 第242798号  
 構造設計一級建築士第5701号 森 隆寿

一般社団法人関西建築構造設計事務所協会

TEL (06) 6763-8205 FAX (06) 6763-8206

http://www.kse-web.com/

2013年2月1日作成 (不許複製)

記 事	仙台高等専門学校	施設課長	課長補佐	係長	担当	鈴鹿工業高等専門学校	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務	検 閲	担 当	工事名称	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	日付	総数	
													株式会社 線企画設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 大綱 和行			図面名称	設備工事構造特記仕様書	縮尺	番号	
																			92/109	S-07

# QL デッキ合成スラブ設計・施工標準

JFE 建材 株式会社

QL デッキ合成スラブリ設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・解説」『鉄骨工事技術指針』『建築工事標準仕様書・解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事及び JASS6 鉄骨工事』、(社)日本鉄鋼連盟「デッキプレート床構造設計・施工標準-2004」、合成スラブ工業会「合成スラブリ設計・施工マニュアル」、QL デッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

## 設 計

材料/デッキプレート		【ISO 9001 認証取得】	
デッキプレート種類	板厚(mm)	表面処理	
QL デッキ	端部加工 ■ 端部加工 ■ 1/4 有リ □ 無し	□ 1.2 □ 1.6	■ 表面防錆処理(一次塗装) QL プライマー(P) □ 亜鉛めっき [CZ12 CZ27] □ ZAM (高耐食溶融めっき鋼板) [CK27 CK35] □ 無し
QL セルラー	□ GKX-50 □ GKX-75	□ 1.2 □ 1.6	亜鉛めっき Z27 限定
材 質	JIS G 3352 に定める SDP1T, SDP2, SDP2G		

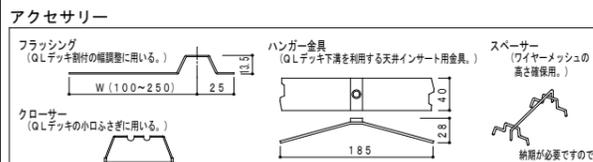
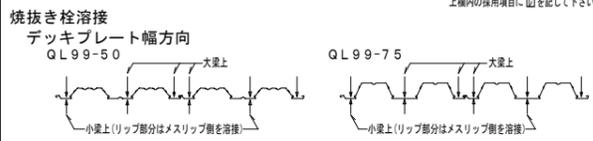
材料/コンクリート	
種 類	■ 普通コンクリート □ 軽量コンクリート (□1種 □2種)
設計基準強度	□ 18 ■ 21 □ ( ) N/mm <sup>2</sup>
厚さ(QL デッキ山上)	□ 60 □ 70 ■ 80 □ 85 □ 90 □ 95 □ 100 □ ( ) mm

材料/溶接金網・異形鉄筋	
■ 溶接金網	JIS G 3551 ■ φ6-150x150 □ φ6-100x100
■ 異形鉄筋	JIS G 3112, 3117 □ D10-φ200 □ ( )

接 合	
■ 溶接金網	下配溶接金網溶接の項による
□ 打込み鉄	接合箇所は特記による
■ 頭付きスタッド	JIS B 1198 □ φ13 ■ φ16 ■ φ19 □ φ22 各長さ・ピッチは特記による
□ その他	( )

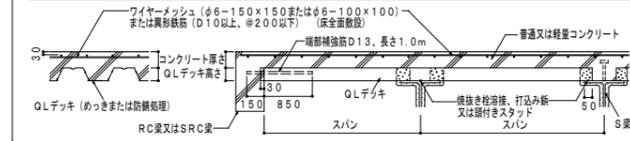
耐 火	
連続支持	1 時間 ■ FP060FL-9095 □ FP120FL-9107
単純支持	■ FP060FL-9101 □ FP120FL-9113
その他	□ ( ) □ ( )
□ 指定なし	□ ( ) □ ( )

特 記	
支保工有無	■ 有 □ 無
その他	( )



## 耐火仕様

【連続支持合成スラブ】					
耐火時間	コンクリート種類	品 名	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9095	普通コンクリート	QL99-50	3.0m 以下	80mm 以上	算出式 注5) A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	算出式 注5) B 参照
		QL99-50	3.0m 以下	90mm 以上	算出式 注5) A 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9107	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	95mm 以上	算出式 注5) A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	95mm 以上	算出式 注5) B 参照
		QL99-50	2.7m 以下	85mm 以上	算出式 注5) B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	95mm 以上	算出式 注5) A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	算出式 注5) B 参照
		QL99-50	2.7m 以下	85mm 以上	算出式 注5) B 参照

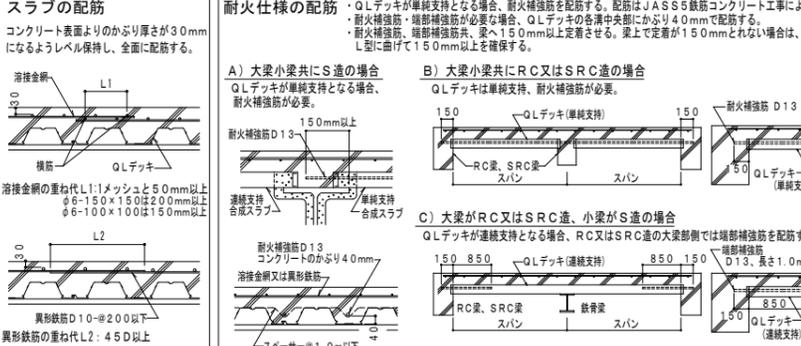
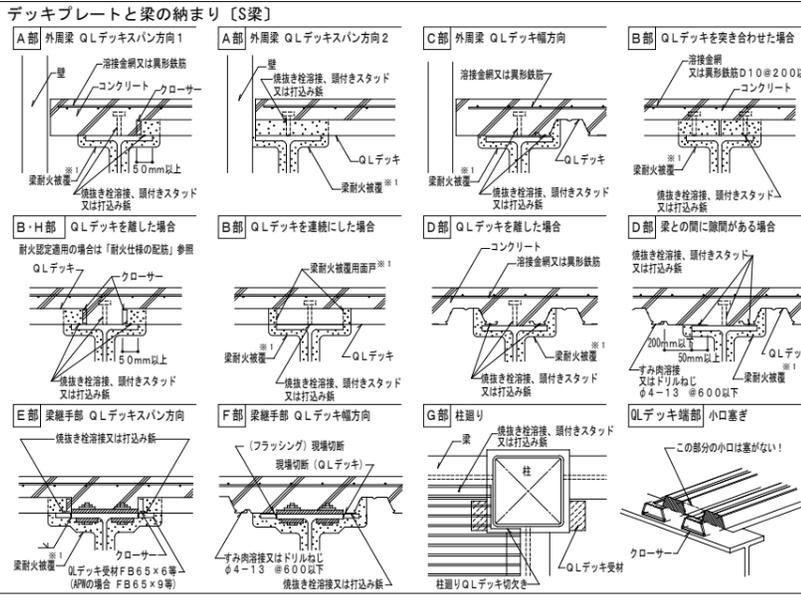
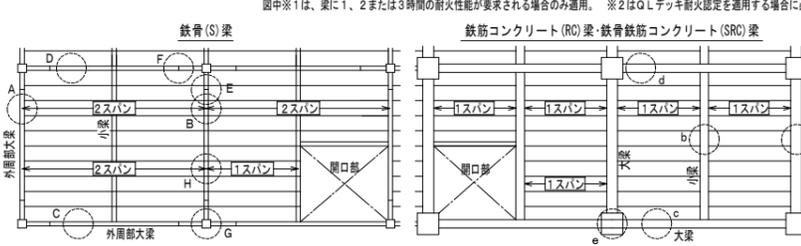


## 【単純支持合成スラブ】

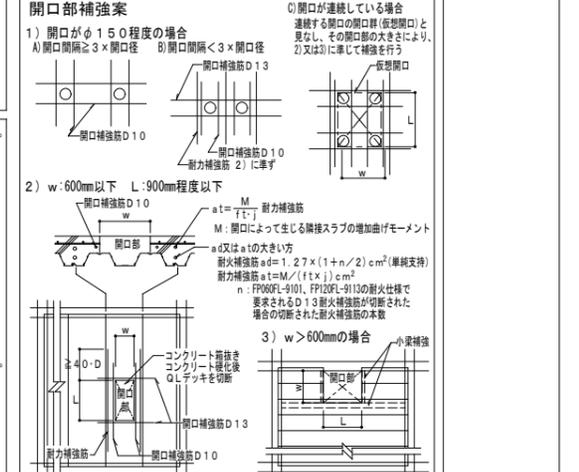
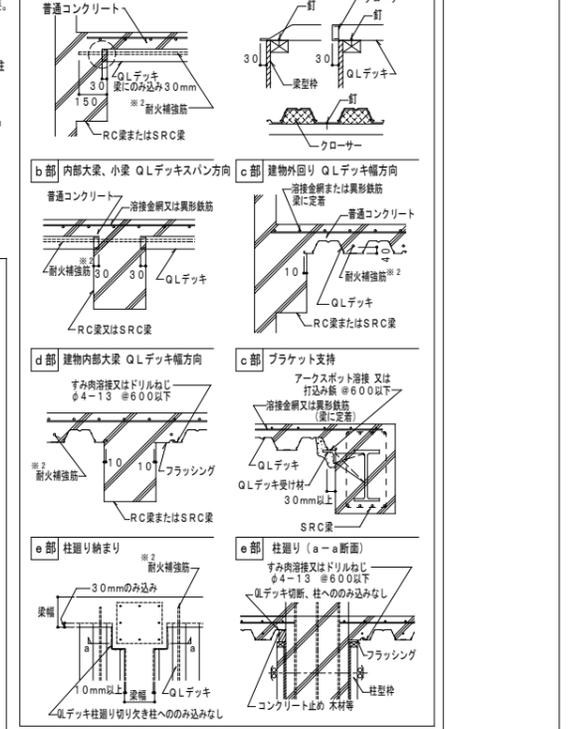
耐火時間	コンクリート種類	品 名	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	80mm 以上	算出式 注5) A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	算出式 注5) B 参照
		QL99-50	2.7m 以下	95mm 以上	算出式 注5) A 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	95mm 以上	算出式 注5) A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	算出式 注5) B 参照
		QL99-50	2.7m 以下	85mm 以上	算出式 注5) B 参照



## 標準納まり



## デッキプレートと梁の納まり [RC-SRC梁]



施 工	施工順序	
	敷 込 み	検 査
敷込み仮止め溶接	鉄骨梁の場合 1) 敷込みに合わせて1枚目のデッキプレートと梁を仮止め溶接した後、順次溶接枚数(5~10枚)ごとに仮止め溶接する。 2) 各大梁上にデッキプレートの隅部が乗るように敷込む。	1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 溶接金網敷込み 4) コンクリート打設 5) 検 査
	RC梁またはSRC梁の場合 1) デッキプレートは梁型枠へのみ込み代が幅方向10mm以上、長手方向が90mmあることを確認する。	1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 溶接金網敷込み 4) コンクリート打設 5) 検 査

デッキプレートと梁との接合			
工 程	手 順・要 領	検 査	備 考
1 アーク発生	QL デッキを梁に押し当て(間隔2mm以下)溶接棒をQL デッキに垂直に押し当ててアークを発生させる。	溶接棒の押し当て位置を確認する。	溶接棒の押し当て位置を確認する。
2 QL デッキ溶接	溶接棒を押し上げてアークを飛ばし、径10mm程度の穴を開けてQL デッキを溶接する。	溶接棒の押し当て位置を確認する。	溶接棒の押し当て位置を確認する。
3 押し込み・溶接	溶接棒を押し上げてアークを飛ばし、径10mm程度の穴を開けてQL デッキを溶接する。	溶接棒の押し当て位置を確認する。	溶接棒の押し当て位置を確認する。
4 整 形	溶接棒を押し上げてアークを飛ばし、径10mm程度の穴を開けてQL デッキを溶接する。	溶接棒の押し当て位置を確認する。	溶接棒の押し当て位置を確認する。

検 査	
溶接金網敷込み	自動溶接金網敷込み
1) 溶接棒の押し当て位置を確認する。 2) 溶接棒の押し当て位置を確認する。 3) 溶接棒の押し当て位置を確認する。	1) 一次側電圧の必要容量: 仮設電力の場合 18kVA以上 3相 200V 発電機の場合 35kVA以上 3相 200V (2) ワイヤの種類と直径: YGW 11, 12 φ1.2mm (3) 標準溶接条件: 下表

(参考) ひび割れ拡大防止のための留意事項	
大梁上の補強例	柱廻りの補強例
1) 設計上の留意点 ① 小梁の剛性を大きくする。 ② ひび割れ拡大防止のための補強筋を設ける。(右図補強例参照) ③ スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。(コンクリート厚さをQL デッキ山から80~90mmと厚くする。) ④ デッキプレートは各端で梁に接合すること。 ⑤ 頭付きスタッド使用の場合、デッキプレート全長をアークスポット溶接するが望ましい。	1) 水セメント比を小さくする。 ② 単位重量 175kg/m <sup>3</sup> 以下 ③ ベースコンクリートスラブ 10cm ④ スラブ厚 15cm ⑤ 高性化AE減水剤 ⑥ 溶接金網の位置: かり厚さ30mmを確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する) ⑦ コンクリート打込み後: 1週間以内は歩行作業を行わず、歩行程度は可。 ⑧ 打込み後初期には散水や養生シート等で湿度養生を行う。 ⑨ 湿度が上がるまでは、散水養生は必須。 ⑩ 打込み後4~7日間はスラブに振動や荷重を加えないようにし、十分な養生期間を設ける。

株式会社 飯島建築事務所  
一級建築士事務所 愛知県知事登録(い-24) 第4813号  
一級建築士 第242798号  
構造設計一級建築士第5701号 森 隆寿  
その他の納まり・参考例については、QL デッキ施工マニュアルまたは別途「納まり図」(技術資料CADデータ収録)を参照下さい。  
©2011/11/16/A1-JWW/AD

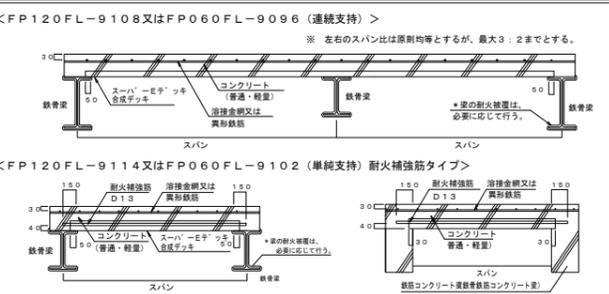
記 事	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務										検 図	担 当	工事名称	日付	総数	
	施工長	副施工長	係 長	担 当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担 当	業務名						
	仙台高等専門学校													鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	93/109
														QL デッキ合成スラブ設計・施工標準	縮尺	番号 S-08

合成スラブの設計・施工は(社)日本鉄鋼連盟編「デッキプレート床構造設計・施工標準-2004」(社)日本建築学会編「各種合成構造設計指針・同解説」、(社)日本建築学会編「建築工事標準仕様書・同解説のうちJASS6鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、合成スラブ工業会編「大臣認定・無被覆耐火構造 合成スラブの設計・施工マニュアル」、日鐵住金建材デッキプレートカタログ及び設計・施工便覧による。

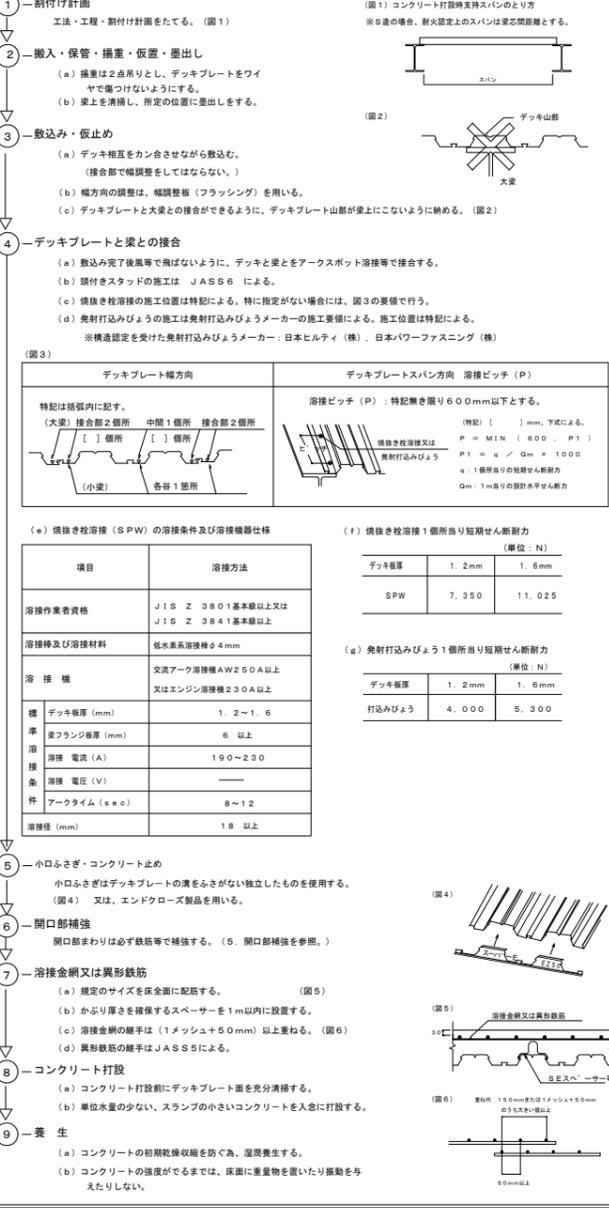
1. 設計
デッキプレート: 品名 (EZ50, EZ75), 板厚 (1.2, 1.6), 表面処理 (Z12, Z27, 無し), 種類 (普通, 軽量1種, 軽量2種)
コンクリート: 設計基準強度 (N/mm²), デッキ山厚さ (mm)
溶接金網又は異形鉄筋: 溶接金網 (JIS G3551), 異形鉄筋 (JIS G3112, 3117)
スーパーEデッキ用システム部品: SEスエーサー, SEハンカ'ー

2. 耐火設計

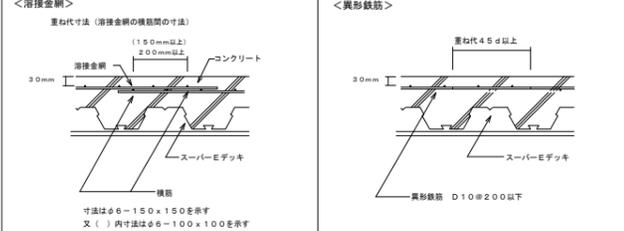
耐火区分: 耐火構造仕様 (詳細は下記の通り), 耐火要求なし
認定条件: 認定番号, 使用条件, 認定条件, 断面仕様, はり構造
FP120FL-9108: 連続支持, 許容スパン (2.7以下), 許容荷重 (<式1>), 品名 (EZ50), コンクリート厚さ (普通95以上), ひび割れ拡大防止筋 (普通90以上), 耐火時間 (2時間)



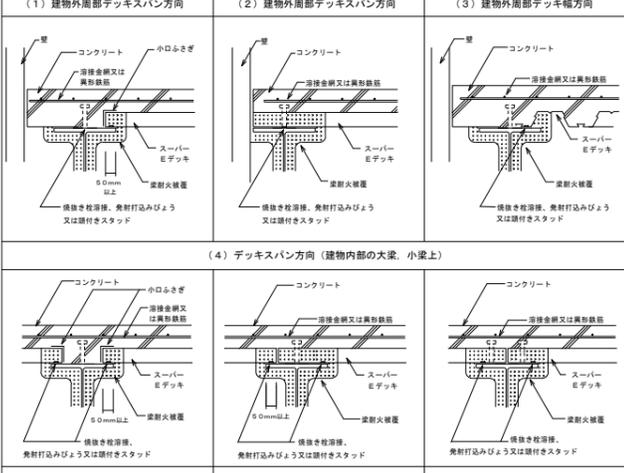
3. 施工



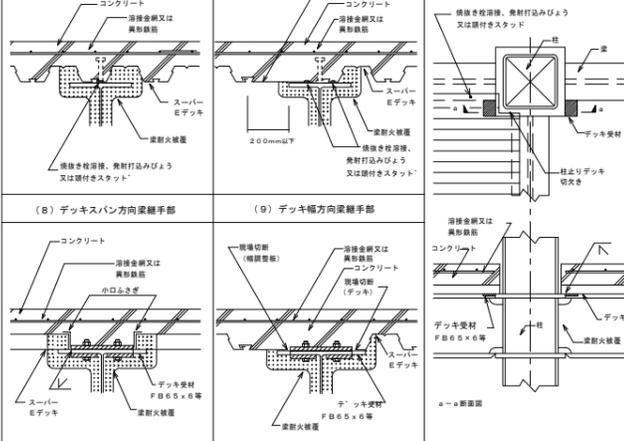
4-1. 溶接金網又は異形鉄筋の納り (共通)



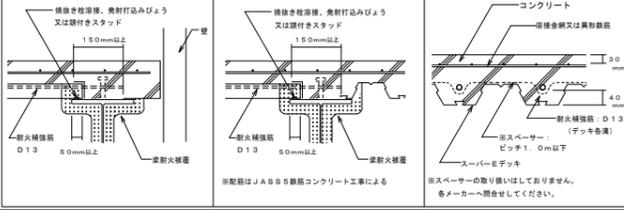
4-2. 標準納まり: S造 (鉄骨造) の場合



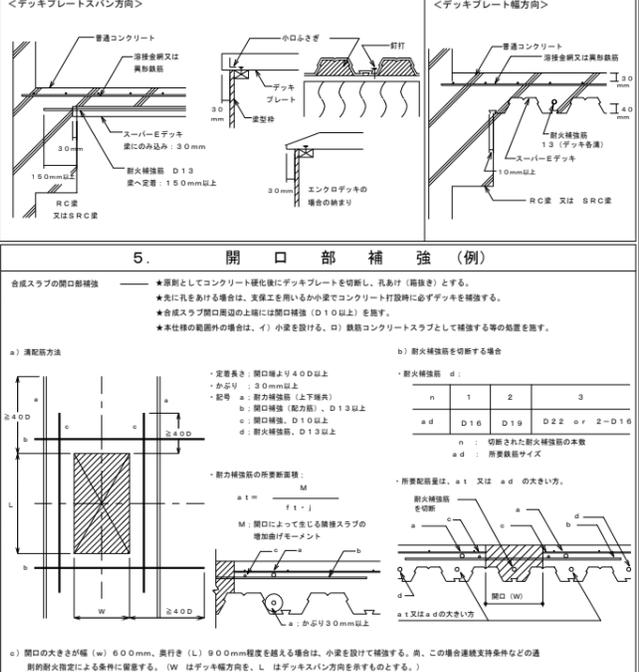
4-3. 標準納まり: RC造またはSRC造の場合



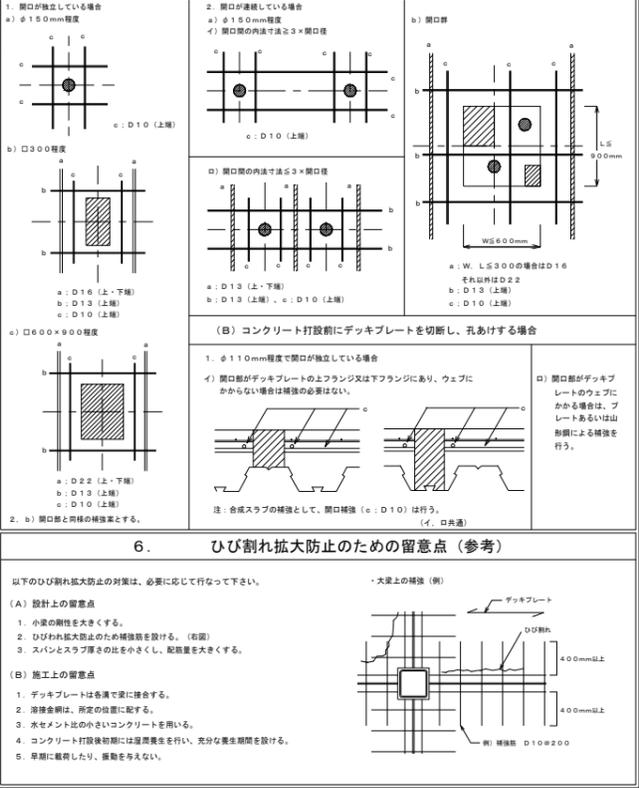
4-4. 開口部補強 (例)



5. 開口部補強 (例)



6. ひび割れ拡大防止のための留意点 (参考)



株式会社 飯島建築事務所
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-24) 第4813号
一級建築士 第242798号
構造設計一級建築士第5701号 森 隆寿
改訂:平成25年9月

表: 関係者リスト
項目: 施設課長, 課長補佐, 係長, 担当, 事務部長, 総務課長, 課長補佐, 施設係長, 担当, 業務名, 検 図, 担 当, 工事名称, 日付, 総数
内容: 鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務, 鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事, 平成26年7月, 94/109

※3層の場合は5%増大とする

# 植木US合成スラブ用デッキプレート 設計・施工標準仕様書

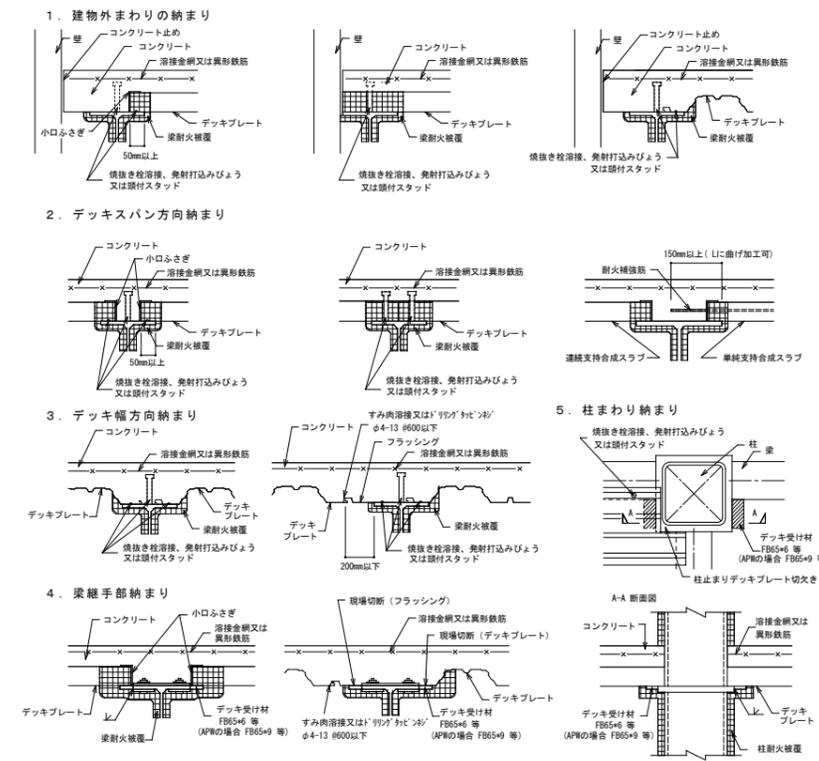
合成スラブの設計、施工は、(社)日本建築学会編「各種合成構造設計指針、同解説」、(社)日本建築学会編「建築工事標準仕様書、同解説のうちJASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(独)建築研究所 監修「デッキプレート床構造設計、施工標準-2004」合成スラブ工業会編「大臣認定・無被覆耐火構造合成スラブの設計、施工マニュアル」による。

## 設計

設計仕様を該当□内にて、( )内には数値等を記入して下さい。

合成スラブ用 デッキプレート	種類	■ US-50 □ US-75
	板厚	■ 1.2 □ 1.6
表面処理	■ 亜鉛メッキ Z12 □ 亜鉛メッキ Z27	
	材質	■ SDP1T □ SDP2 □ SDP2G
コンクリート	種類	■ 普通コンクリート □ 軽量コンクリート1種 □ 軽量コンクリート2種
	設計基準 強度	□ 18N/mm <sup>2</sup> ■ 21N/mm <sup>2</sup> □ 24N/mm <sup>2</sup> □ その他 ( )N/mm <sup>2</sup>
ひびわれ防止筋	溶接金網	□ φ6-100×100 ■ φ6-150×150 □ その他 ( )
	異形鉄筋	□ D10-200×200 □ その他 ( ) (JIS 6 3112, 3117, SD295A, SD295B, SDR295)
耐火補強筋(単梁)	異形鉄筋	■ D13 □ 無し □ その他 ( )
端部補強筋(RC-SRC)	異形鉄筋	■ D13×1m □ 無し □ その他 ( )
副構成材料	フラッシング	■ 130W×1.2t □ 180W×1.2t □ 230W×1.2t (調整プレート) □ 130W×1.6t □ 180W×1.6t □ 230W×1.6t
	吊り金具 (ハンガー)	□ ( )
■ 頭付きスタッド (JIS B 1198)	呼び径	□ φ13mm ■ φ16mm ■ φ19mm □ φ22mm
	呼び長さ その他	■ 80mm □ 100mm □ 120mm □ 130mm □ 150mm 指定事項 ( )
■ 焼付き粒溶接	施工位置	・デッキ幅方向大梁上 ■ 標準(右記図2による) □ 特記 ( ) ・デッキ幅方向小梁上 ■ 標準(右記図2による) □ 特記 ( ) ・デッキ長さ方向大梁上 ■ 標準(右記図2による) □ 特記 ( ) ・デッキ長さ方向小梁上 ■ 標準(右記図2による) □ 特記 ( )
	注	接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼付き粒溶接は不要。
□ 発射打込み紙	施工位置	・デッキ幅方向大梁上 □ 標準(右記図2による) □ 特記 ( ) ・デッキ幅方向小梁上 □ 標準(右記図2による) □ 特記 ( ) ・デッキ長さ方向大梁上 □ 標準(右記図2による) □ 特記 ( ) ・デッキ長さ方向小梁上 □ 標準(右記図2による) □ 特記 ( )
□ 端部補強筋	施工方法	・RC-SRC梁で連続支持の場合、(各溝850×高さ150) 単純支持の場合は耐火補強筋で併用。
耐火	■ 1時間	■ FP060FL-9099 連続支持合成スラブ □ 耐火 FP060FL-9128 吹き付けロックウール 厚さ15mm(施工管理基準20mm) ■ FP060FL-9105 単純支持合成スラブ □ その他 ( )
	□ 2時間	□ FP120FL-9111 連続支持合成スラブ □ 耐火 FP120FL-9129 吹き付けロックウール 厚さ20mm(施工管理基準25mm) □ FP120FL-9117 単純支持合成スラブ □ その他 ( )
他	支保工の有無	■ 無し □ 有り □ その他 ( )
	■ 2時間	■ 連続支持合成スラブ □ 鉄骨梁 R C 梁等 (*3) ■ 単純支持合成スラブ □ 鉄骨梁 R C 梁等 □ 鉄骨梁 軽量
■ 1時間	■ 連続支持合成スラブ □ 鉄骨梁 R C 梁等 (*3) ■ 単純支持合成スラブ □ 鉄骨梁 軽量	
	■ 単純支持合成スラブ □ 鉄骨梁 R C 梁等 □ 鉄骨梁 軽量	

## 標準納まり



## 施工

1. 設計図書に基づいてデッキプレートの納まり、開口部、段差の有無、梁との接合方法、構造認定及び耐火認定条件等を確認し割付図を作成する。  
2. 割付図に基づいて使用部材の手配を行う。(デッキプレート種類・長さ・枚数、フラッシング、小口さぎ)  
3. 工事前に次を確認し、割付図を施工図として使用する。  
a. 敷込み方向 b. 梁への附けと幅調整等 c. 現場加工の位置と方法

4. 敷込み・仮止め  
1. 梁上を清掃し、所定の位置に敷き出す。  
2. デッキ受け材の有無を確認する。  
3. 敷込み・仮止め

5. デッキと梁の接合  
1. 鉄骨梁の場合  
a. 接合方法を設計図書で確認する。  
b. 敷込み完了後風等が飛ばないようにデッキプレートと梁とをアークスポット溶接等で溶接する。  
c. 頭付きスタッドの施工は JASS5 による。  
d. 焼付き粒溶接・発射打込みの施工位置は(図2)による。  
e. 焼付き粒溶接の施工は(表1)(図3)による。  
f. 発射打込みの施工は日本ヘルティ(株)及び日本ドライブレック(株)の施工要領による。  
2. RC梁又はSRC梁の場合(梁にデッキ受けが無いとき)  
a. 端部補強筋により接合する。(図4参照)  
b. 端部補強筋は各溝中央に一本ずつ入れ、かぶり厚さと定着長さを確認する。

項目	溶接方法	
	溶接工資格	溶接機
溶接方法及び溶接材料	JIS Z 3801, 3841 基本級以上 低水素系電極アーク溶接棒 φ4mm	ワイヤ: YG11.12 φ1.2mm, ガス: CG2
材料及び設備	付属設備	専用溶接機 (350A)
電源容量	ケール線: 38mm <sup>2</sup> 以上 交流アーク溶接機 A250A 以上 エンジン溶接機 230A 以上	溶接機一台につき18kVA (エンジン発電機の場合35kVA)
デッキプレート厚さ (mm)	1.2-1.6	1.2-1.6
梁フランジ厚さ (mm)	6以上	6-9未満 9以上
溶接電流 (A)	190-230 (標準210)	300-320 300-320 300-320
溶接電圧 (V)	33-35	33-35 34-36 34-36
溶接速度 (mm/min)	3.0-4.0	3.5-4.0 3.5-4.5 4.0-4.5
アークタイム (Sec)	8 程度	1度打ち 2度打ち
糸径 (mm)	1.8以上	2.5±0.3

6. 小口さぎ・コンクリート止め  
1. 小口さぎはデッキプレートの溝をふさがない独立したものを使用する。(図5参照)

7. インサート・配管・配線  
1. 「デッキ合成スラブに電気配線を埋設する場合の指針」を参照。

8. 開口部補強  
1. 開口部廻りは必ず鉄筋等で補強する。(図6参照)  
2. スペースを 1m 以内に設置し、30mmのコンクリートかぶり厚さを確保する。  
3. 溶接金網の重ね代付法は、必ずメッシュ+50mmとする。(図7参照)  
4. 異形鉄筋の重ね代付法は、必ず45D以上とする。(例: D10E200の場合、450mm以上)

9. 耐火補強筋(単純支持耐火仕様)  
1. 耐火補強筋は各溝中央に1本ずつ入れ、かぶり厚さは下面から40mmとする。(図8参照)  
2. 耐火補強筋の定着長さは、梁端部から150mm以上とする。(図9参照)

10. 検査  
1. コンクリート打設前、本標準仕様通りか検査する。

11. コンクリート打設  
1. コンクリート打設前にデッキプレート表面を十分清掃する。  
2. 設計コンクリート厚さを確保する。  
3. 単位水量の少ないスラブの小さなコンクリート(15cm推奨)を入念に打設する。

12. 養生  
1. コンクリート打設後初期乾燥を防ぐため、湿潤を発生する。  
2. コンクリートの強度が出るまで(7日程)は、床面に重量物を置いたり振動を考へたりしない。

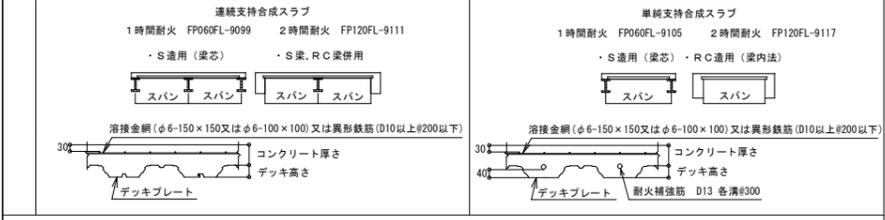
耐火時間	支持条件	構造	種類	デッキプレート		スパン		許容積載重		コンクリート厚さ	ひび割れ拡大防止筋		耐火補強筋
				高さ(mm)	種類	(m)	(N/m <sup>2</sup> )	(mm)	溶接金網の場合		異形鉄筋の場合		
2時間	連続支持合成スラブ	鉄骨梁 R C 梁等 (*3)	普通	US-50	2.7以下	5,400~9,800(+1)	95以上	φ6-100×100	D10-200×200	不要			
			軽量	US-75	3.4以下	5,400~9,800(+2)	90以上	φ6-100×100	D10-200×200				
	単純支持合成スラブ	鉄骨梁 R C 梁等	普通	US-50	2.7以下	5,400~9,800(+1)	95以上	φ6-100×100	D10-200×200	D13			
			軽量	US-75	3.4以下	5,400~9,800(+2)	90以上	φ6-100×100	D10-200×200				
1時間	連続支持合成スラブ	鉄骨梁 R C 梁等 (*3)	普通	US-50	3.0以下	4,400~9,800(+1)	80以上	φ6-150×150	D10-200×200	不要			
			軽量	US-75	3.4以下	4,400~9,800(+2)	80以上	φ6-150×150	D10-200×200				
	単純支持合成スラブ	鉄骨梁 R C 梁等	普通	US-50	3.0以下	4,400~9,800(+1)	80以上	φ6-150×150	D10-200×200	D13			
			軽量	US-75	3.4以下	4,400~9,800(+2)	80以上	φ6-150×150	D10-200×200				

\*1 スパン2.7m. 許容積載重 5,400N/m<sup>2</sup>としたときの等価曲げモーメントから算出する。(デッキプレート高さ50mmの場合に適用)  
許容積載重 =  $5,400 \times \frac{2.7^2}{2}$  か  $9,800 \text{ N/m}^2$  以下 L: スパン (m)

\*2 スパン3.4m. 許容積載重 5,390N/m<sup>2</sup>としたときの等価曲げモーメントから算出する。(デッキプレート高さ75mmの場合に適用)  
許容積載重 =  $5,400 \times \frac{3.4^2}{2}$  か  $9,800 \text{ N/m}^2$  以下 L: スパン (m)

\*3 鉄筋コンクリート梁 (RC梁) または鉄骨鉄筋コンクリート梁の場合、小梁を鉄骨梁としスパンがほぼ均等になるように設置し、端部補強筋 (D13, L=1.0m) を配筋する。

・スパンとは、鉄骨梁の場合デッキプレートを支持する梁の中心間距離、鉄筋コンクリート梁の場合梁内寸法をいう。  
・鉄骨梁の場合、スパンが3.4mを超える場合は、合成スラブと梁とは頭付きスタッド(軸径10mm以上、ピッチ300mm以下)で結合する。  
・スパンが大きい場合やコンクリートが厚い場合、コンクリート打ち込み時デッキプレートに支保工が必要な場合があるので事前に措置する。  
・許容積載重とは、原則として建築基準法施行令第85条の積載重と床、天井などの仕上り荷重を加えたものをいう。  
・コンクリートの所定厚さは、デッキプレートの山上のコンクリート平板部分の厚さをいう。  
・ひび割れ拡大防止筋は、スラブ厚さが100mmを超える場合も、原則としてスラブ上端から30mmの被り厚さとする。  
・溶接金網または異形鉄筋の鉄筋量は、山コンクリート厚さに対する鉄筋比が0.2%以上とする。コンクリート厚さが所定厚を超える場合、溶接金網等は所要鉄筋量に見合うサイズのものを使用する。  
・耐火補強筋は、異形鉄筋D13以上をデッキプレートの各溝に一本ずつ、溝部中央、デッキプレート底面から40mmの位置に全スパンにわたって配筋する。



構造評定番号: 植木US合成スラブ用デッキプレートは、告示326号に適合する旨のBCJ評定を取得しています。 BCJ評定-ST0079-02

山台高等専門学校	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	検査	担当	工事名称	日付	総数
										鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務			鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	95/109
										株式会社 株式会社 株式会社			植木US合成スラブ用デッキプレート 設計・施工標準仕様書		S-09A

\*3Dの場合は50%縮尺とする

# 地盤改良地業特記仕様書

## 1. 工事概要

本事業は、深層混合処理工法による地盤改良地業である。深層混合処理工法は、スラリー状のセメント系固化材（以下、固化材液と称す）を地盤に注入しながら、共回り防止翼を装着した攪拌装置を用いて、原地盤土と機械的に攪拌混合し、固化材の固化反応により所要の強度を持つ改良柱体（以下、コラムと称す）を築造するものである。

## 2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（日本建築センター）および「建築工事標準仕様書・同解説 J A S S 4 杭・地業および基礎工事」（日本建築学会）による。

## 3. 特記事項

- （1）コラムの径、掘削深度（設計コラム長+空掘長）、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及び固化材液の配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切だと判断される場合は、監督員の承認の下に変更することができる。
- （2）コラムの設計基準強度は  $F_c = 10 \times N / m^2$ （ $N / m^2$ ）とする。
- （3）設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理および品質検査を実施する。
- （4）本工事は、技術審査証明取得工法とする。又、事前にその証明書を監理者に提出し、承認を得ることとする。

## 4. 施工計画

- （1）本工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したものとす。
- （2）施工計画書  
工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

- |  |                       |
|--|-----------------------|
| ① 工事内容及び工事場所                                     | ⑥ 施工機器                |
| ② コラム仕様及び数量<br>〔コラム径・掘削深度（設計コラム長+空掘長）・本数・設計基準強度〕 | ⑦ 固化材配合条件             |
| ③ 工事期間及び工程                                       | ⑧ 施工管理（立会い、管理項目、施工記録） |
| ④ 工事の組織（建築請負業者の本工事責任者、コラム施工業者名及び責任者、各種作業の主たる従事者） | ⑨ 品質検査                |
| ⑤ 施工手順   | ⑩ 安全衛生対策              |
|  | ⑪ 地盤概要（土質柱状図）         |
|  | ⑫ コラム伏図               |
|  | ⑬ 技術審査証明書（写）          |

## 5. 施工

- （1）作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないよう養生する。
- （2）基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は、別途検討する。
  - a. 攪拌混合装置をコラム心に合わせる。
  - b. 固化材液を吐出せずに、空掘り部を所定の深度まで掘進する。
  - c. 固化材液を吐出しながら掘進・攪拌混合する。
  - d. 注入掘進工程が終了したら、固化材液の吐出を停止し先端部の繰り返しを行う。
  - e. 先端繰り返し工程が終了したら、攪拌軸を逆回転し引上げ攪拌混合する。
- （3）設計図書に示された支持地盤に着底する長さを実施コラム長という。
- （4）本工事により排出される発生残土は場内処分とする。

## 6. 施工機械

- （1）共回り現象を防止する機構を有し、固化材と原位置土を確実に攪拌混合できる攪拌装置を用いること。
- （2）所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いること。
- （3）改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。
- （4）ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

## 7. 配合管理

- （1）固化材液に使用する材料は、セメント又はセメント系固化材とする。
- （2）配合強度  
変動係数を25%と想定し、9項に規定する抜き取り箇所数N、合格確率80%とした下表を用いて設定する。

N	1	2	3	4~6	7~8	9
$\alpha$	2.16	3.19	3.81	5.17	9.16	11.59

$X_f = \alpha \times F_c$  〔 $\alpha$ : 割り増し係数、 $X_f$ : 配合強度〕

- （3）室内配合試験  
固化材液の配合（W/C）と使用量（添加量）は、室内配合試験の結果に基づいて、現場室内強度比を考慮して、配合強度を満足するように決定する。あるいは正確に土質を把握し、かつその土質に対する既存データがある場合は、その結果を用いて添加量を決定する。

## 8. 施工管理

- （1）施工の安定性を確保するため下記に示す項目について施工管理する。

- |         |                              |  |
|---------|------------------------------|--|
| ① 形状・寸法 | ：鉛直性<br>コラム心<br>掘削深度<br>コラム径 | 改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する<br>事前にコラム心にマークを設ける<br>深度計で計測し記録する<br>攪拌装置の形状・寸法を記録する |
| ② 固化材   | ：材料計量<br>固化材液の密度<br>固化材液の添加量 | 水、固化材の重量<br>マッドバランス等<br>スーパーシステム同等以上に施工管理を行い、記録する                              |
| ③ 攪拌混合度 | ：攪拌混合回数                      | スーパーシステム同等以上に施工管理を行い、記録する  |
| ④ 支持地盤  | ：仕事量（ $kJ/m$ ）               | スーパーシステム同等以上に施工管理を行い、記録する<br>（着底判定仕事量は、先行コラムの施工状況により、監督員と協議して決定する）             |

- （2）コラムの芯ズレ  
コラムの芯ズレが許容値を超えた場合は、監督員（監理者）と協議し、設計検討により応力照査を行った上、安全であると判断した場合、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。

- （3）施工の立会い  
建築工事の受注者は、本事業責任者（受注業者の中から選定）及び施工責任者を定め、両者は本事業の施工中は立ち会うものとする。

## 9. 品質検査

- （1）検査対象層、検査対象層及び調査箇所数

- ① 検査対象層は概ねコラム300本を1単位とする。土層毎に検査対象層を決めるが、最小層厚を0.5mとする。
- ② 検査対象層は 砂 粘土 であり、設計対象層を 粘土とする。  
設計対象層の平均強度は他の検査対象層の平均強度を超えないこと。  
超えている場合は、最も低い平均強度の層を設計対象層とする。
- ③ 調査箇所数  
頭部コア 100コラムを1単位とし、1単位毎に1ヶ所（モールドコアとする）  
深度コア 100コラムを1単位とし、1単位毎に1ヶ所（モールドコアとする）

- （2）可否の判定

- ① 設計対象層についての抜取箇所数をNとする。1ヶ所あたりは3個の供試体を採取し、その平均強度をその箇所の強度とする。
- ② 一軸圧縮試験は公的機関あるいは検査員立会いの下に行うものとする。
- ③ 検査手法は品質のバラツキを想定する場合の検査手法Aによる。
- ④ 検査手法Aによる品質検査  
可否の判定は検査対象層におけるNヶ所（抜取箇所数）の一軸圧縮試験結果が下式を満足すれば合格とする。  
$$\bar{X}N \geq XL = F_c + k_a \cdot \sigma$$
  
$$\bar{X}N$$
 : Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値（ $N/mm^2$ 、 $kN/m^2$ ）  
 $XL$  : 合格判定値（ $N/mm^2$ 、 $kN/m^2$ ）  
 $F_c$  : 設計基準強度（ $N/mm^2$ 、 $kN/m^2$ ）  
 $k_a$  : 合格判定係数  
 $\sigma$  : 標準偏差（ $N/mm^2$ 、 $kN/m^2$ ） $\geq \sqrt{v} \cdot q_{ud}$ （ $v$  : 変動係数、品質確認書により想定する  
 $q_{ud}$  : 想定した平均一軸圧縮強さ（ $N/mm^2$ 、 $kN/m^2$ ））

抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4~6	7~8	9
合格判定係数 $k_a$	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

## 10. 報告

工事後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に3部提出する。

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| ① コラムの伏図及び番号    | ⑥ 仕事量              |
| ② コラムの施工日       | ⑦ 固化材液の配合と固化材の使用量  |
| ③ コラムの径及び実施コラム長 | ⑧ コア供試体の一軸圧縮強度試験結果 |
| ④ 掘削深度          |                    |
| ⑤ 攪拌混合回数        | ⑨ 可否判定結果           |

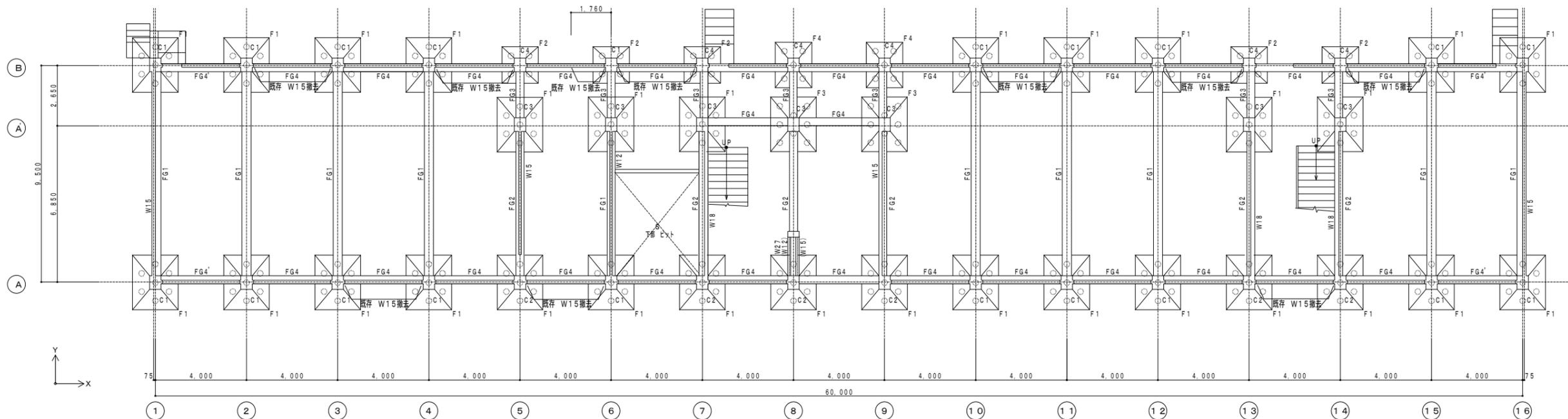
## 11. その他

施工に当たっては、セメント系固化材からの六価クロムの溶出試験を実施し、環境庁告示第46号の基準値を満足するよう必要な措置を講ずること。試験方法、試験箇所等に関しては、平成13年4月20日付国官技第16号国営第1号「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）の一部変更について」による。

株式会社 飯島建築事務所  
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-24) 第4813号  
一級建築士 第242798号  
構造設計一級建築士第5701号 森 隆寿

記 事	施設課長	課長補佐	係長	担当	仙台商専専門学校	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務	検 図	担 当	工事名称	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	日付	平成26年7月	総数	96/109
					鈴鹿工業高専専門学校							株式会社 練企画設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	地盤改良地業特記仕様書	縮尺		番号	S-10





注記) - 1

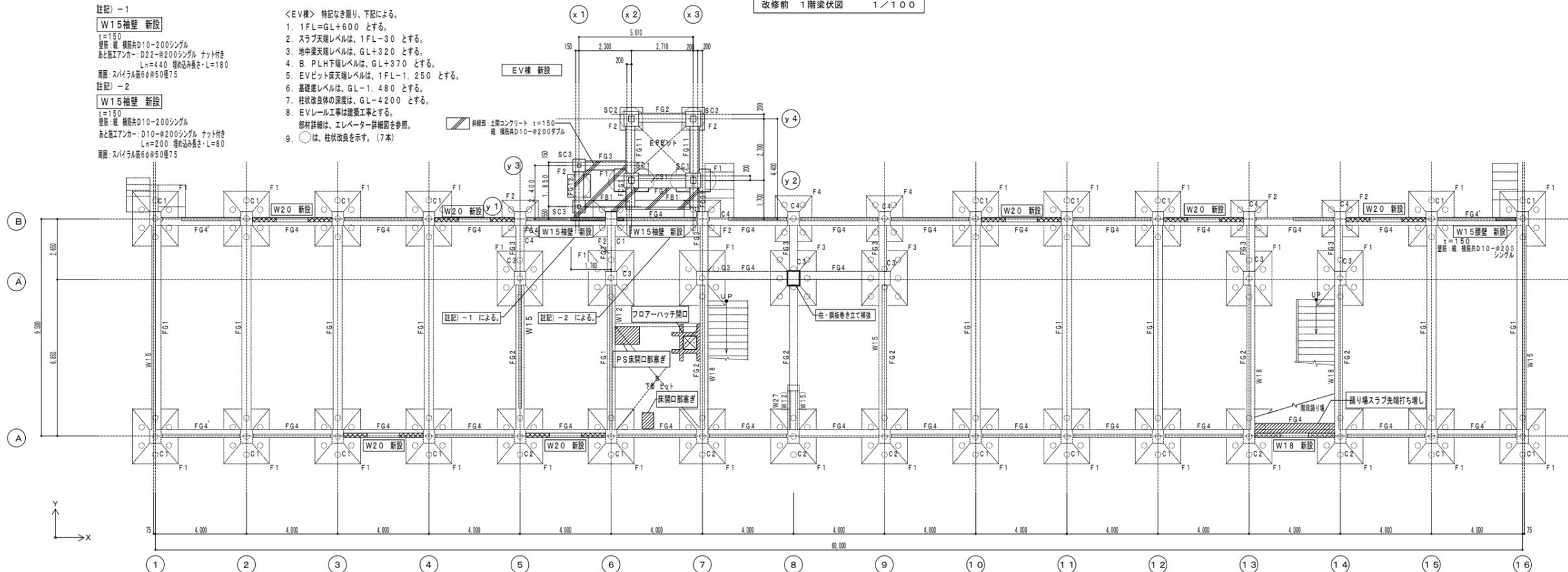
**W15 袖壁 新設**  
 t=150  
 壁筋: 縦筋共D10-200シングル  
 あと加工アンカー: D22-φ200シングル ナット付き  
 Ln=440 埋め込み長さ・L=180  
 周囲: スパイラル筋φ6@50径75

注記) - 2

**W15 袖壁 新設**  
 t=150  
 壁筋: 縦筋共D10-200シングル  
 あと加工アンカー: D10-φ200シングル ナット付き  
 Ln=200 埋め込み長さ・L=80  
 周囲: スパイラル筋φ6@50径75

- <EV棟> 特記なき限り、下記による。
- 1FL=GL+600 とする。
  - スラブ天端レベルは、1FL-30 とする。
  - 地中梁天端レベルは、GL+320 とする。
  - B. PLH下端レベルは、GL+370 とする。
  - EVピット床天端レベルは、1FL-1,250 とする。
  - 基礎底レベルは、GL-1,480 とする。
  - 柱状改良体の深さは、GL-4200 とする。
  - EVレール工事は建築工事とする。
- 部材詳細は、エレベーター詳細図を参照。
9. ○は、柱状改良を示す。(7本)

改修前 1階梁伏図 1/100



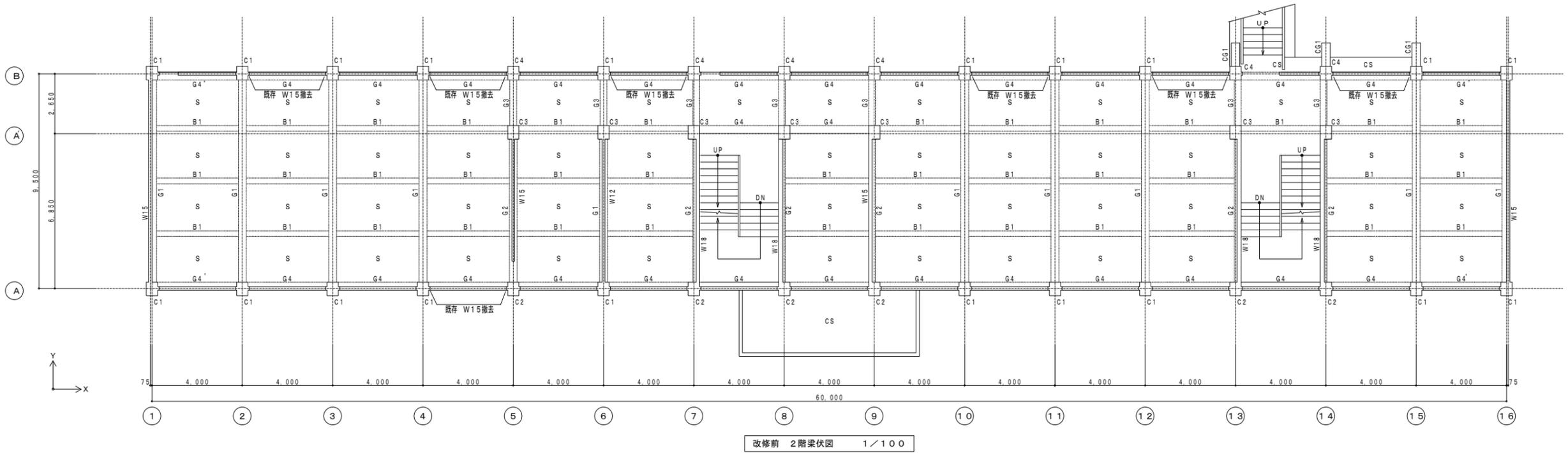
改修後 1階梁伏図 1/100

- 注記) 特記なき限り、下記による。
1. 斜線部: 既存壁撤去の後、W20 (t=200) 壁新設を示す。
  2. 斜線部: 既存壁撤去の後、W18 (t=180) 壁新設を示す。

株式会社 飯島建築事務所  
 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-24) 第4813号  
 一級建築士 第242798号  
 構造設計一級建築士第5701号 森 隆寿

記 事	施設課長	課長補佐	係長	担当	仙台高等専門学校	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務	検 図	担 当	工事名称	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	日付	総数
											株式会社 緑企画設計	管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 大綱 和行			鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	図面名称	改修前後 1階梁伏図	縮尺
																	平成26年7月	98/109
																	1/100	S-12

※A3版の場合は50%縮尺とする



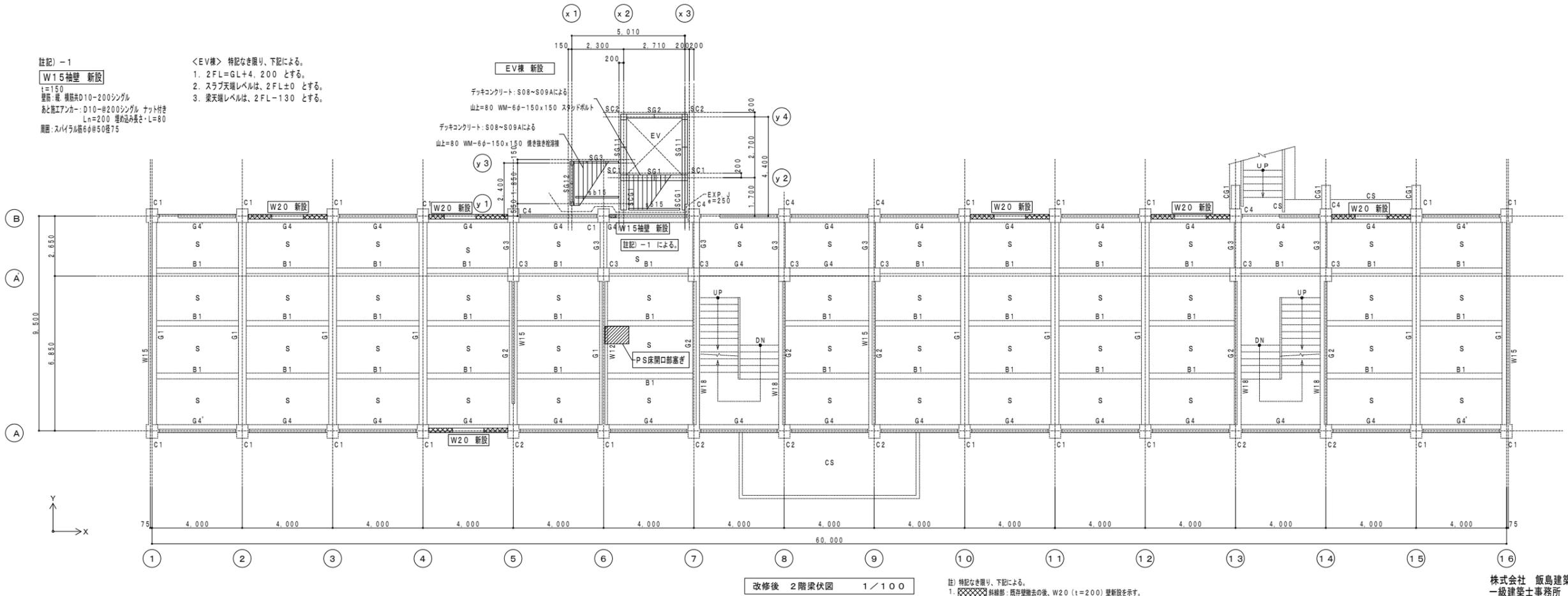
改修前 2階梁伏図 1/100

註記) -1

W15 袖壁 新設

t=150  
壁筋: 縦筋#D10-200シングル  
あと施工アンカー: D10-@200シングル ナット付き  
Ln=200 埋め込み長さ・L=80  
間隔: スパイラル筋φ6@50径75

<EV棟> 特記なき限り、下記による。  
1. 2FL=GL+4,200 とする。  
2. スラブ天端レベルは、2FL±0 とする。  
3. 梁天端レベルは、2FL-130 とする。

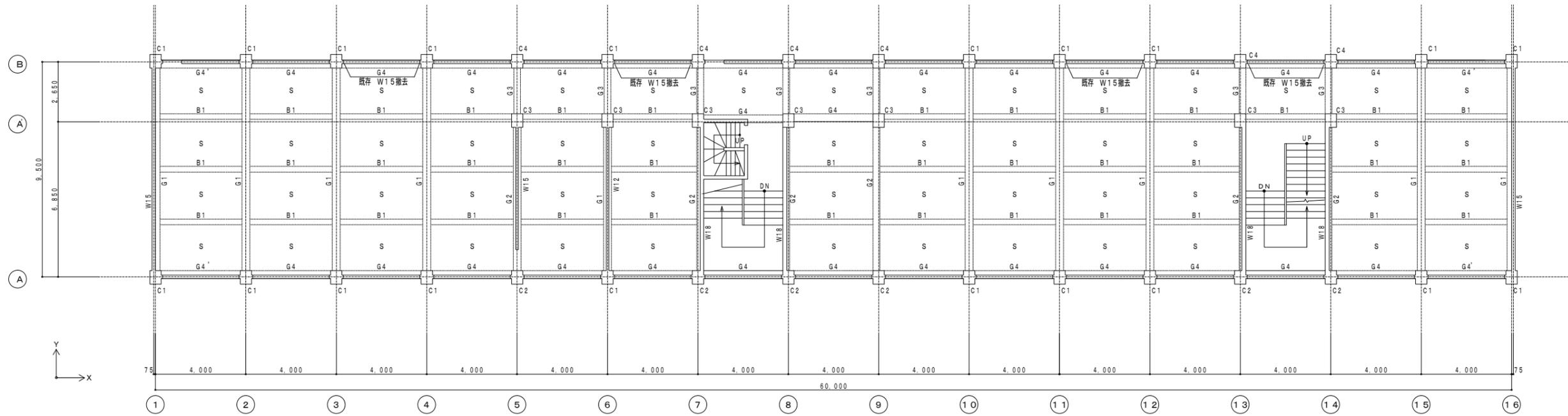
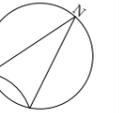


改修後 2階梁伏図 1/100

註) 特記なき限り、下記による。  
1. 斜線部: 既存壁撤去の後、W20 (t=200) 壁新設を示す。

株式会社 飯島建築事務所  
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-24) 第4813号  
一級建築士 第242798号  
構造設計一級建築士第5701号 森 隆寿

記 事	仙台商専専門学校	施設課長	課長補佐	係長	担当	鈴鹿工業高専専門学校	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務	検 図	担 当	工事名称	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	日付	総数	
													株式会社 線企画設計	管理建築士 一級建築士 (大匠) 第270315号 犬飼 和行			鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	99/109	
																	図面名称	改修前後 2階梁伏図	縮尺	番 号
																		1/100		S-13



改修前 3階梁伏図 1/100

註記) -1

W15袖壁 新設

t=150

壁筋: 縦筋φ10-200シングル

あと配筋アンカ-D10-φ200シングル ナット付き

Ln=200 埋め込み長さ・L=80

間隔: スパイラル筋φ6@50間75

<EV棟> 特記なき限り、下記による。

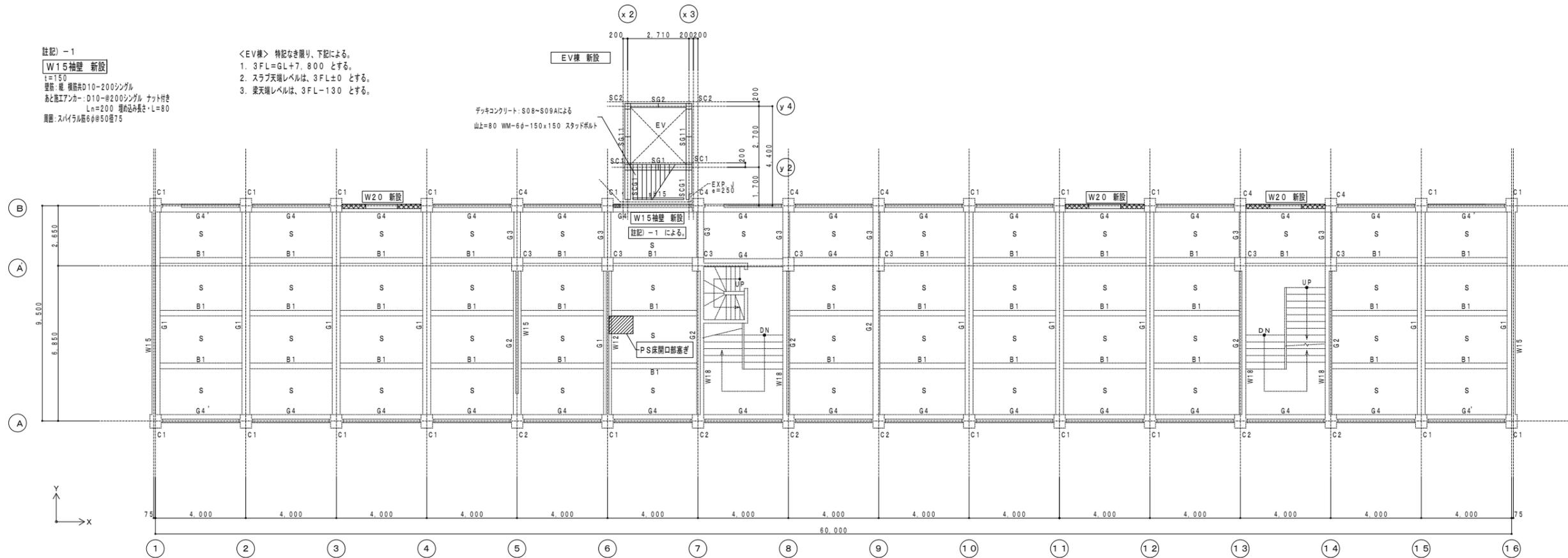
1. 3FL=GL+7,800 とする。

2. スラブ天端レベルは、3FL±0 とする。

3. 梁天端レベルは、3FL-130 とする。

チキコンクリート: S08~S09Aによる

山土=80 WM=6φ-150×150 スタッドボルト

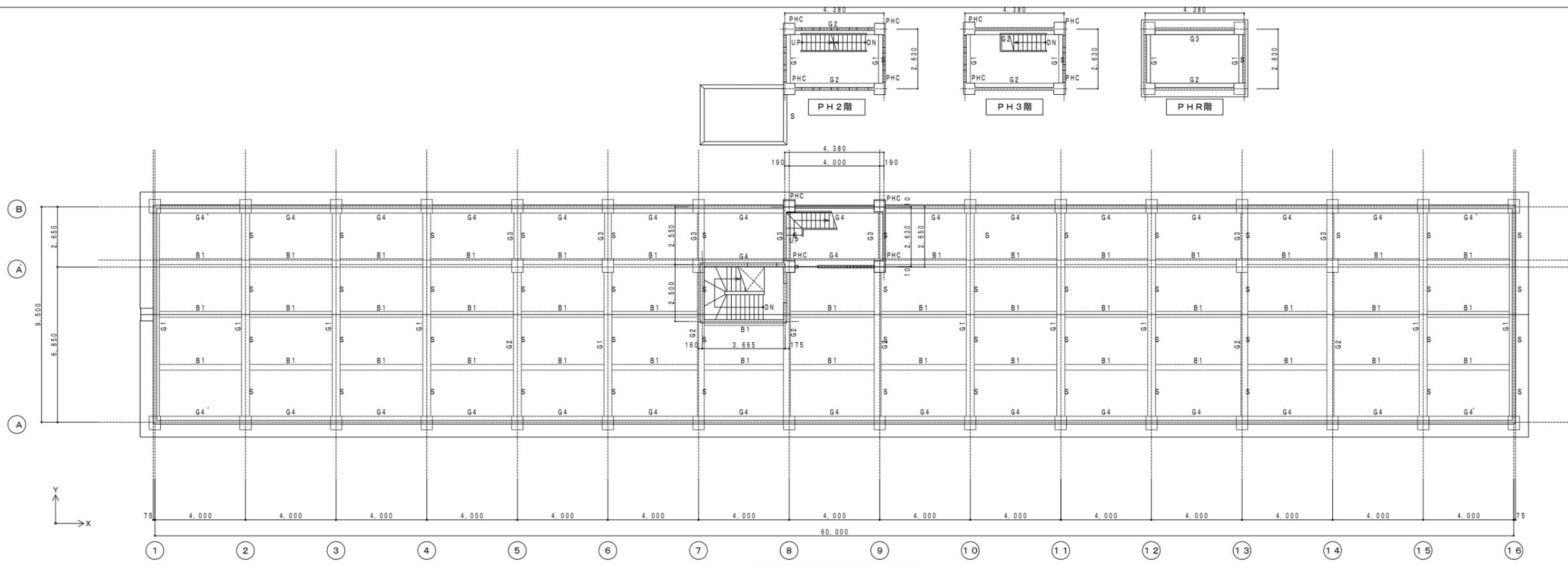


改修後 3階梁伏図 1/100

註) 特記なき限り、下記による。  
1. 斜線部: 既存壁撤去の後、W20 (t=200) 壁新設を示す。

株式会社 飯島建築事務所  
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-24) 第4813号  
一級建築士 第242798号  
構造設計一級建築士第5701号 森 隆寿

記 事	仙台高等専門学校	施設課長	課長補佐	係長	担当	鈴鹿工業高等専門学校	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高等専門学校改修設計等業務	検 図	担 当	工事名称	鈴鹿工業高等専門学校改修その他工事	日付	総数
													株式会社 緑企画設計	管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 犬飼 和行			鈴鹿工業高等専門学校改修その他工事	平成26年7月	100/109
																	改修前後 3階梁伏図	縮尺	番号
																		1/100	S-14

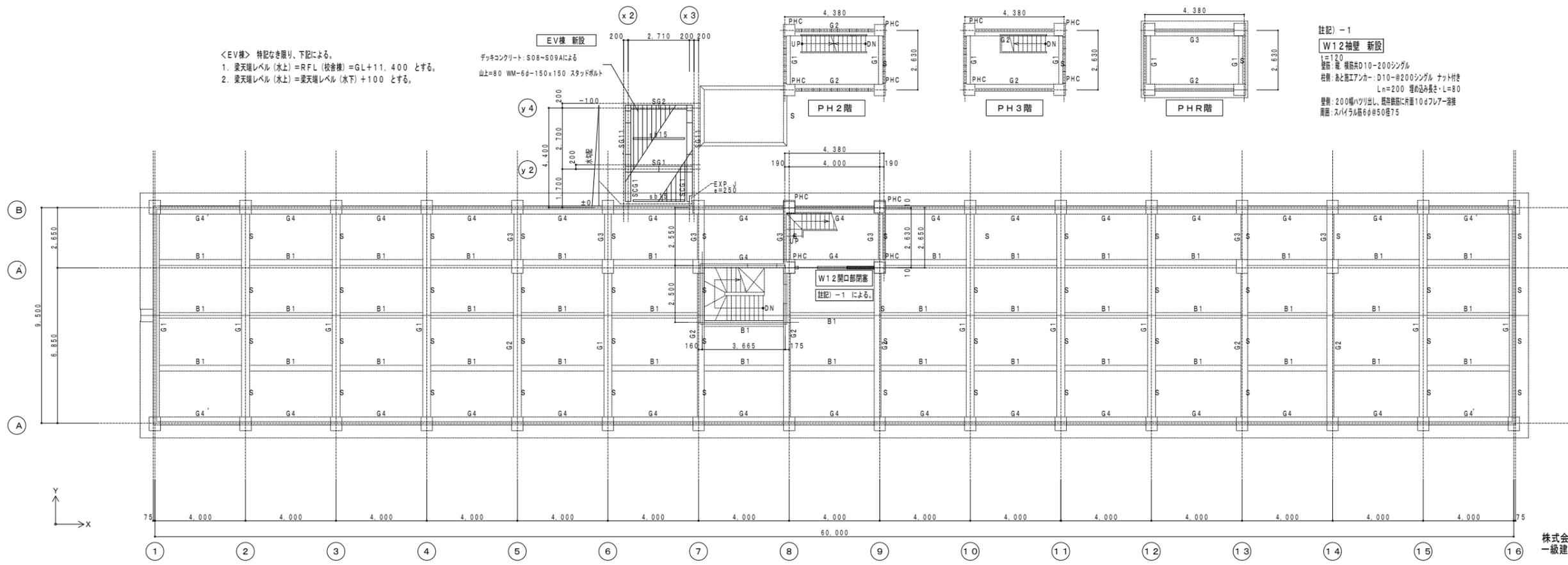


改修前 R階梁伏図 1/100

<EV棟> 特記なき限り、下記による。  
 1. 梁天端レベル(水上)=RFL(校舎棟)=GL+11,400 とする。  
 2. 梁天端レベル(水上)=梁天端レベル(水下)+100 とする。

EV棟 新設  
 チッキコンクリート: S08~S09ACによる  
 山土=80 MM-6φ-150x150 スタッドボルト

註記 - 1  
**W12袖壁 新設**  
 L=120  
 壁筋: 縦筋共D10-200シングル  
 柱筋: あと組工アソカ- D10-200シングル ナット付き  
 Ln=200 埋め込み長さ・L=80  
 壁脚: 200幅ハツリ出し、露出鉄筋に片面10φ7フレア溶接  
 周層: スパイラル筋6φ@50径75

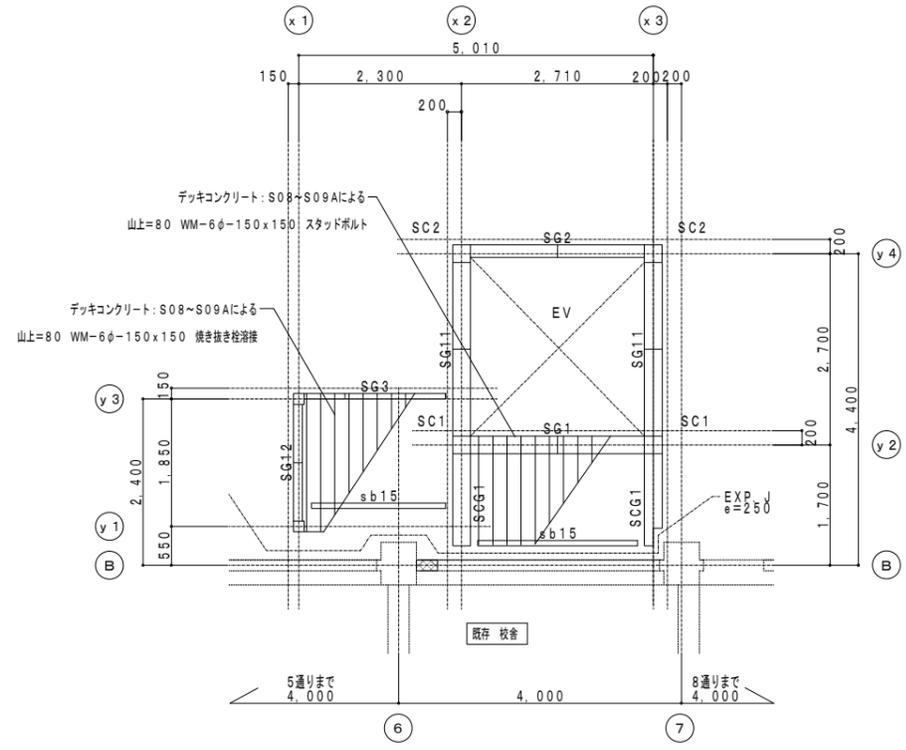
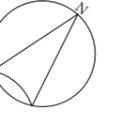


改修後 R階梁伏図 1/100

株式会社 飯島建築事務所  
 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-24) 第4813号  
 一級建築士 第242798号  
 構造設計一級建築士第5701号 森 隆寿

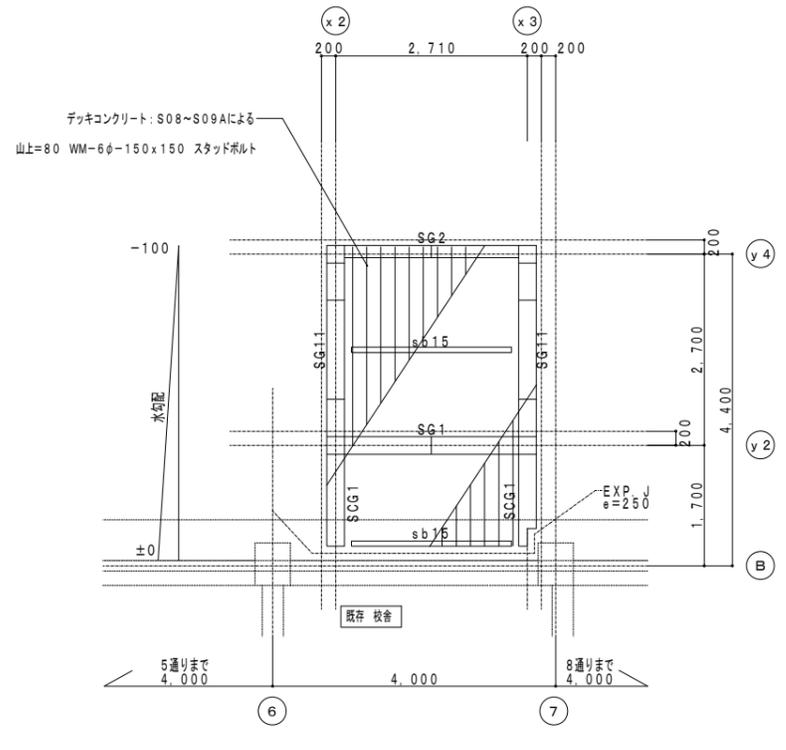
記 事	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	校 図	担 当	工事名称	日付	総数
										鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務			鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	101/109
										株式会社 線企画設計 管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 大綱 和行			図面名称	縮尺	番号
													改修前後 R階・PH階梁伏図	1/100	S-15

※尺取の場合は5%縮尺とする



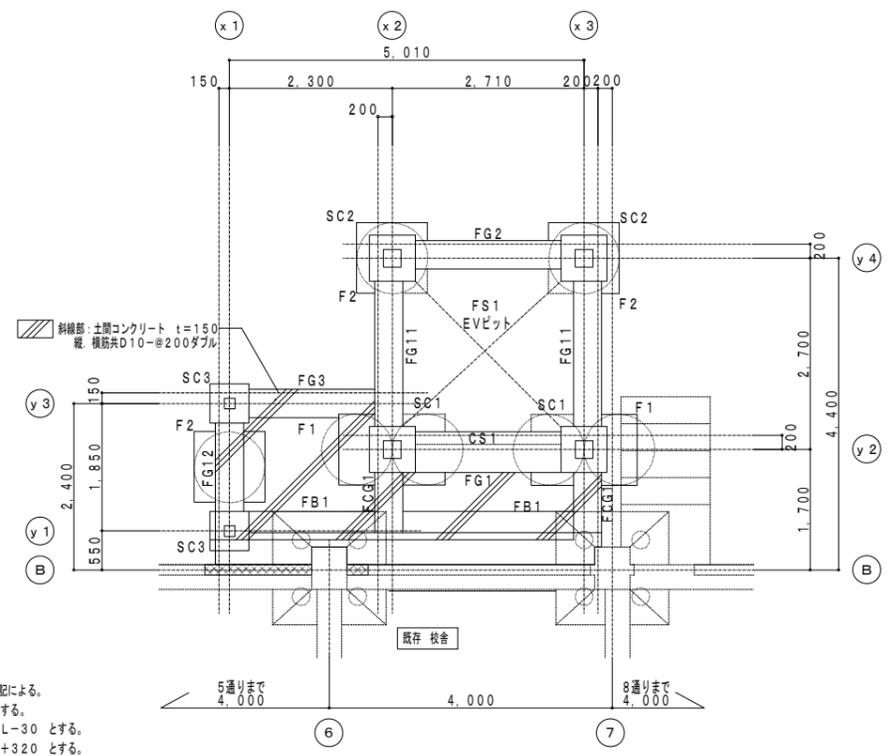
EV棟新設 2階梁伏図 1/50

<EV棟> 特記なき限り、下記による。  
 1. 2FL=GL+4.200とする。  
 2. スラブ天端レベルは、2FL±0とする。  
 3. 梁天端レベルは、2FL-130とする。



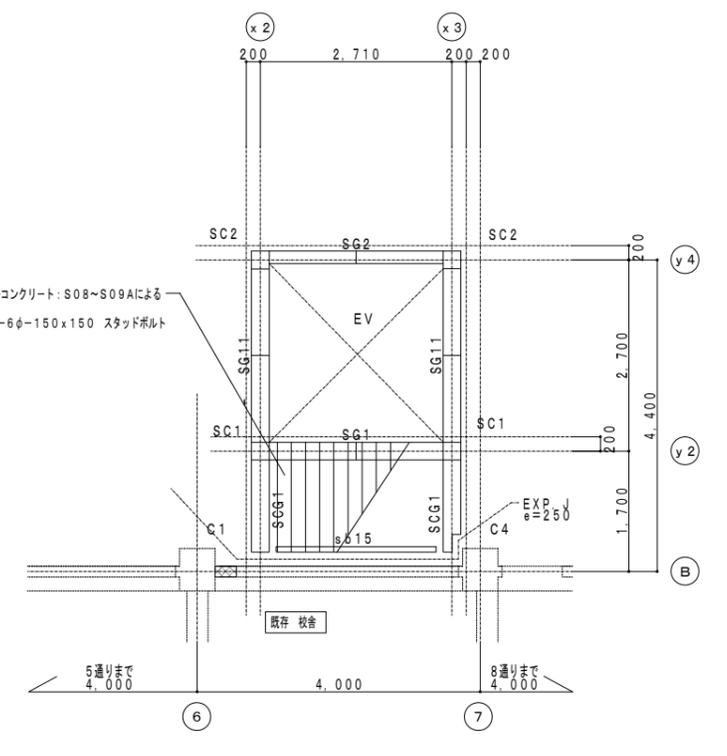
EV棟新設 R階梁伏図 1/50

<EV棟> 特記なき限り、下記による。  
 1. 梁天端レベル(水上)=RFL(校舎棟)=GL+11.400とする。  
 2. 梁天端レベル(水上)=梁天端レベル(水下)+100とする。



EV棟新設 1階梁伏図 1/50

<EV棟> 特記なき限り、下記による。  
 1. 1FL=GL+600とする。  
 2. スラブ天端レベルは、1FL-30とする。  
 3. 地中梁天端レベルは、GL+320とする。  
 4. B. PLH下端レベルは、GL+370とする。  
 5. EVピット床天端レベルは、1FL-1.250とする。  
 6. 基礎底レベルは、GL-1.480とする。  
 7. 柱状改良体の深さは、GL-4200とする。  
 8. EVレール工事は建築工事とする。  
 9. ○は、柱状改良を示す。(7本)



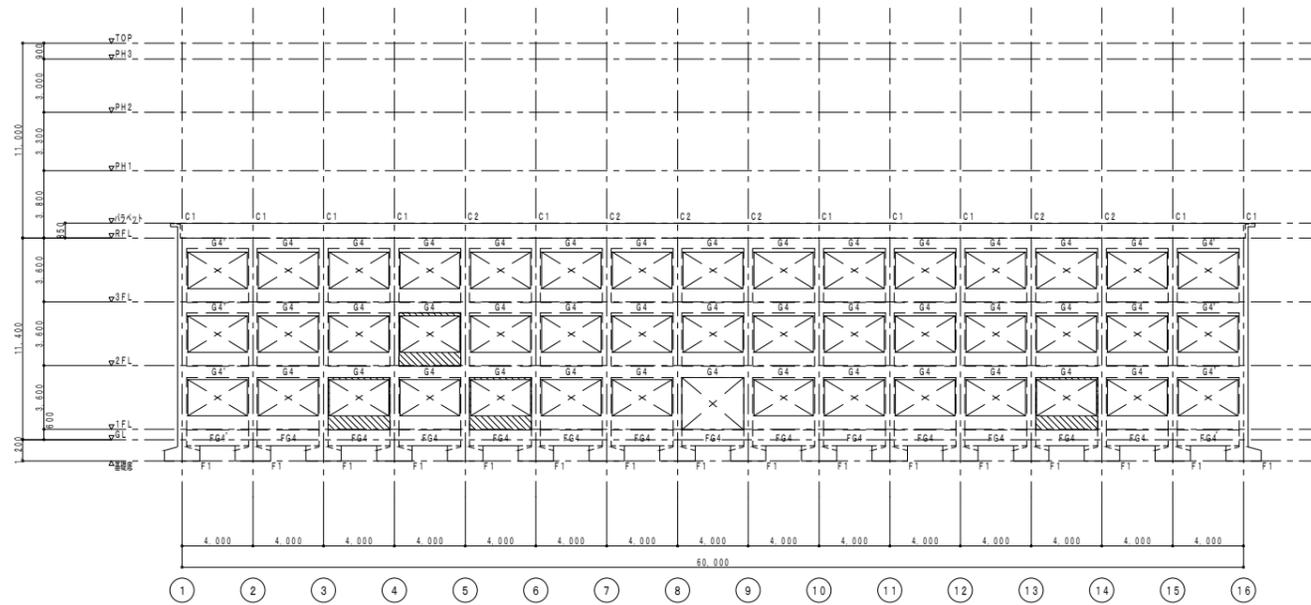
EV棟新設 3階梁伏図 1/50

<EV棟> 特記なき限り、下記による。  
 1. 3FL=GL+7.800とする。  
 2. スラブ天端レベルは、3FL±0とする。  
 3. 梁天端レベルは、3FL-130とする。

株式会社 飯島建築事務所  
 一級建築士事務所 愛知県知事登録(い-24) 第4813号  
 一級建築士 第242798号  
 構造設計一級建築士第5701号 森 隆寿

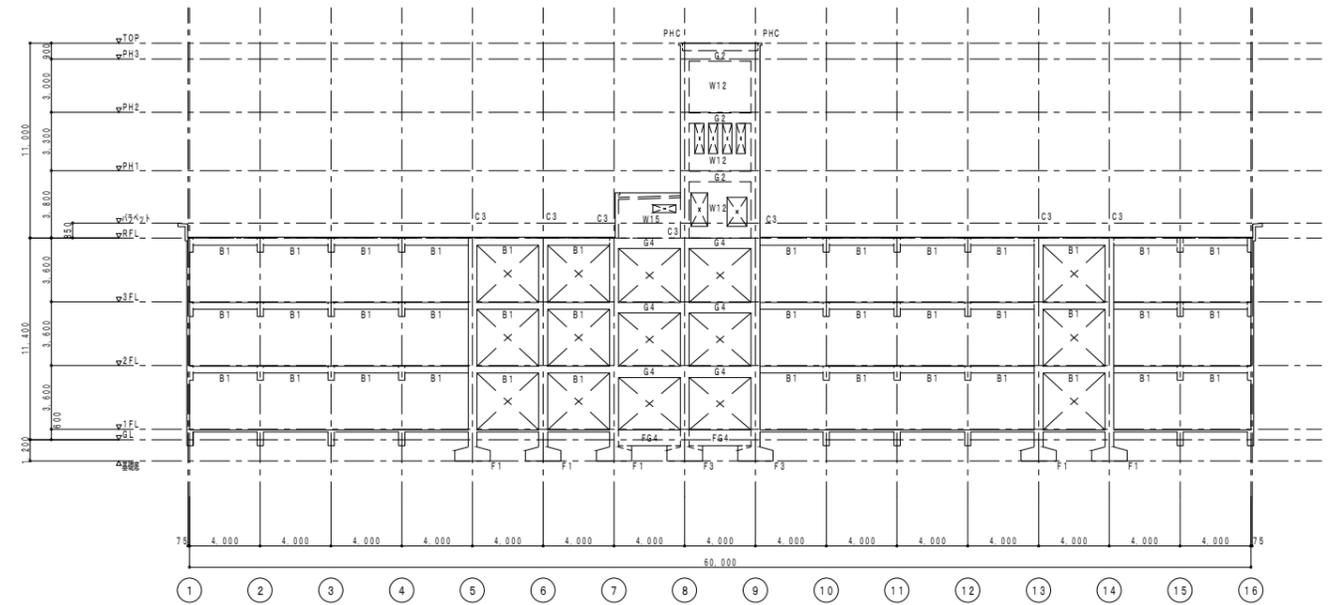
記 事	仙台高等専門学校	施設課長	課長補佐	係長	担当	鈴鹿工業高等専門学校	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高等専門学校改修設計等業務	検 図	担 当	工事名称	鈴鹿工業高等専門学校改修その他工事	日付	総数
													株式会社 緑企画設計	管理建築士 一級建築士(大臣) 第270315号 犬飼 和行			改修後 EV棟新設 1階~R階梁伏図	平成26年7月	102/109
																	図面名称	縮尺	番号
																	改修後 EV棟新設 1階~R階梁伏図	1/50	S-15A

※A3版の場合は50%縮尺とする

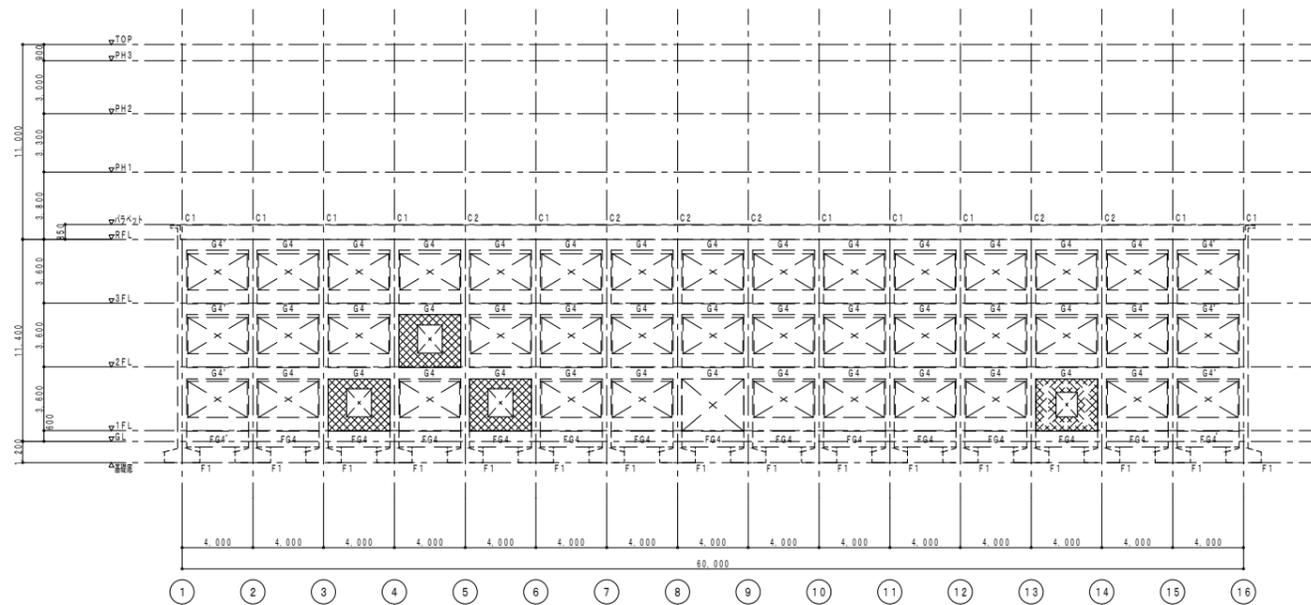


改修前 A 通り 軸組図 1/200

注) 特記なき限り、下記による。  
 1. 壁は、W15 (t=150) とする。  
 2. 斜線部：既存壁 (W15) 撤去を示す。

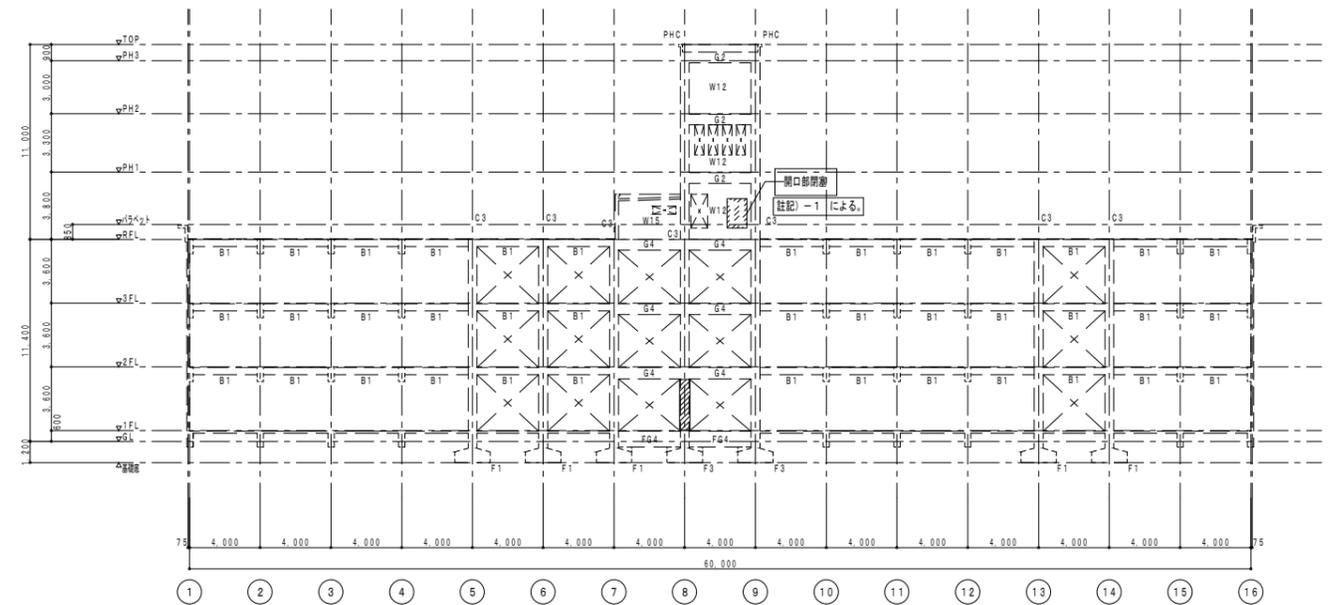


改修前 A 通り 軸組図 1/200



改修後 A 通り 軸組図 1/200

注) 特記なき限り、下記による。  
 1. 斜線部：既存壁撤去の後、W20 (t=200) 壁新設を示す。  
 開口寸法は、1,400x1,600  
 2. 斜線部：既存壁撤去の後、W18 (t=180) 壁新設を示す。  
 開口寸法は、1,200x1,400



改修後 A 通り 軸組図 1/200

注) 特記なき限り、下記による。  
 1. 斜線部：鋼板巻き立て補強の柱を示す。  
 2. 斜線部：W12 (t=120) 開口部新設を示す。

註記 - 1

W12 袖壁 新設

t=120

壁筋：縦 構造用D10-200シングル

柱筋：あと施工アンカー・D10-縦200シングル ナット付き

Ln=200 埋め込み長さ・L=80

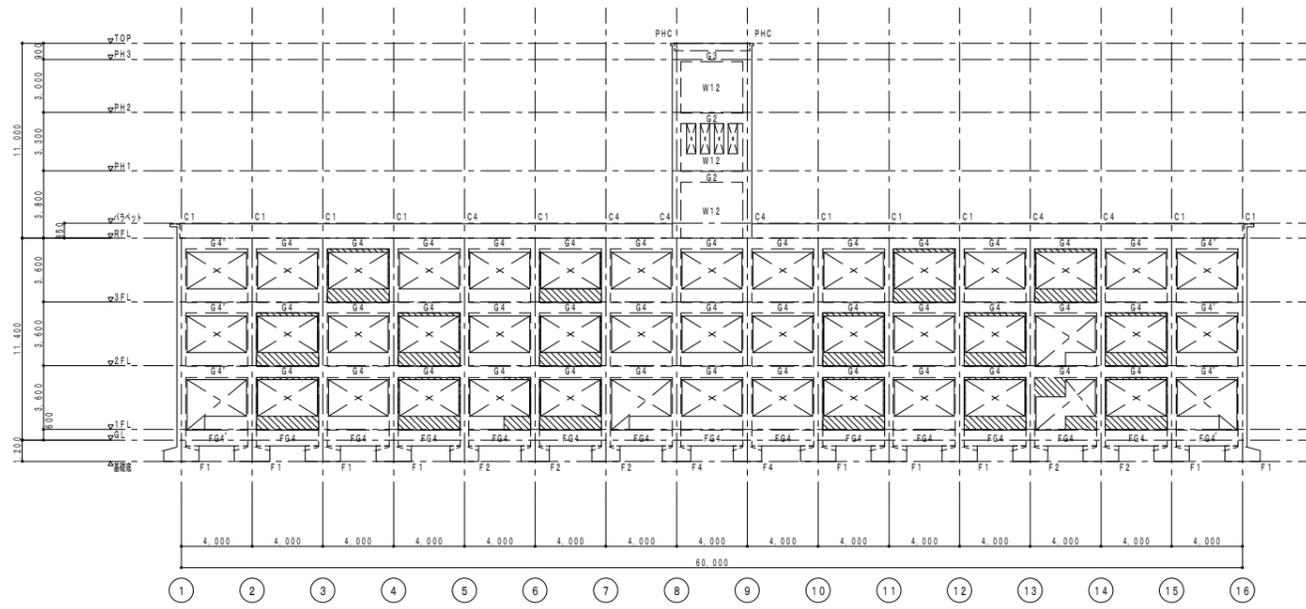
壁厚：200mm(ツリ出し、既存壁筋に併用10φ7フレア-溶接

扉部：スチール扉6φ@50径75

開口部新設  
 註記 - 1 による

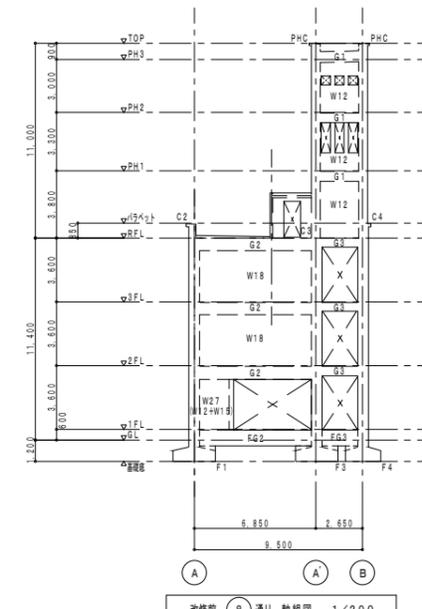
株式会社 飯島建築事務所  
 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-24) 第4813号  
 一級建築士 第242798号  
 構造設計一級建築士第5701号 森 隆寿

記 事	仙台高等専門学校	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	検 図	担 当	工事名称	日付	総数
												鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務			鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月
											株式会社 藤企図設計 管理建築士 一級建築士 (大匠) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	縮尺	番号
														改修前後 軸組図 - 1	1/200	S-16

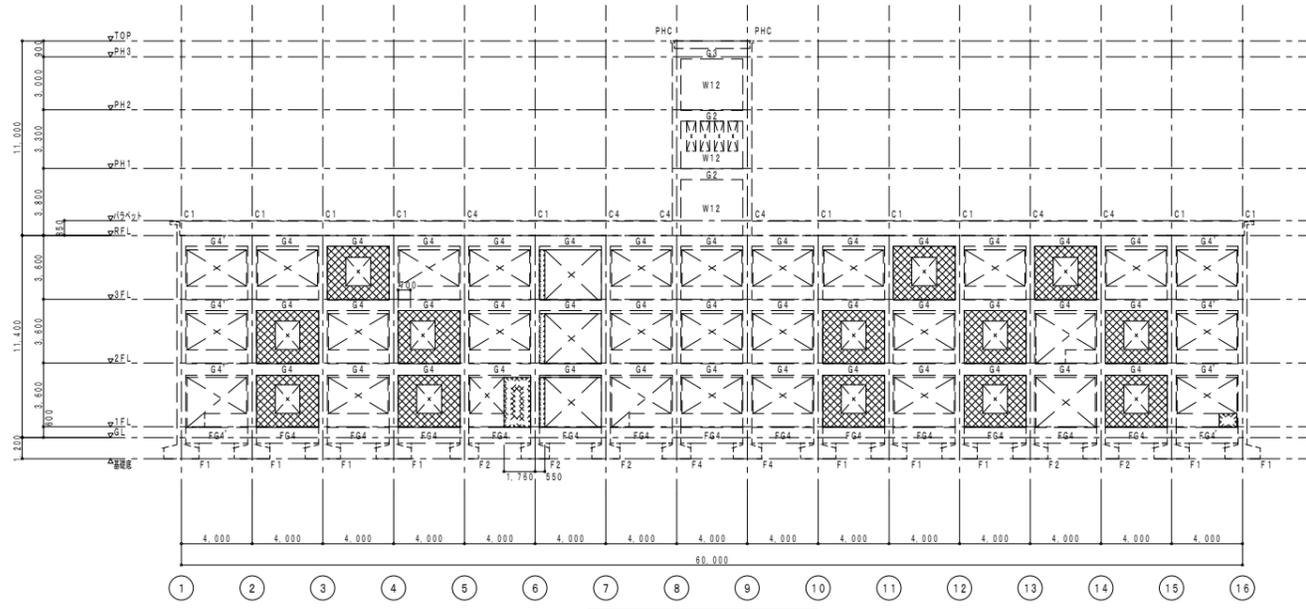


改修前 (B) 通り 軸組図 1/200

註) 特記なき限り、下記による。  
 1. 壁は、W15 (t=150) とする。  
 2. 斜線部: 既存壁 (W15) 撤去を示す。

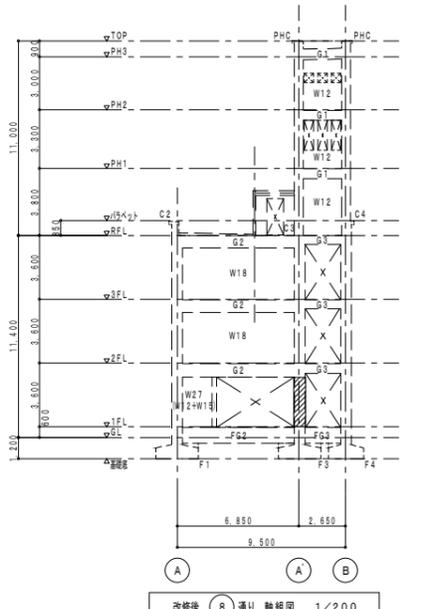


改修前 (B) 通り 軸組図 1/200



改修後 (B) 通り 軸組図 1/200

註) 特記なき限り、下記による。  
 1. 斜線部: 既存壁撤去の後、W20 (t=200) 壁新設を示す。開口寸法は、1,400x1,600  
 2. 斜線部: W15 (t=150) 袖壁及び、一部壁壁新設を示す。



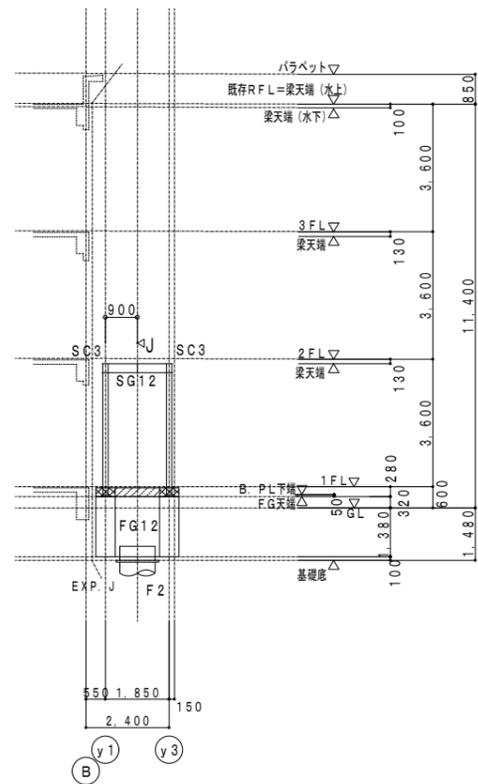
改修後 (B) 通り 軸組図 1/200

註) 特記なき限り、下記による。  
 1. 斜線部: 鋼板巻き立て補強の柱を示す。

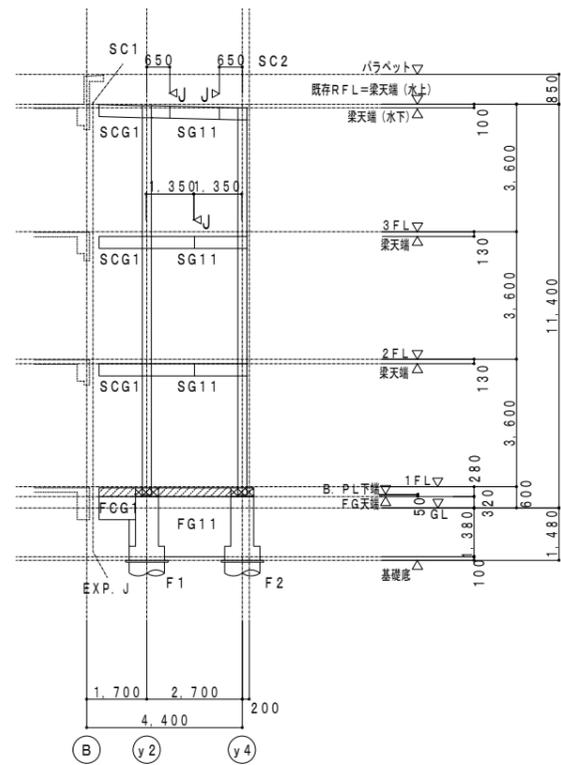
株式会社 飯島建築事務所  
 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-24) 第4813号  
 一級建築士 第242798号  
 構造設計一級建築士第5701号 森 隆寿

記 事	仙臺工業高等専門学校	施設課長	課長補佐	係長	担当	鈴鹿工業高等専門学校	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	校 園	担 当	工事名称	日付	総数
												鈴鹿工業高等専門学校改修設計等業務			鈴鹿工業高等専門学校改修の他工事	平成26年7月	104/109
												株式会社 練企画設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 犬飼 和行			改修前後 軸組図-2	縮尺	番号
															1/200	S-17	

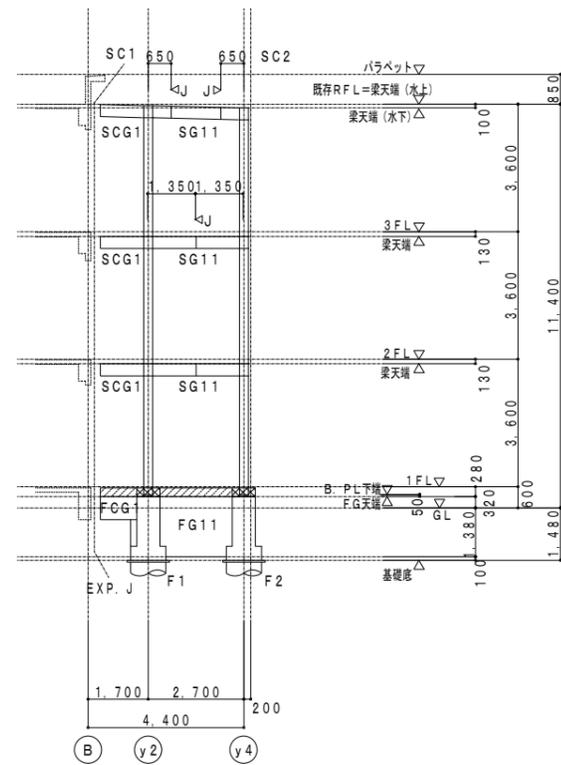
※図版の場合は50%縮尺とする



EV棟新設 (x1) 通り 軸組図 1/100

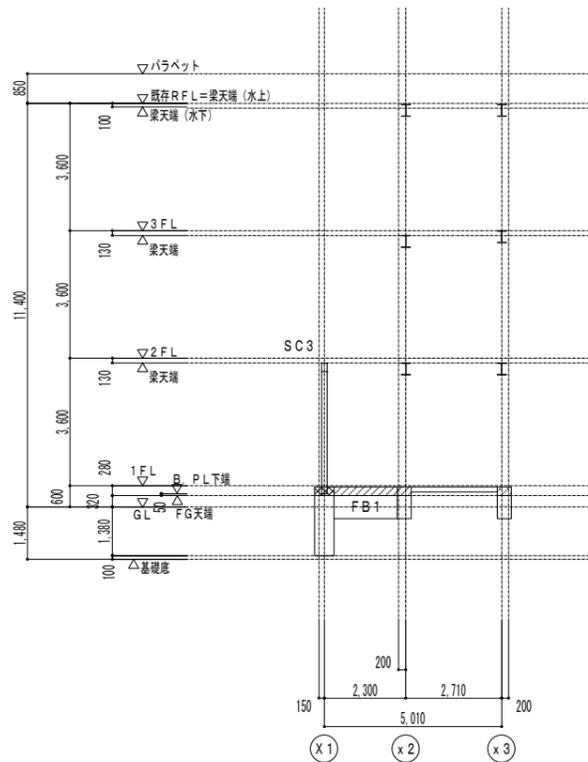


EV棟新設 (x2) 通り 軸組図 1/100

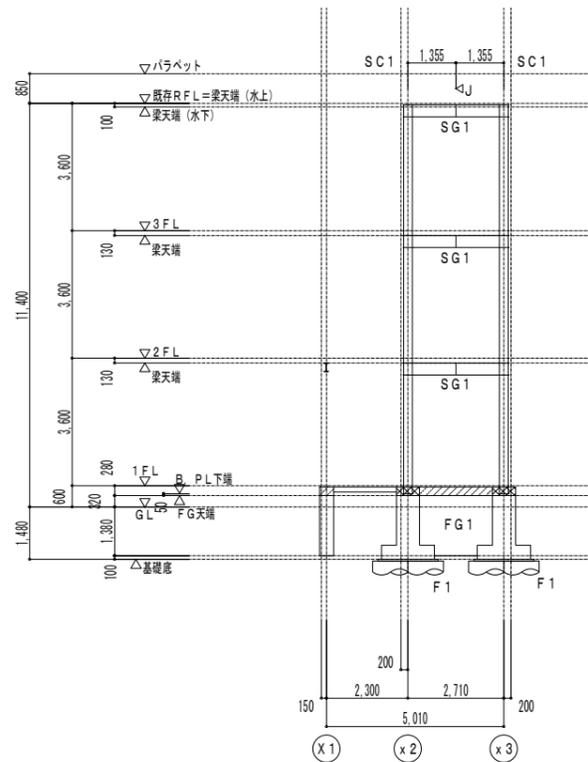


EV棟新設 (x3) 通り 軸組図 1/100

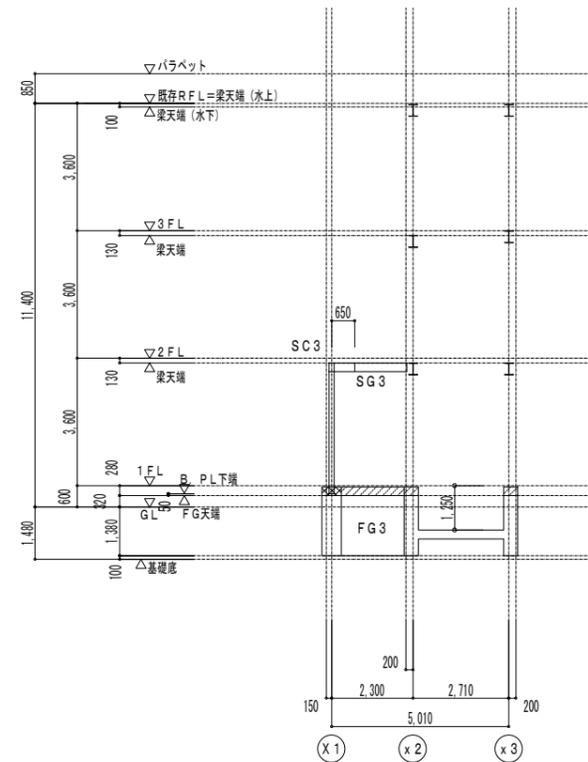
註) 特記なき限り、下記による。  
 1. 斜線部: 柱型上部打ち増しを示す。  
 2. 斜線部: 地中梁上部打ち増しを示す。



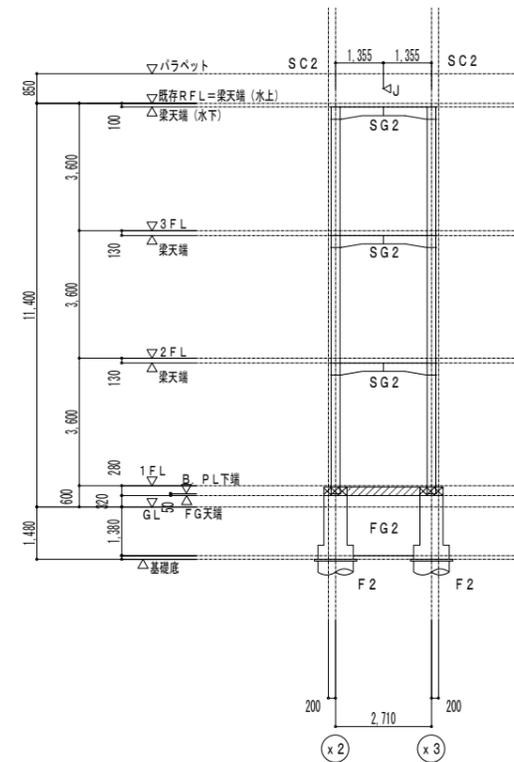
EV棟新設 (y1) 通り 軸組図 1/100



EV棟新設 (y2) 通り 軸組図 1/100



EV棟新設 (y3) 通り 軸組図 1/100



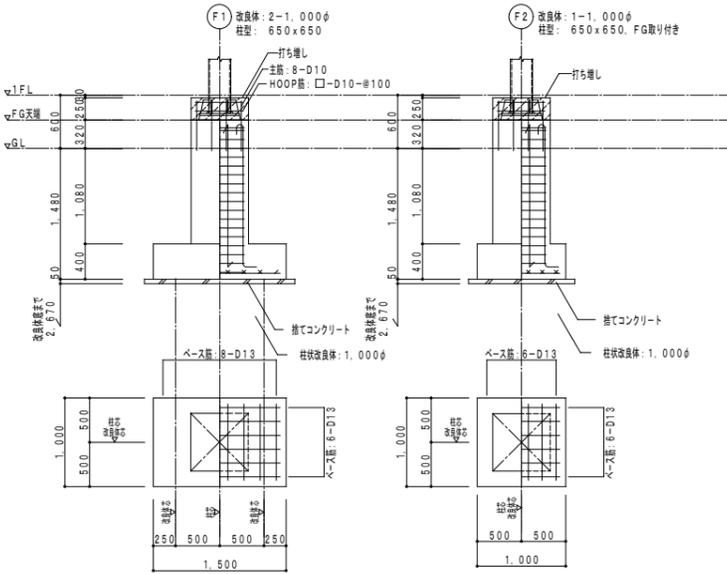
EV棟新設 (y4) 通り 軸組図 1/100

株式会社 飯島建築事務所  
 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-24) 第4813号  
 一級建築士 第242798号  
 構造設計一級建築士第5701号 森 隆寿

記 事	施設課長	課長補佐	係長	担当	鈴鹿工業高専専門学校	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務	検 図	担 当	工事名称	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	日付	平成26年7月	総数	105/109
												株式会社 練企画設計 管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 大綱 和行			図面名称	改修後 EV棟新設 軸組図	縮尺	1/100	番号	S-17A

※A3図の場合は50%縮尺とする

基礎リスト 1/40

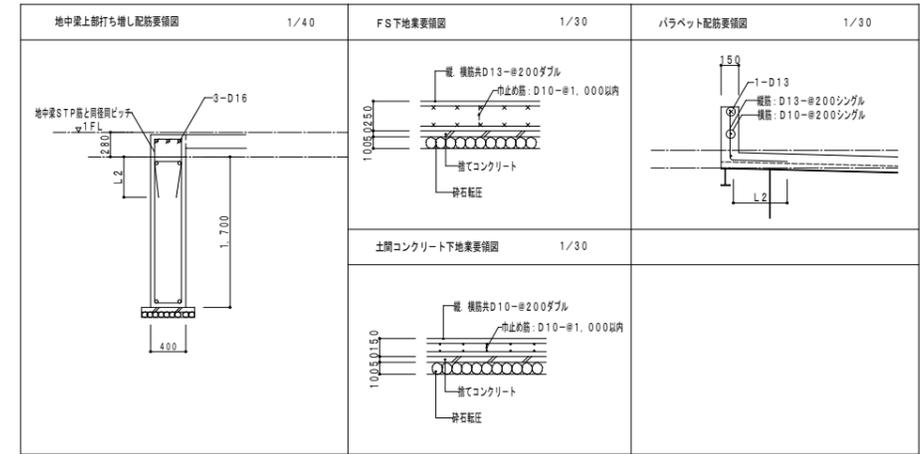


地中梁リスト 1/40 注) 巾止め筋: D10-#1, 000以内

符号	FG1, FG2, FG3	FG11, FG12	FCG1	FB1
位置	全断面	全断面	全断面	全断面
形状				
B x D	400 x 1,700	400 x 1,700	400 x 650	300 x 650
上端筋	3-D19	3-D19	3-D19	3-D16
下端筋	3-D19	3-D19	3-D19	3-D16
STP筋	□-D13-#200	□-D13-#200	□-D13-#200	□-D10-#200
腹筋	6-D13	6-D13	2-D13	2-D10

スラブリスト 注) 巾止め筋: D10-#1, 000以内

符号	板厚	位置	短辺方向		長辺方向		備考
			全域	全域	全域	全域	
FS1	t=250	上端筋	D13-#200	D13-#200	D13-#200	D13-#200	モリアミ配筋
		下端筋	D13-#200	D13-#200	D13-#200	D13-#200	
CS1	t=150	上端筋	D10-#100	D10-#100	D10-#200	D10-#200	片持ち式スラブ配筋
		下端筋	D10-#200	D10-#200	D10-#200	D10-#200	

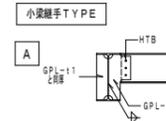


柱リスト			
符号	SC1	SC2	SC3
材種	BCR295	BCR295	BCR295
主材	3階	□-250x250x16	□-250x250x12
	2階	□-250x250x16	□-250x250x12
	1階	□-250x250x16	□-250x250x12
B. プレート形状 (1/30)			
	B. プレート	B. PL-25x450x450 (SN490C)	B. PL-19x350x350 (SN490C)
	A. ボルト	8-M22 (ABR400)	8-M22 (ABR400)
備考	L=660 ダブルナット締め	L=660 ダブルナット締め	L=480 ダブルナット締め
	Rib. PL-9 h=150 (SS400)	Rib. PL-9 h=150 (SS400)	Rib. PL-9 h=150 (SS400)
	柱型 (1/40)		
X x Y	650 x 650	650 x 650	550 x 550
主筋	12-D19	12-D19	12-D19
HOOP筋	□-D10-#100 (SD295)	□-D10-#100 (SD295)	□-D10-#100 (SD295)
備考	TOP筋 2-D13	TOP筋 2-D13	TOP筋 2-D13

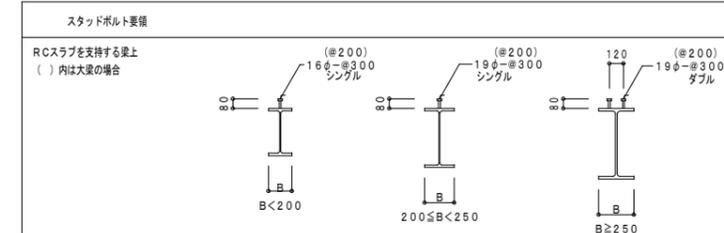
大梁リスト SS400											
符号	位置	SG1		SG2		SG3		SG11		SG12	
RG	全断面	H-340x250x9x14	SS400	H-244x175x7x11	SS400	—	—	H-340x250x9x14	SS400	—	—
3G	全断面	H-340x250x9x14	SS400	H-244x175x7x11	SS400	—	—	H-340x250x9x14	SS400	—	—
2G	全断面	H-340x250x9x14	SS400	H-244x175x7x11	SS400	H-250x125x6x9	SS400	H-340x250x9x14	SS400	H-250x125x6x9	SS400

継ぎ手リスト 注) 1. 建設省住宅用建築指導課監修 鉄骨構造標準接合部委員会SCSS-H97 に依る。 SS400 HTB. S10T									
主材	FLG継手			WEB継手		pc	継手呼称	備考	
	外添板	内添板	F <sub>n</sub>	添板	W <sub>n</sub>				
H-250x125x6x9	12x125x410	—	3x2-M16	6x170x290	2x2-M16	90	GGF-4X-J-2512-0609-16	継部ピン挿入 G. PL-9 HTB. 3x1-M20	
H-244x175x7x11	9x175x290	9x70x290	2x2-M20	9x140x170	2x1-M20	60	GGF-4X-J-2517-0612-20		
H-340x250x9x14	12x250x530	12x100x530	4x2-M20	9x200x290	3x2-M20	60	GGF-4X-J-3525-0916-20		

小梁継手リスト 特記なき限り、次項に依る。 1. 部材: SS400 ボルト: HTB. S10Tとする					
符号	主材	材種	G. PLATE	H. T. B	継ぎ手TYPE
sb15	H-150x75x5x7	SS400	G. PL-6	1x2-M16	A
2SG3	H-250x125x6x9	SS400	G. PL-9	3x1-M16	A
SCG1	H-340x250x9x14	SS400	工場溶接		



デッキスラブ リスト		
形状	仕様	備考
	かぶり厚 30 130 80 50 合成床版用デッキプレート 標準図による	UV射状防止筋 6φ-150x150

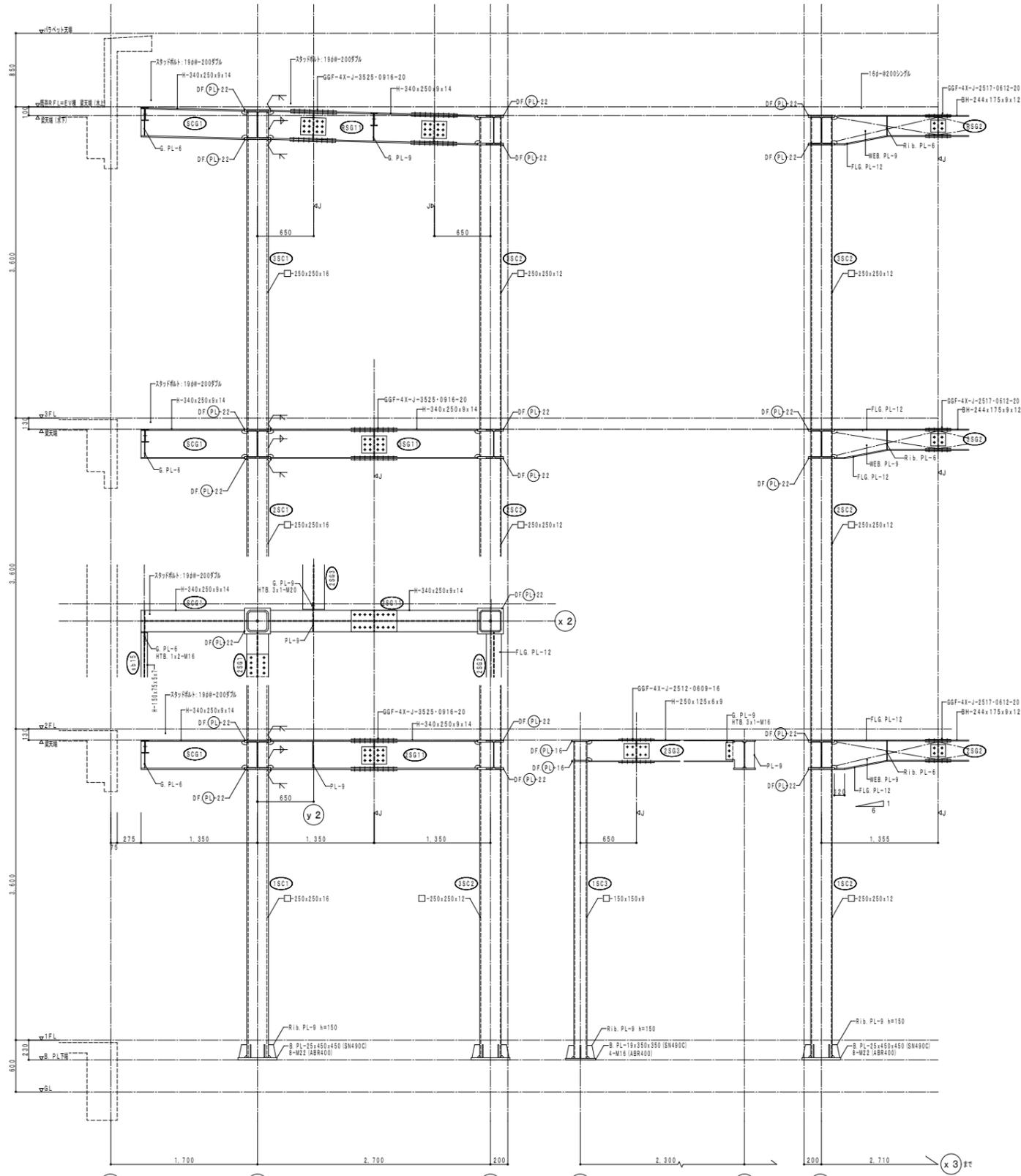


株式会社 飯島建築事務所  
 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-24) 第4813号  
 一級建築士 第242798号  
 構造設計一級建築士第5701号 森 隆寿

記 事	仙台商専門学校	施設課長	課長補佐	係長	担当	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	検 査	担 当	工事名称	日付	総数
											鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務			鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	平成26年7月	106/109
											株式会社 緑企画設計 管理建築士 一級建築士 (大匠) 第270315号 大綱 和行			図面名称	縮尺	番号
														EV棟 リスト	1/30 40	S-18

※A3版の場合は90%縮尺とする

- 注) 補綴の要り、下記による。
1. 材種 柱 BCR295 大梁 SS400 小梁 SS400
  2. DF(丸)は、SN490Cを指す。
  3. 鋼材は、表面処理を施す。
  4. ダイヤフラムは、L=25mm以上、UT検査を要する。
  5. 鋼材の接合部は、補綴する又はフランジ部の25%UPに補綴する。

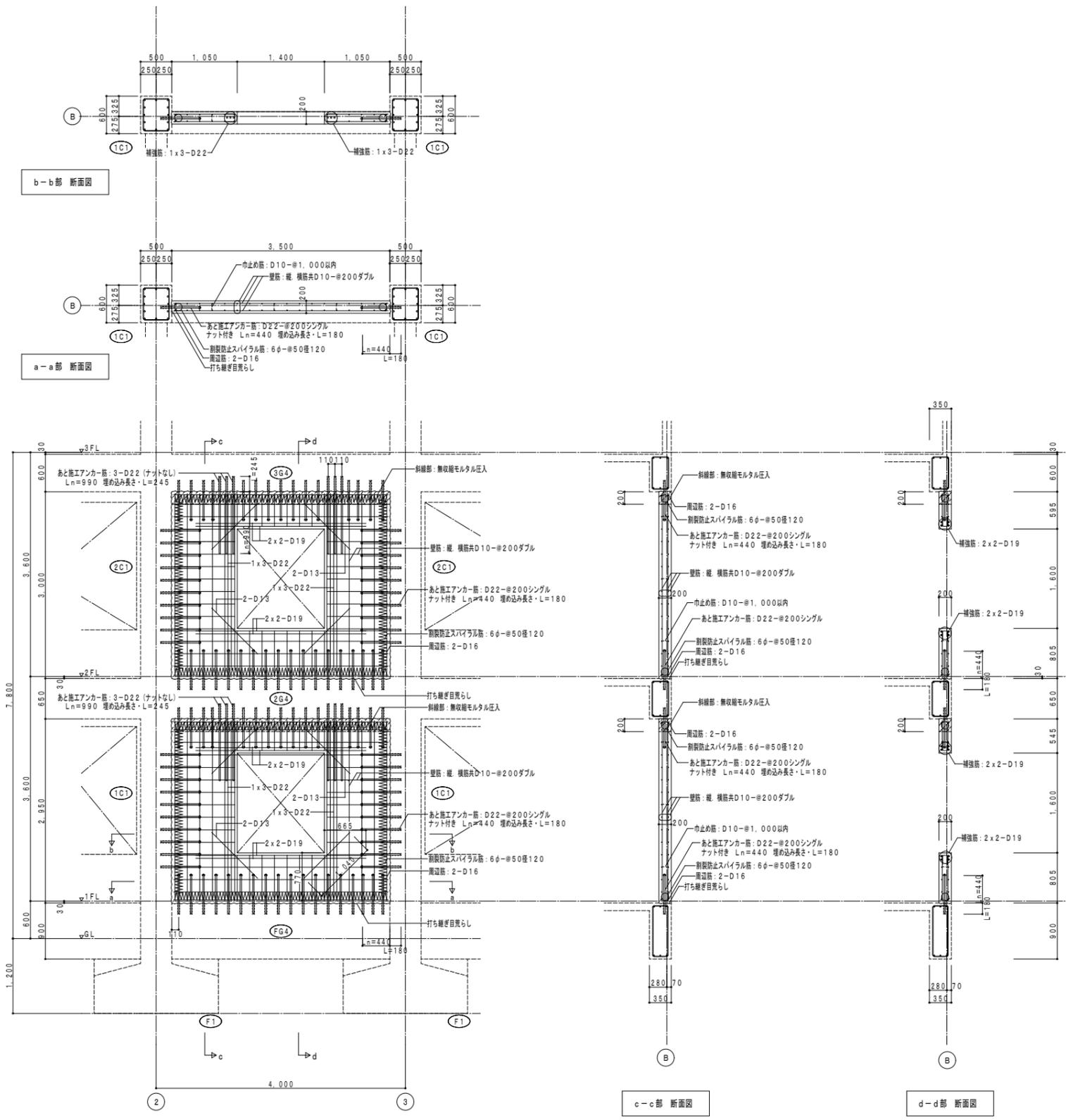


特記事項		
1. コンクリート	地中梁、基礎	$F_c = 21 \text{ N/mm}^2 + 3 \text{ N/mm}^2$
	土間コンクリート	$F_c = 21 \text{ N/mm}^2$
	捨てコンクリート	$F_c = 18 \text{ N/mm}^2$
2. 鉄筋	SD295A (D10~D16)	重ね継ぎ手
	SD345 (D19)	ガス圧接
3. 鉄骨	柱	BCR295
	梁	SS400
	ダイヤフラム	SN490C
	B. PL	SN490C
4. ボルト	M12以下	SS400 (中ボルト)
	M16以上	HTB S10T
5. 地耐力	250 kN/m <sup>2</sup> (長期)	

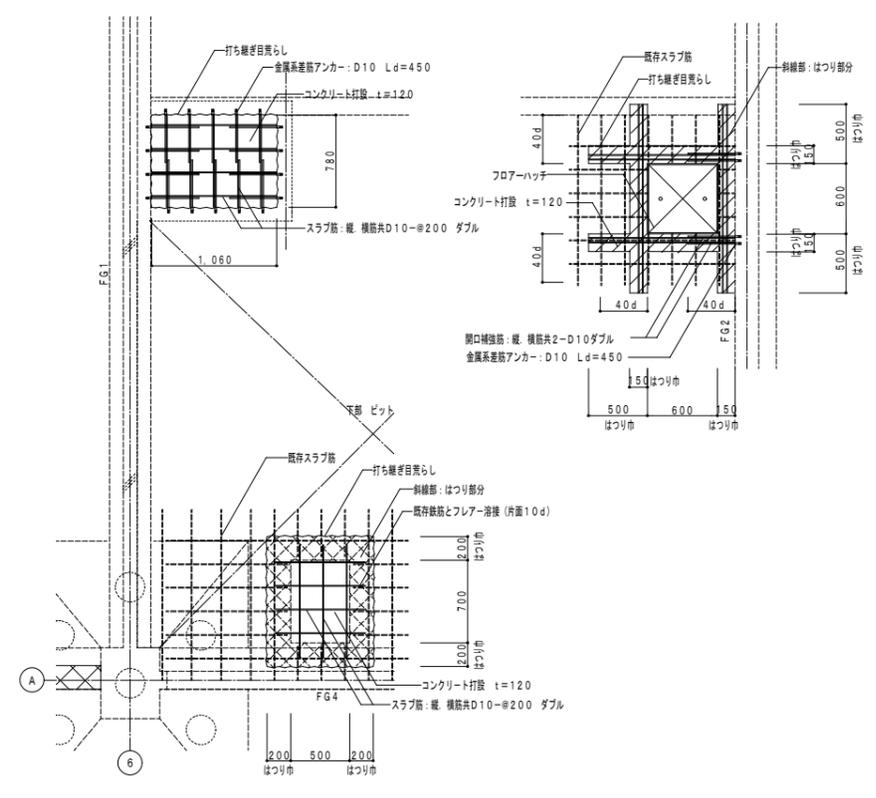
株式会社 飯島建築事務所  
 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-24) 第4813号  
 一級建築士 第242798号  
 構造設計一級建築士第5701号 森 隆寿

記 事	仙台高等専門学校	施設課長	課長補佐	係長	担当	鈴鹿工業高等専門学校	事務部長	総務課長	課長補佐	施設課長	担当	業務名	鈴鹿工業高等管理棟改修設計等業務	検 図	担 当	工事名称	鈴鹿工業高等管理棟改修その他工事	日付	平成26年7月	総数	107/109
													株式会社 緯企図設計	管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 犬飼 和行			図面名称	E V 棟 鉄骨詳細図	縮尺	1/30	番号

※A2版の場合は50%縮尺とする



既存壁撤去、W20 (t=200) 壁新設 配筋詳細図 1/40

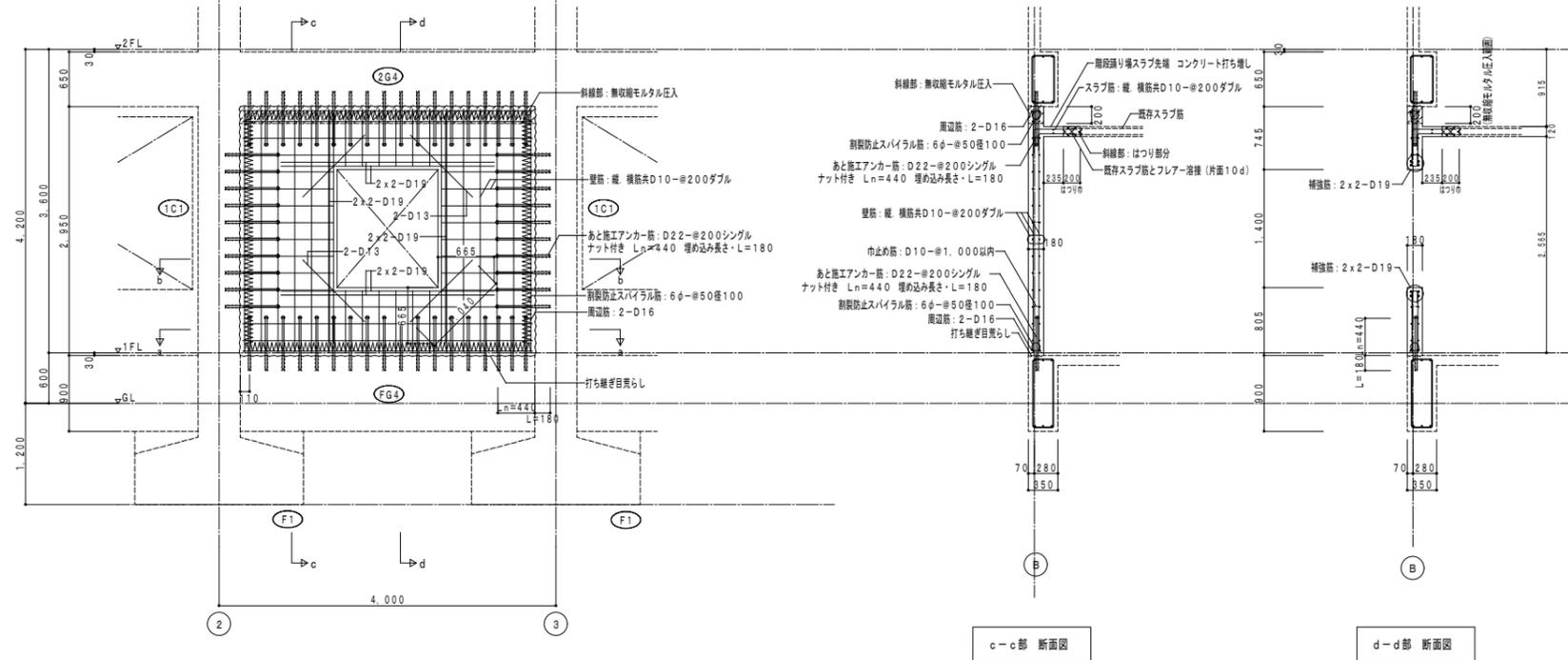
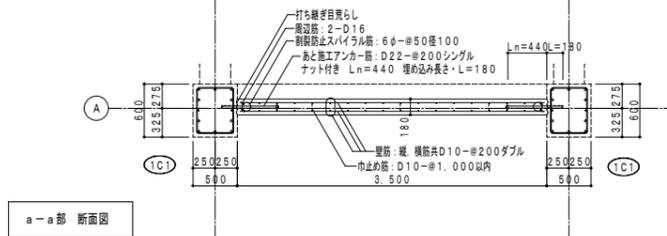
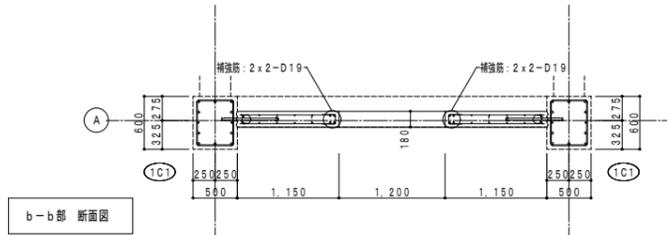


便所床 開口部遮ぎ 配筋要領図 1/30

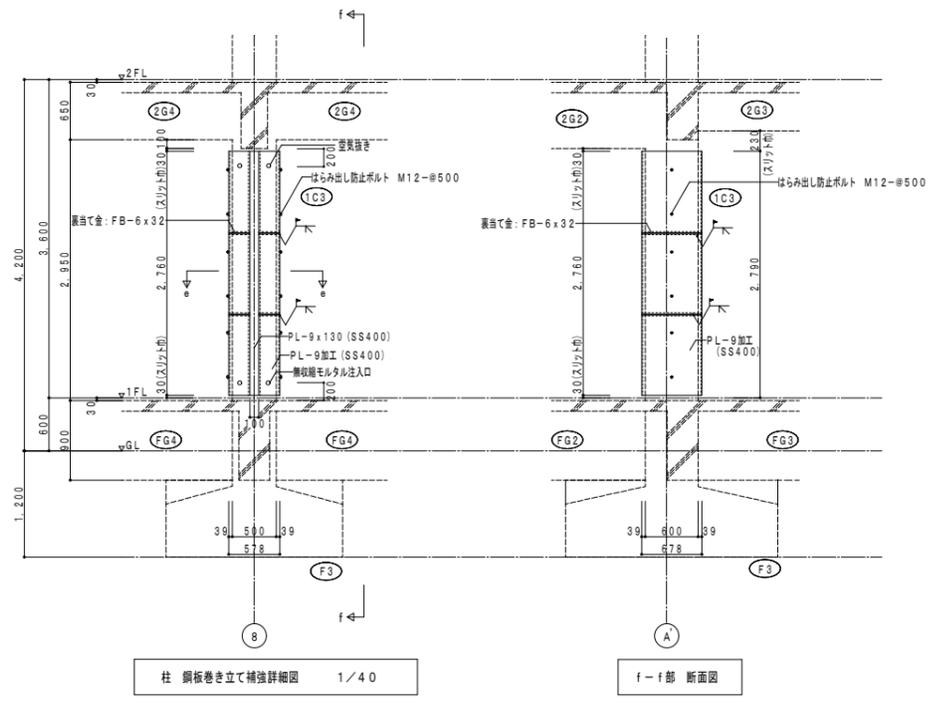
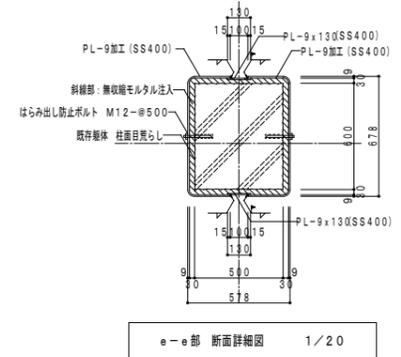
株式会社 飯島建築事務所  
 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-24) 第4813号  
 一級建築士 第242798号  
 構造設計一級建築士第5701号 森 隆秀

記 事	仙台高等専門学校	施設課長	課長補佐	係長	担当	鈴鹿工業高等専門学校	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高専管理棟改修設計等業務	検 図	担 当	工事名称	鈴鹿工業高専管理棟改修その他工事	日付	平成26年7月	総数	108/109
													株式会社 緑企画設計	管理建築士 一級建築士 (大匠) 第270315号 大 綱 和 行			図面名称	改修後 補強詳細図-1	縮尺	1/40	番号

※A3図の場合は50%縮尺とする



既存壁撤去、W18 (t=180) 壁新設 配筋詳細図 1/40



柱 鋼板巻き立て補強詳細図 1/40

株式会社 飯島建築事務所  
 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-24) 第4813号  
 一級建築士 第242798号  
 構造設計一級建築士第5701号 森 隆秀

記事	仙台高等専門学校	施設課長	課長補佐	係長	担当	鈴鹿工業高等専門学校	事務部長	総務課長	課長補佐	施設係長	担当	業務名	鈴鹿工業高等専門学校改修設計等業務	検 査	担 当	工事名称	鈴鹿工業高等専門学校改修その他工事	日付	総数
													株式会社 緑企画設計	管理建築士 一級建築士 (大臣) 第270315号 大 綱 和 行			改修後 補強詳細図-2	平成26年7月	109/109
																	縮尺	番 号	1/20

※A3版の場合は50%縮尺とする